

取扱説明書

YANMAR

ヤンマートラクター FORTE

AF-15/16/17/18



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本
取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、
事故を引き起こすおそれがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

ヤンマー
☆
シバウラ

ヤンマートラクターを お買い上げいただき、ありがとうございます。

はじめに

- この取扱説明書はヤンマートラクターの取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取り扱いいただき、最良の状態でご使用ください。
- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに当社または当社の特約店・販売店にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げいただきましたお店、またはお近くの特約店・販売店・農協にご相談ください。
-  印付きの下記マークは、安全上、特に重要な項目ですので、必ずお守りください。

危険

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

警告

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

注意

その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

- この取扱説明書には安全に作業していただくために、安全上のポイント「安全に作業するために」を記載してあります。使用前に必ずお読みください。

安全に作業をするために	4
サービスと保証について	24
公道走行とナンバープレートについて	25
仕様について	26
各部のなまえ	27
安全銘板の貼り付け位置	29
各部のはたらき	31

1

運転と作業のしかた	40
1. 作業前の点検	40
2. ならし運転(最初の50時間)について	43
3. エンジンの始動・停止のしかた	43
4. 作業機を上下させるには	45
5. 作業機の降下速度の調節のしかた	46
6. バックアップ装置の使いかた	47
7. 発進・停止・駐車 of のしかた	48
8. 道路走行のしかた	49
9. 坂道での運転のしかた	50
10. ほ場への出入りのしかた	51
11. 作業に適した速度の選びかた	51
12. ほ場での旋回のしかた	52
13. 一般の作業機を使う場合の 作業位置設定のしかた	54
14. ロータリー耕での 耕深設定のしかた	54
15. ロータリー耕うんのしかた	57
16. デフロックの使いかた	58
17. トラックへの積込み 積降のしかた	58
18. 後輪車輪幅(輪距)の調節のしかた	59
19. 油圧外部の取り出しかた	61
20. 外部電源取出端子について	62
21. 3点リンクについて	62
22. 作業機の取り扱いについての 注意事項	63
23. パワーステアリングについて	64
24. 下げクッション解除のしかた	65
25. 折りたたみ式安全フレームの 使いかた	65

2

OK-UFO仕様について(U仕様のみ)	67
1. 各部のなまえとはたらき	67
2. 基本的な使いかた	69
3. カテゴリ切換えスイッチ	70
4. センサ異常時の表示について	70
5. 使用後の手入れ	71

3

EG-UFO仕様について(U1仕様のみ)

72

1. 各部のなまえとはたらき.....72
2. 基本的な使い方.....74
3. カテゴリ切換えスイッチ.....75
4. センサ異常時の表示について.....75
5. 使用後の手入れ.....76

作業後の手入れについて

77

1. 作業後の手入れ.....77
2. ボンネット・サイドカバーの開閉のしかた.....77
3. 長期間使用しない場合の手入れ.....78

定期の点検・調整について

80

1. 定期点検一覧表.....81
2. オイル・グリス・不凍液一覧表.....82
3. 給油・給水一覧表.....82
4. 燃料の点検・給油のしかた.....83
5. 各部オイルの点検・交換のしかた.....83
6. 各部エレメントの交換のしかた.....85
7. 冷却水の点検・交換のしかた.....87
8. 燃料の空気(エア)抜きのしかた.....88
9. ラジエータスクリーンとエアクリーナエレメントの掃除・交換のしかた.....88
10. バッテリーの点検のしかた.....89
11. パイプ類の点検について.....89
12. 電気配線の点検について.....90
13. グリサップ(注入)について.....90
14. ブレーキの点検・調整について.....91
15. クラッチの点検・調整について.....92
16. ハンドルの点検・調整について.....92
17. ファンベルトの点検・調整について.....93
18. トーインの点検・調整について.....93
19. ヒューズ・ヒューズブルリンクの点検・交換について.....94
20. タイヤの点検について.....95
21. 排気ガスの色について.....95

不調診断

96

1. エンジン関係.....96
2. クラッチ・ブレーキ関係.....98
3. 油圧関係.....98
4. 電装関係.....99
5. ロータリ関係.....100

用語解説

101

仕様

102

標準付属品

107

国検検査成績表

108

配線図

110

1

2

3

4

5

6

7

安全に作業をするために

ここに記載されている注意項目を守らないと、
死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

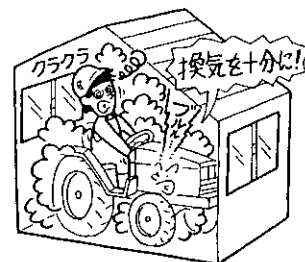
● 一般的な注意項目

▲ 警告 排気ガスには十分に注意する

締め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。
エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

【守らないと】

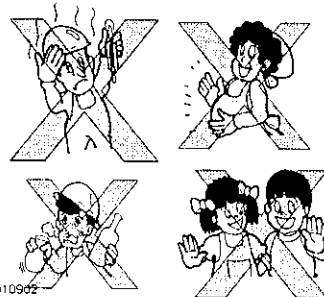
排気ガスによる中毒を起し、死亡事故にいたるおそれがあります。



2010901

▲ 警告 こんなときは運転しない

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 18才未満の人。



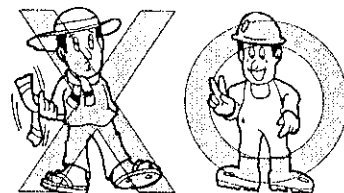
2010902

▲ 警告 作業に適した服装をする

はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した防護具などを付け、だぶつきの無い服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。



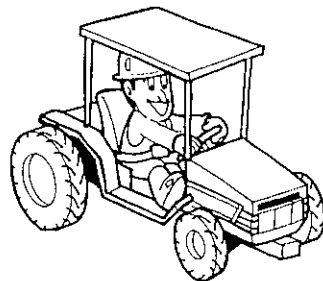
2010903

▲ 警告 シートベルトを必ず装着する

安全フレームを立て、確実に固定し、シートベルトを締めてください。キャビン仕様はシートベルトを締めてください。

【守らないと】

転落・転倒事故をおこした場合に、死亡または重傷を負うおそれがあります。



2010904

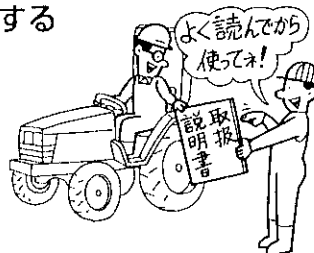
▲ 警告

機械を他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



2010905

▲ 警告

運転者以外に人を乗せない

このトラクターの乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。

【守らないと】

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



2010905

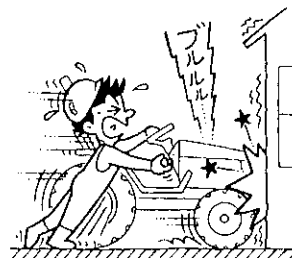
▲ 警告

**エンジン始動時は必ず運転席にすわり
周囲の安全確認をする**

エンジン始動時は必ず運転席にすわり、シートの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



2010955

▲ 注意 マフラの高温に注意

運転中およびエンジン停止直後の、マフラは高温ですので、触れないでください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2010970

▲ 注意 機械の改造禁止

純正部品や指定以外のアタッチメントを取り付けないでください。

改造をしないでください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。



2010907

▲ 注意 点検・整備をおこなう

機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。特に、クラッチ・ブレーキ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備してください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。



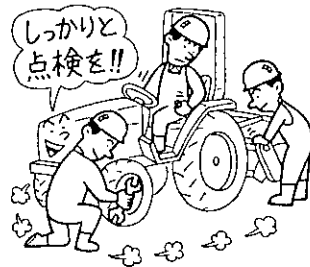
2010908

▲ 注意 定期点検整備を受ける

1年毎に定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。特に、パワーステアリングのホース、ブレーキのホースは2年毎に交換してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。



2010908

●作業前後の確認時の注意項目

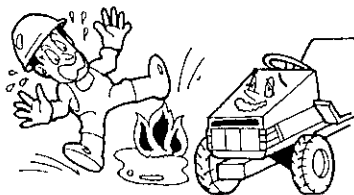
⚠ 危険

注油・給油はエンジンが冷めてからおこなう

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれがあります。



2010910

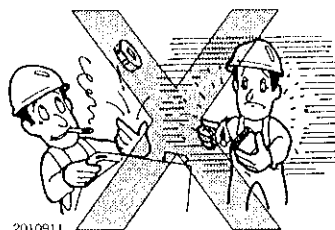
⚠ 危険

燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明は、絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料に引火し、火災をおこすおそれがあります。



2010911

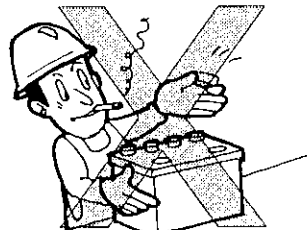
⚠ 危険

バッテリー点検時は火気厳禁

バッテリーの点検・充電時は火気厳禁です。

【守らないと】

バッテリーに引火、爆発してヤケドなどを引きおこすおそれがあります。



2010913

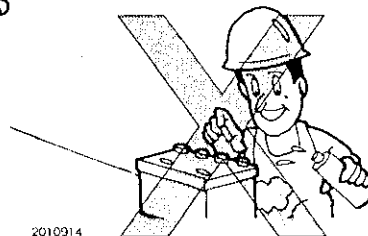
⚠ 危険

バッテリー液は体につけないようにする

バッテリー液を身体や服につけないようにしてください。
万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

【守らないと】

ヤケドをしたり、服が破れるおそれがあります。



2010914

⚠ 危険

燃料もれに注意

燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。



2010915

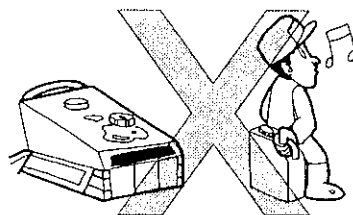
⚠ 危険

燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。



2010916

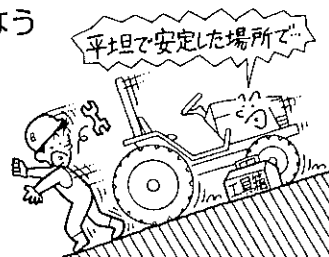
⚠ 警告

点検整備は平坦で安定した場所でおこなう

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクターの前輪には車止めをして点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



2010922

⚠ 警告

マフラー・エンジン周りのゴミは取り除く

マフラーやエンジン周辺部にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。



2010924

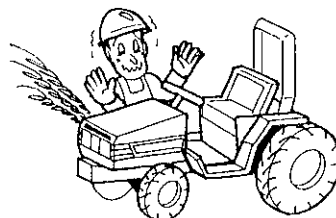
▲ 警告

電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災事故をおこすおそれがあります。



2010925

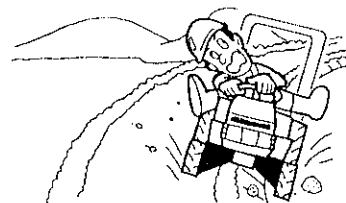
▲ 警告

ブレーキ・ハンドルの点検を必ずおこなう

ブレーキのききが悪かったり、片ききがないように、またハンドルに著しいガタや遊びがないように、点検をしてください。

【守らないと】

事故を引き起こすおそれがあります。



2010926

▲ 注意

バッテリーの取り付け取外しは正しい手順でおこなう

バッテリーの取り付けるときは十側をさきに取り付け、取り外すときは一侧から取外します。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災事故を引き起こすおそれがあります。



2010917

▲ 注意

点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。



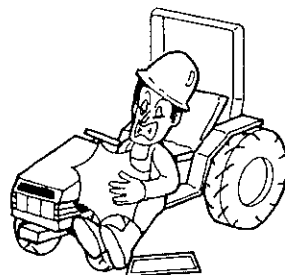
2010919

▲ 注意 カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010920

▲ 注意 点検整備は過熱部分が充分冷めてからおこなう

マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2010921

▲ 警告 高圧オイルに注意

油圧の継手やホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、継手やホースをはずす前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



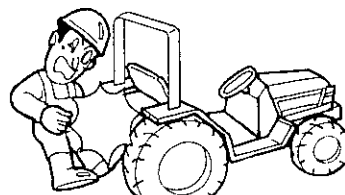
2010967

▲ 注意 使用していないPTO 軸にはカバーつける

PTO 軸を使用しないときは、グリスを塗りカバーを付けておいてください。

【守らないと】

巻き込まれたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。



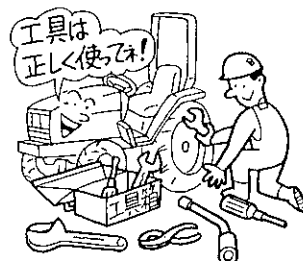
2010944

▲ 注意 目的に合った工具を正しく使用する

点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。また点検調整に必要な工具はトラクターに常備しておいてください。

【守らないと】

整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。



2010927

● 作業機に関する注意項目

▲ 警告 作業機の着脱は平坦な場所で行う

作業機の着脱は、平坦で安定した場所でおこなってください。
夜間は、適切な照明をしてください。

【守らないと】

事故を引き起こすおそれがあります。



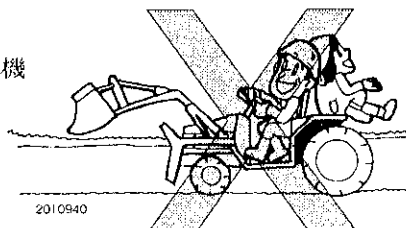
2010939

▲ 警告 人や物をウエイト代りにしない

バランスウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純性のバランスウエイトを使用してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010940

▲ 警告 トラクターと作業機の周辺に人を近づけない

トラクターを移動して作業機と着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010941

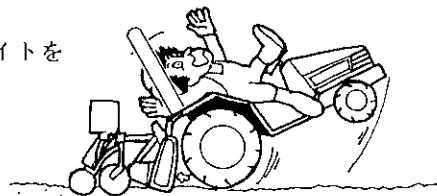
▲ 警告

重い作業機を付けるときはウエイトでバランスを取る

重い作業機を装着したときは、フロントにバランスウエイトを付けて、バランスを保ってください。

【守らないと】

バランスを崩し事故を引き起こすおそれがあります。



2010942

▲ 警告

**トラクターに作業機を装着する時は、
作業機の取扱説明書を必ず読む。**

トラクターに作業機を装着する時は、事前に必ず取扱説明書をよく読んでください。

【守らないと】

傷害事故や機械の破損をひきおこします。

▲ 警告

**傾斜地やけん引作業をするときは、
輪距（左右のタイヤ間の幅）を広くする。**

【守らないと】

転倒事故を引き起こすおそれがあります。



2010943

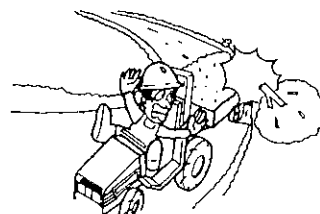
▲ 警告

作業機を付けたときは旋回に注意

作業機によってはかなりの長さになるものがありますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。

【注意しないと】

作業機が衝突したりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010945

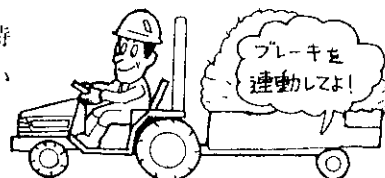
▲ 警告

トレーラをけん引するときの注意

トレーラ側のブレーキとトラクターのブレーキを連動（大型特殊自動中）してください。また、坂道での変速は絶対にしないでください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010947

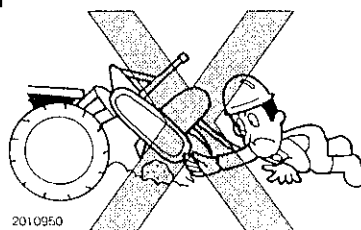
▲ 警告

作業機の下にもぐったり、足を入れない

作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

何かの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を負うおそれがあります。



2010950

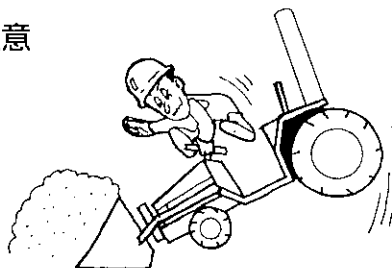
▲ 警告

ローダー作業時は前後バランスに注意

ローダー作業時は、前後のバランスを保ってください。

【守らないと】

バランスを崩し転倒事故を引き起こすおそれがあります。



2010951

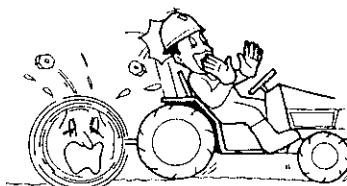
▲ 警告

作業機指定の PTO 回転を守る

低速回転用の作業機を高速回転で使用しないでください。作業機指定の PTO 回転速度を厳守してください。

【守らないと】

作業機が異常作動し、事故や機械の破損を引き起こします。



2010956

● 運搬時の注意項目

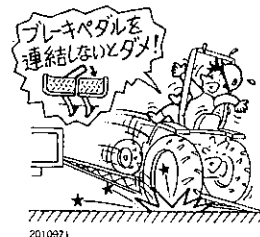
⚠ 危険

積込み、積降し時は左右のブレーキペダルを連結する

積込み、積降し時は、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

【守らないと】

緊急時ブレーキ操作を行った際、ブレーキが片ぎきして転落などの事故を引き起こします。



⚠ 警告

あゆみ板の上では、だ性運転はしない

あゆみ板の上での走行は十分注意しておこなってください。

クラッチを踏んだり、主変速、副変速・リバーサを「中立」位置にしてのだ性運転はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下がり、転落などの事故をまねくおそれがあります。



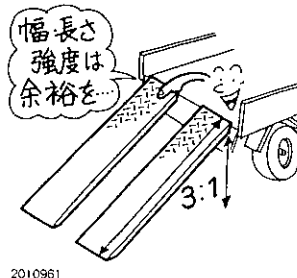
⚠ 警告

強度・長さ・幅の充分あるあゆみ板を使用する

積込み、積降しをするときは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け車止めをしてください。使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が充分あり、スリップのしないものを選んでください。

【守らないと】

転落などの事故を引き起こすおそれがあります。



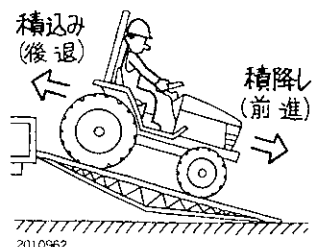
⚠ 警告

登るときは後退、降りるときは前進でおこなう

トラックに積込むときは後退で、降りるときは前進でおこなってください。

【守らないと】

バランスを崩し、転落などの事故を引き起こすおそれがあります。



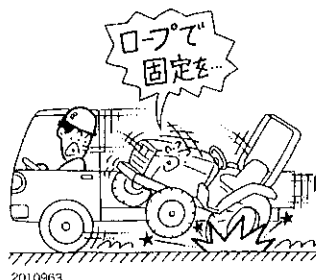
▲ 警告

ロープでトラックに確実に固定する

トラックにのせて移動するときは、駐車ブレーキを掛け、ギヤを入れて強度の充分あるロープでトラックにトラクターを固定してください。

【守らないと】

荷台からトラクターが転落したりして、事故を引き起こすおそれがあります。



2010963

● 移動・ほ場出し入れ時の注意項目

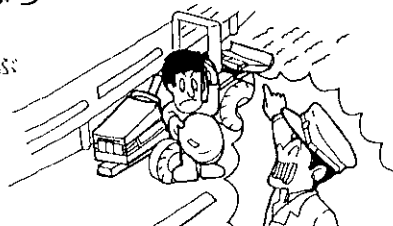
▲ 警告

関係法規を守り安全運転をおこなう

道路を走行するときは、関係法規を厳守し、ヘルメットをかぶってください。

【守らないと】

事故を引き起こすおそれがあります。



2010929

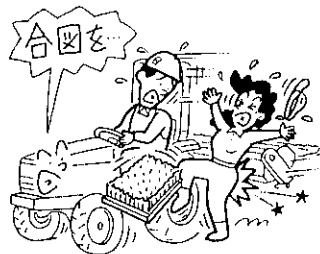
▲ 警告

**周囲の安全を確認して、
ゆっくりと発進する**

周囲の安全を確認してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

傷害事故をおこすおそれがあります。



2010929

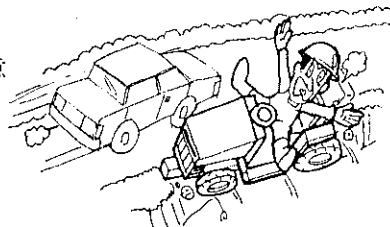
▲ 警告

移動時は路肩に注意

溝のある農道や両側が傾斜している農道では、路肩に充分注意してください。

【注意しないと】

転落事故をおこすおそれがあります。



2010931

警告

移動走行時は左右のブレーキペダルを連結する

移動走行時には、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

【守らないと】

ブレーキ操作の際、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。



2010932

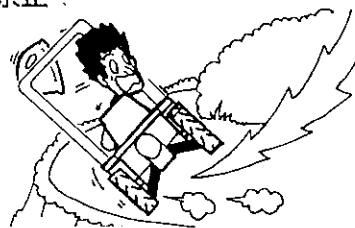
警告

急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ 禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、充分スピードを落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、充分速度を落としてください。

【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。



2010933

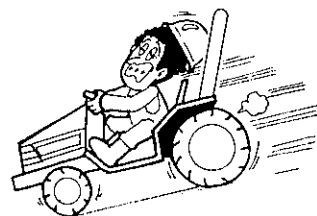
警告

坂道・あゆみ板の上では変速禁止

あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道やあゆみ板の上では、変速をしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、事故をおこすおそれがあります。



2010934

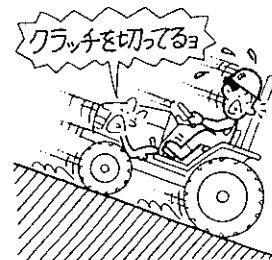
警告

坂道やあゆみ板の上では、だ性運転はしない

坂道やあゆみ板の上での走行は十分注意しておこなってください。クラッチを踏んだり、主変速、副変速・リバーサを「中立」位置にしてのだ性運転はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下がり、転落などの事故をまねくおそれがあります。



2010935

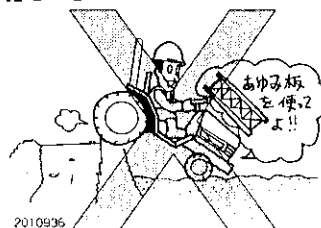
▲ 警告

溝・あぜを渡るときはあゆみ板を使用する

ほ場に入るとき、溝・あぜを渡るとき、軟弱な場所を通るとき、必ずあゆみ板を使用してください。あゆみ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による事故をおこすおそれがあります。



2010936

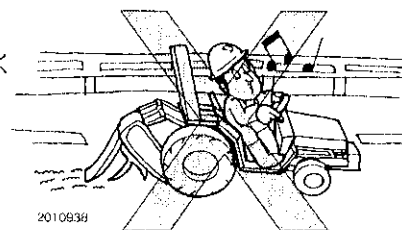
▲ 警告

公道走行時は作業機の装着禁止

公道走行をするときは、ロータリなどの作業機を取り外してください。

【守らないと】

道路交通法違反です。事故を引きおこすおそれがあります。



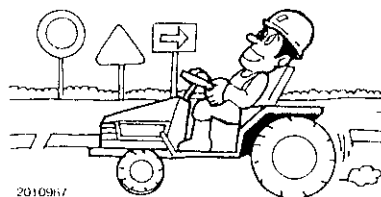
2010938

▲ 警告

公道走行をするときは道路交通法規を厳守してください

【守らないと】

事故をおこすおそれがあります。



2010937

▲ 注意

暖気運転中は駐車ブレーキを掛ける

【守らないと】

トラクターが自然に動きだし、事故をひきおこすおそれがあります。



2010937

●作業時の注意項目

▲ 警告

ハウス内での作業では換気を十分にする

排気ガスが充満しないように、十分に換気を行ってください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒を起し、死亡事故にいたるおそれがあります。



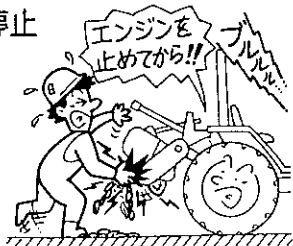
2010948

▲ 警告

爪に巻き付いた草などを取るときはエンジン停止

【守らないと】

機械に巻き込まれて、重傷を負うおそれがあります。



2010949

▲ 警告

子供を近づけない

子供には充分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010952

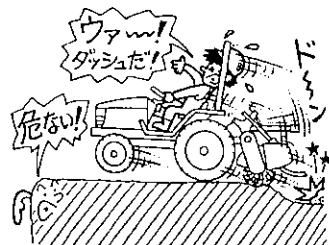
▲ 警告

ロータリ作業ではダッシュに注意

地面が硬かったり、石の多いところでは、ロータリをゆっくりと地面に降ろしてください。回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛出す（ダッシュ）ことがあります。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010953

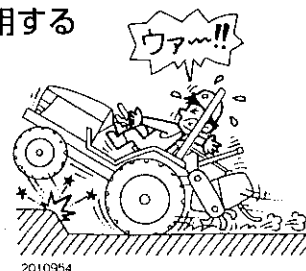
▲ 警告

あぜ越え、段差越えのときはあゆみ板を使用する

田・畑への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときはあゆみ板を使用し、地面に接地しない程度に作業機を下げ重心を低くしてください。

【守らないと】

バランスを崩して転倒するおそれがあります。

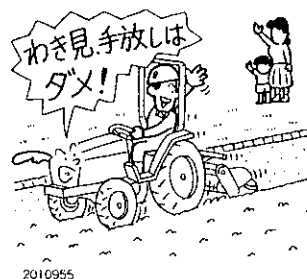


▲ 警告

わき見、手放し運転はしない

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



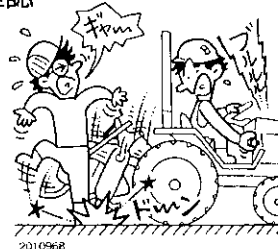
▲ 警告

エンジン始動時は、作業機が下がっているか確認

エンジン始動時は、ポジションレバー「最下」、オートロータリレバー「解除」にして、作業機が下がっていることを確認してください。

【守らないと】

作業機が不意に下り、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



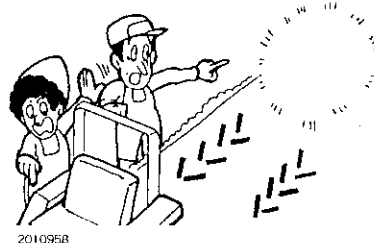
▲ 警告

機械から離れるときは平坦地に置き
エンジンを止める

機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け車止めをしてください。また、作業機は地面に接地してください。

【守らないと】

トラクターが動きだし、事故をおこすおそれがあります。

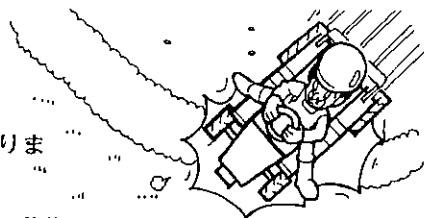


▲ 警告 旋回時はデフロックを切る

必ずデフロックを切って旋回してください。

【守らないと】

思うように旋回ができずに、事故を引き起こすおそれがあります。



2010957

▲ 警告 けん引作業はドローバを使用

けん引作業は必ずドローバを使用してください。トップリンク
やロアリンクなどでのけん引は絶対しないでください。

【守らないと】

転倒のおそれがあります。

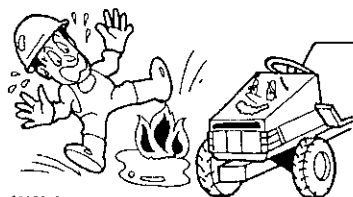
● 作業終了後・格納時の注意事項

▲ 危険 注油・給油はエンジンが冷めてからおこなう

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油し
ないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれがあります。



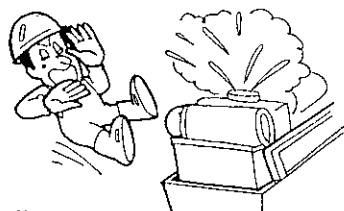
2010910

▲ 危険 ラジエタが熱いときはキャップを開けない

ラジエタが過熱しているときには、絶対にラジエタキャップを
開けないでください。

【守らないと】

熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。



2010912

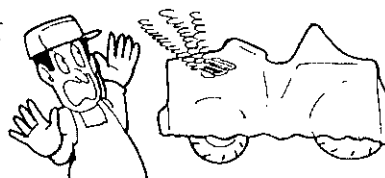
▲ 危険

シートは機械が充分冷めてからかける

機械にシートをかける場合は、マフラーやエンジンが充分冷えてからかけてください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。



2010965

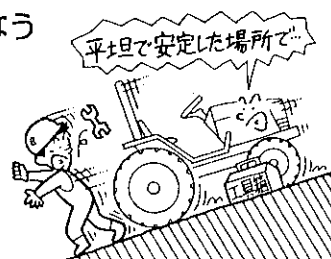
▲ 警告

点検整備は平坦で安定した場所でおこなう

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクターの前輪には車止めをして点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



2010922

▲ 警告

高圧オイルに注意

油圧の継手やホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、継手やホースをはずす前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



2010967

▲ 警告

マフラー・エンジン周りのゴミは取り除く

マフラーやエンジン周辺部にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。



2010924

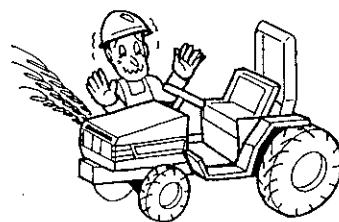
▲ 警告

電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災事故をおこすおそれがあります。



2010925

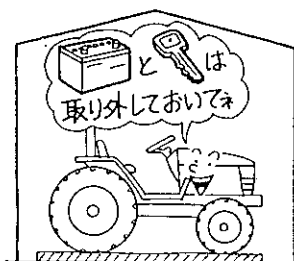
▲ 警告

長期格納時はバッテリーとキーを外す

長期間使用しないで格納する場合はバッテリーを取り外し、キーを抜き取り保管してください。

【守らないと】

事故を引き起こすおそれがあります。



2010964

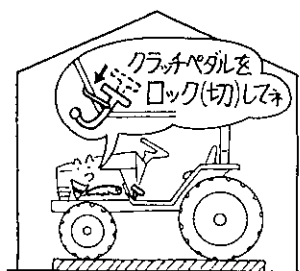
▲ 注意

長期格納時はクラッチを切っておく

長期間格納する際には、必ずクラッチペダルをロック「切」状態にしてください。

【守らないと】

クラッチが切れなくなり、事故を引き起こすおそれがあります。



2010969

▲ 注意

バッテリーの取り付け取外しは正しい手順でおこなう

バッテリーの取り付けるときは十側をさきに取り付け、取り外すときは一侧から取外します。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災事故を引き起こすおそれがあります。



2010917

▲ 注意 点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。



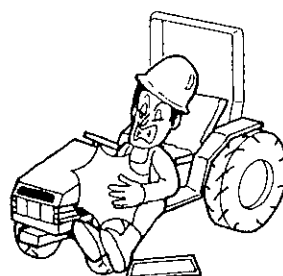
2010919

▲ 注意 カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010920

▲ 注意 点検整備は過熱部分が充分冷めてからおこなう

マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2010921

サービスと保証について

保証書について

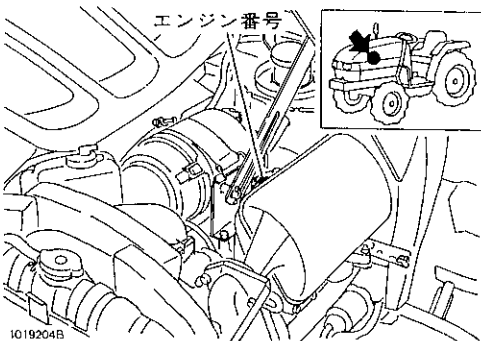
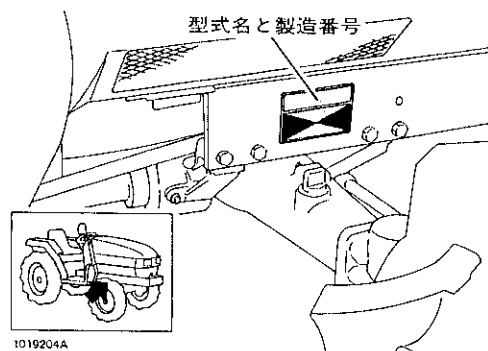
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに、96ページの「不調診断」に従って点検、処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、お近くの当社支店までご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
(何速で、どんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
(約□□アールまたは約□□時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えてください。



補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後12年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要望があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

トラクターの保証と点検整備

1) 弊社規定の点検整備表に従って、3回の点検整備を無料で受けることができます。(トラクター保証書を御参照願います。)

第1回目……納入直後(納品時の取り扱い運転指導を含む)

第2回目……納入後起算1ヶ月または、使用時間50時間のいずれか早い時期。

第3回目……納入後起算11ヶ月または、使用時間300時間のいずれか早い時期。

2) 第2回目、3回目の点検整備は、指定の時間、または期日がきたらご購入先販売店または農協に点検整備を申し込み、指定整備工場で点検整備を受けてください。

※上記指定の期日、または使用時間を過ぎた場合は、無料点検を受けられなくなります。

※エンジンおよび本機で封印されている所はさわらないでください。性能を大きく悪くするばかりか、封印が外れたと認められる場合は、一切の保証を受けられなくなります。

なお、詳しくは保証書をご覧くださいようお願いいたします。

公道走行とナンバープレートについて

公道走行をするためには

警告

- 公道走行するときは、道路交通法等の関係法規を厳守してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

このトラクターは、道路運送車両法の小型特殊自動車です。

- 公道を走行する場合は、小型特殊自動車の運転免許証が必要です。必ず免許証を所持してください。
- 勝手に構造や仕様を変更した場合は、小型特殊自動車の対象外になり、公道を走行することができなくなることがありますのでご注意ください。

小型特殊自動車の大きさ等

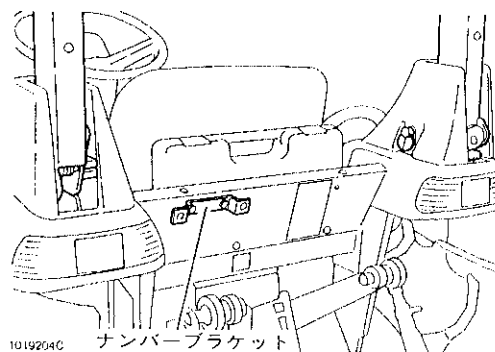
車体寸法	全 長	4.7m以下
	全 幅	1.7m以下
	全 高	2.0m以下
最 高 速 度		15km/h以下
内燃機関の総排気量		1500cc以下

- 作業機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。必ず作業機を取り外して走行してください。
- 作業により変更した輪距などは、必ず標準状態に戻してから走行してください。(59 ページ参照)

必ずナンバープレートの交付を受けてください

このトラクターは小型特殊自動車なので、公道走行をするしないにかかわらず、必ずトラクター取得の届け出を行ない、ナンバープレートの交付を受けてください。

交付されたナンバープレートは、ナンバープレート取付位置に取り付けてください。



〈届け出のしかた〉

小型特殊自動車販売証明書（各販売店・農協が発行します）ならびに、小型特殊自動車届け出書に軽自動車税を添えて、市町村役場へ提出してください。

※市町村により、手続きが多少異なりますので詳しくは、販売店または農協にご相談ください。

損害賠償保険について

農耕作業用小型特殊自動車は、自動車損害賠償保険法第2条の「自動車」から省かれ、強制保険の対象から除外されております。万一の場合を考えて自動車保険の契約を希望される場合は、自動車共済、または任意自動車保険にご加入ください。

仕様について

仕様について

本機には下記の仕様があり、取扱説明書の内容で、仕様によっては該当しない項目もありますので、ご了承ください。

本書では形式仕様の異なる製品を次のように表示しています。

安全フレーム仕様Y
OK-UFO 仕様U
EG-UFO 仕様U1
果樹園仕様F
ハイグリップ仕様V
逆転PTO 仕様B
微速仕様R

パワーステアリング仕様P
ターフ仕様T
クイックヒッチ仕様K
センターロータリー仕様C
サイドロータリー仕様S
※ロータリーにつきましては、ロータリーの取扱説明書をご覧ください。

本製品の使用目的について

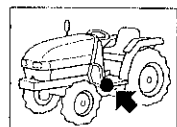
本製品は、ほ場においてのロータリー耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業および路上でのトラクタけん引作業にご使用ください。

使用目的以外の作業や改造などは決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。

(詳細は、保証書をご覧ください。)

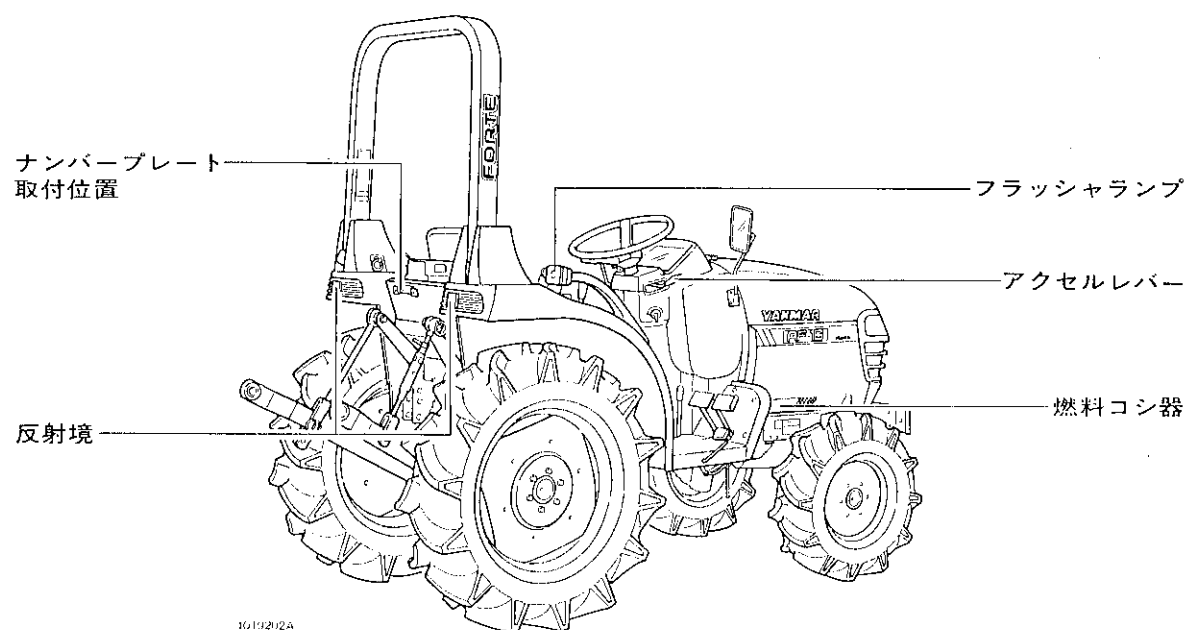
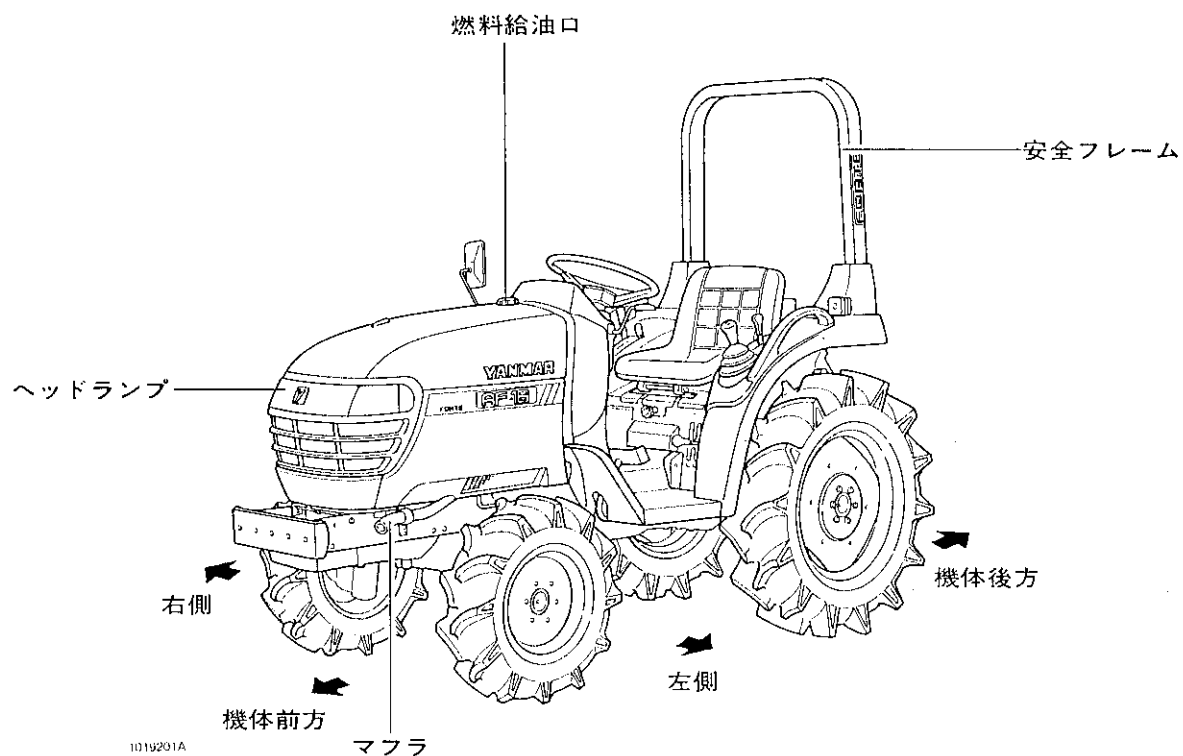
方向・位置マークについて



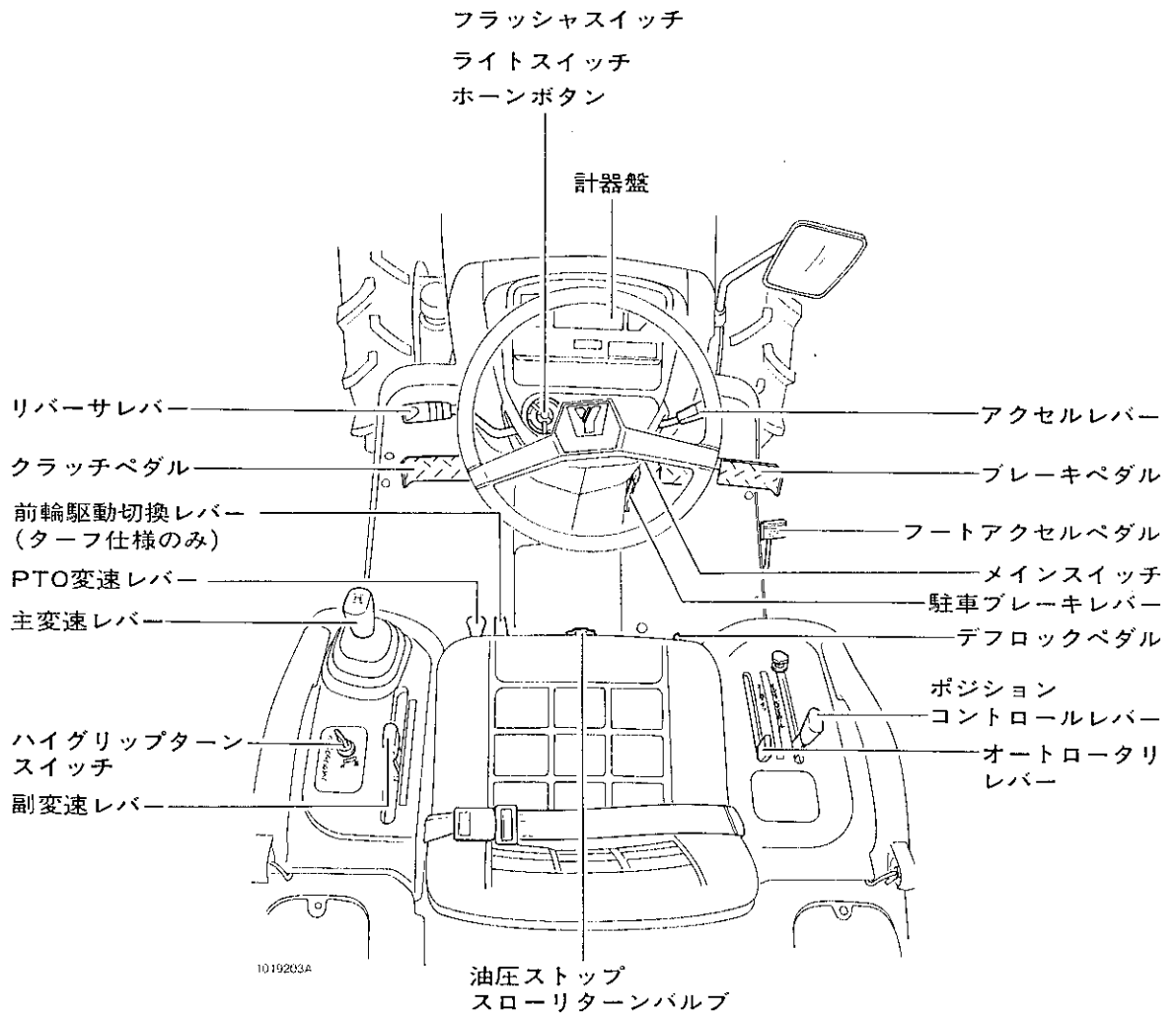
本機のどの位置にあるか、
「見ている方向(←印)」と
「位置(●印)」をあらわしています。

各部のなまえ

この取扱書の説明図は、本機AF-16を基準にしています。



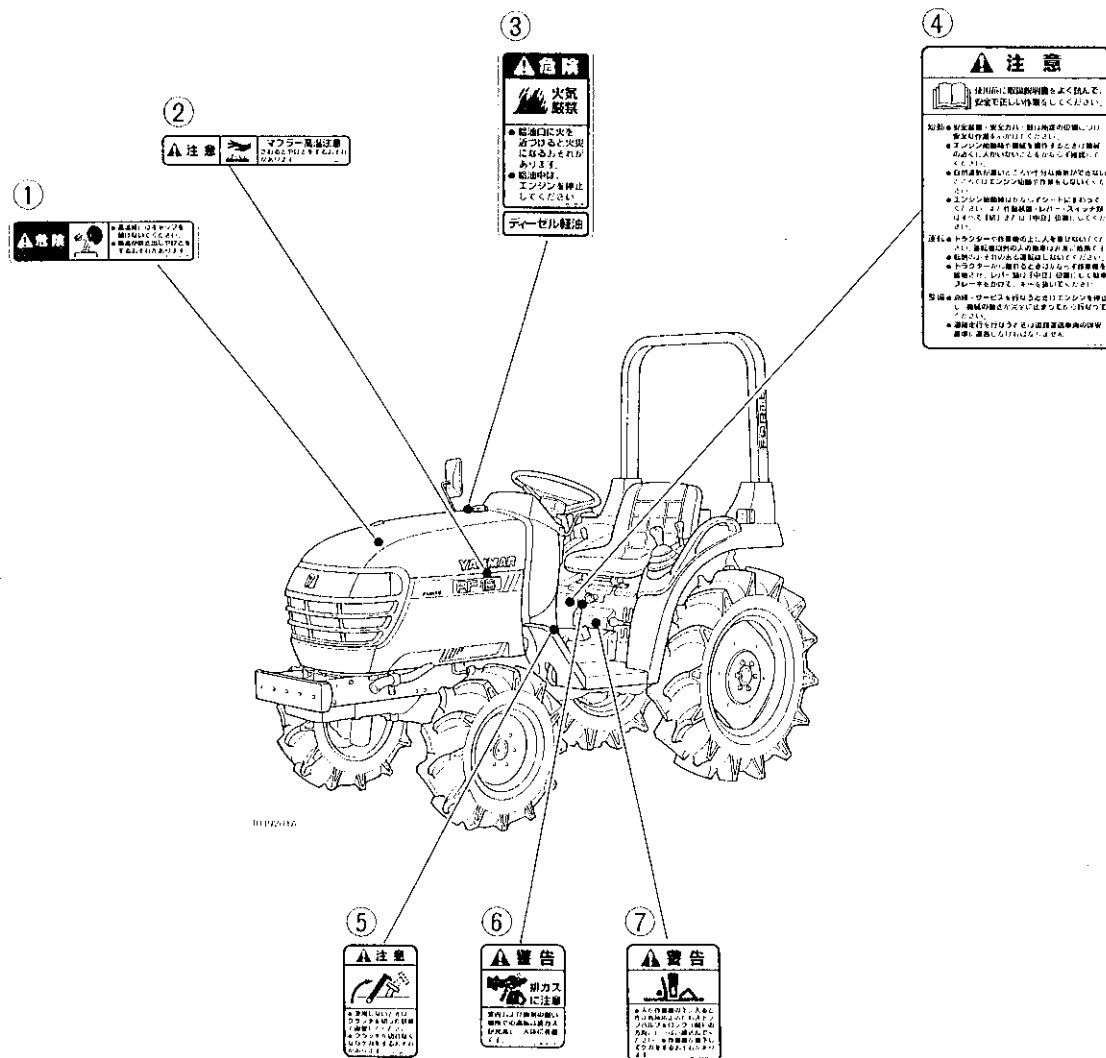
各部のなまえ



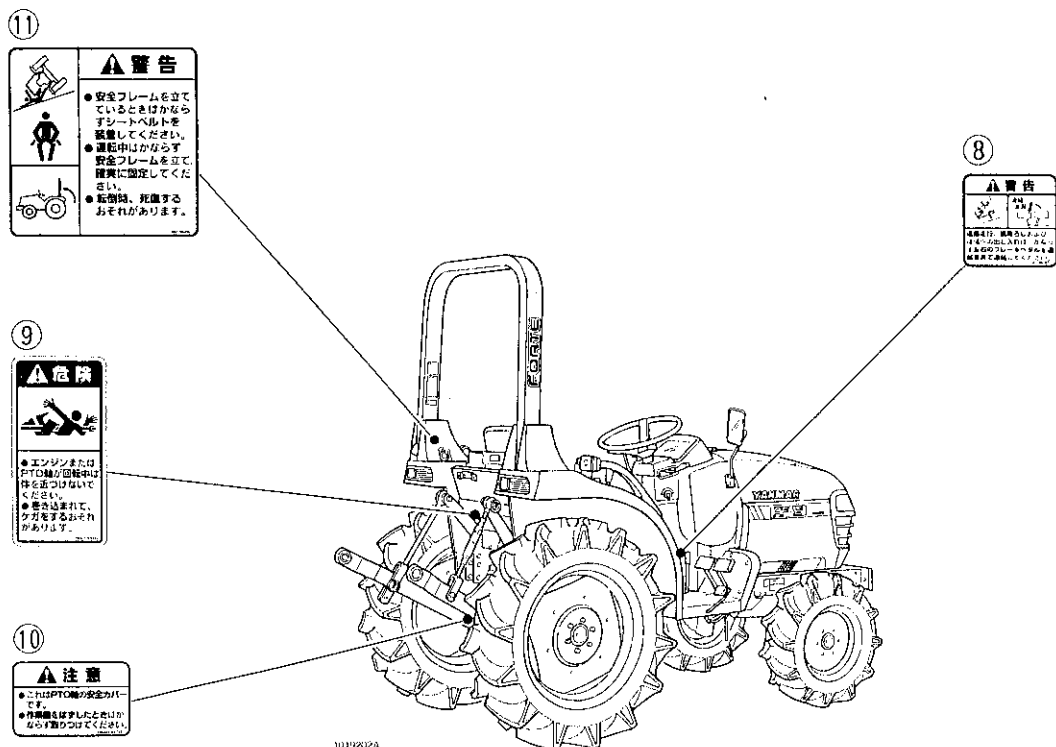
安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼り位置を示したものです。

安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。



安全銘板の貼り付け位置

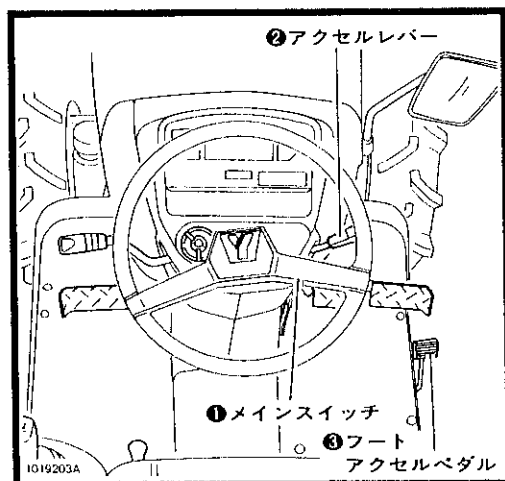


紛失または破損された場合には、最寄りの販売店または農協に下記の表を参考にご注文ください。

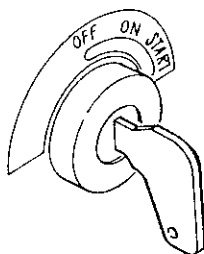
No.	部 品 番 号	備 考	No.	部 品 番 号	備 考
①	1E8500-97220	ラジエタ貼付	(7)	198133-65910	
(2)	1E5120-86720		(8)	1W3901-96060	
(3)	1W3901-96030		(9)	198327-65352	
(4)	1W3901-96080		(10)	198327-65711	
(5)	1W3901-96120		(11)	1W3901-96050	安全フレーム
(6)	1A2260-87100				

各部のはたらき —なまえとはたらきをよく覚えてください。

エンジンコントロール関係



① メインスイッチ



⚠ 注意

- トラクターを使用しないときは必ずキーを抜いて、安全な保管場所にキーを保管してください。守らないと、児童などが操作し、事故を起こすおそれがあります。

エンジンの始動に使用します。

「OFF」 エンジンが停止し、電流が流れません。(キーを抜き取れます)

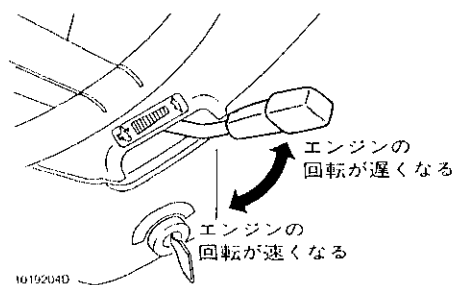
「ON」 各電装品スイッチに電流が流れます。

エンジンが停止している場合、エンジン油圧パイロットランプとチャージパイロットランプが点灯します。また、外気温度に

よりサーモスタートパイロットランプも点灯します。

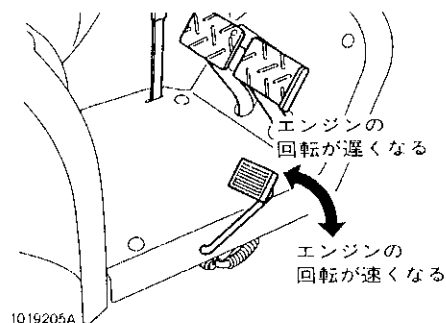
「START」 セルモータが回転し、エンジンが始動します。エンジンが始動したらキーから手を離してください。キーは自動的に「ON」の位置に戻り、連続運転に入ります。

② アクセルレバー



エンジン回転を速くしたり、遅くしたりするのに使用します。一定回転で作業する場合に使用します。

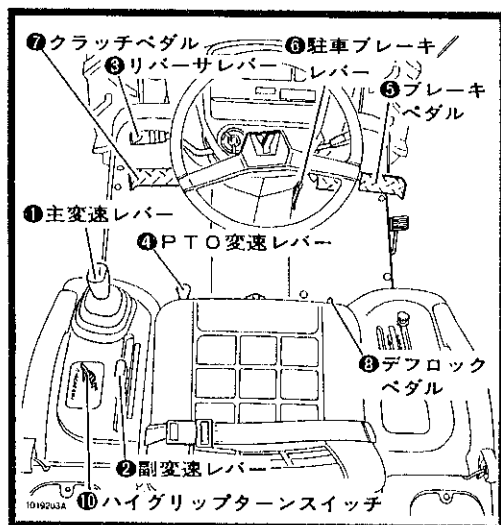
③ フートアクセルペダル



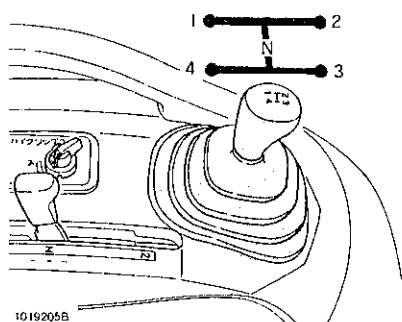
エンジン回転を速くしたり、遅くしたりするのに使用します。主に路上走行時に使用します。

各部のはたらき一なまえとはたらきをよく覚えてください。

走行・PTO 関係

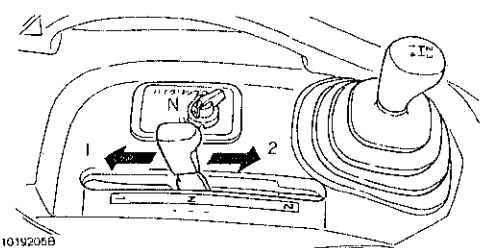


①主変速レバー



主変速レバーは、走行中でも4段階の変速ができます。クラッチペダルをいっばいに踏み込んで変速してください。

②副変速レバー



副変速レバーは2段階に変速でき、主変速との組合わせで、8段の変速ができます。

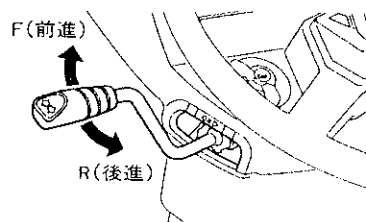
微速（クリープ）仕様では、副変速レバーは3段階に変速でき、主変速との組合わせで、12段の変速ができます。

クラッチペダルをいっばいに踏み込み、機体が停止してから変速してください。

【取扱いの注意】

- 「C（クリープ速度）位置」は、使用と取扱いを誤ると故障の原因となります。51ページの「11.作業に適した速度の選びかた」の「注意」を参照してください。

③F/Rレバー



1019205C

「前進」と「後進」の切り替えに使用します。クラッチペダルをいっばいに踏み込んで操作してください。

※「中立」位置ではレバーが自動的にロックされます。レバーを持ち上げてから操作してください。

【取扱いの注意】

- 「前進」「後進」のシフト操作は、いったん「中立」位置にして、機体が停止してから操作してください。

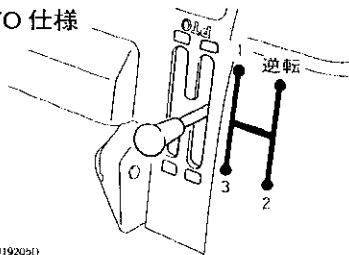
各部のはたらき—なまえとはたらきをよく覚えてください。

④ PTO 変速レバー

⚠ 注意

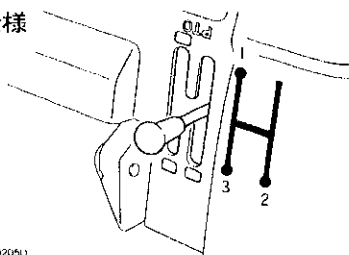
- 作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。守らないと、作業機が壊れ事故をおこすおそれがあります。

逆転PTO仕様



1019205D

標準仕様



1019205C

PTO軸（動力取出軸）の回転数は標準仕様では、正転3段階に変速できます。逆転PTO仕様では、正転3段階、逆転1段階に変速できます。

【取扱いの注意】

PTO「逆転」は使用を誤ると機械の故障の原因になります。次の点に注意して使用してください。

(1) 使用できる作業機

純正標準ロータリーに限ります。

(2) 使用できる作業

- 土寄せ作業
- 草やワラの巻きつきをほぐすとき

(3) 使用できない作業

- 未耕地での耕うん作業
- ロータリーの爪軸を逆に取り付けて行なう本格的な逆転耕うん作業

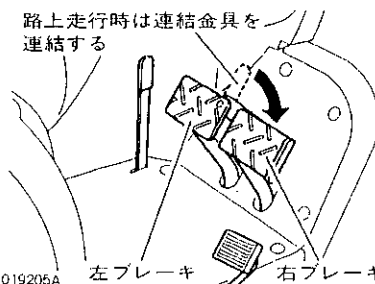
クラッチペダルをいっばいに踏み込んで変速してください。

⑤ ブレーキペダル

⚠ 警告

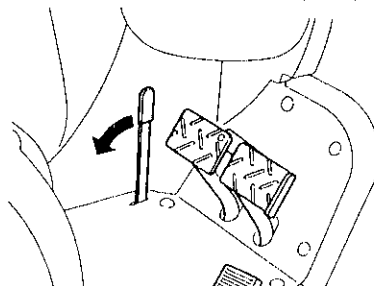
- 移動走行時には、かならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。さもないと、ブレーキが片ぎし、急旋回や転倒するおそれがあります。

路上走行時は連結金具を連結する



ブレーキペダルは左右独立しており、ほ場内で小回りする場合に旋回したい側のブレーキペダルを踏み込むと、踏み込んだ側の後輪の動力がたたれ、ブレーキがかかり、小回りができます。

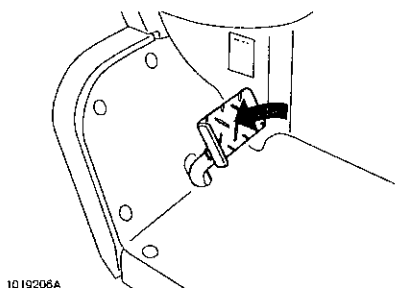
⑥ 駐車ブレーキレバー



ブレーキペダルをいっばいに踏み込み、レバーを手前に引くと駐車ブレーキがかかります。解除するときは、ブレーキペダルを強く踏み込めば駐車ブレーキは解除されます。※左右のブレーキペダルは、連結金具で連結しておいてください。

各部のはたらき—なまえとはたらきをよく覚えてください。

⑦クラッチペダル

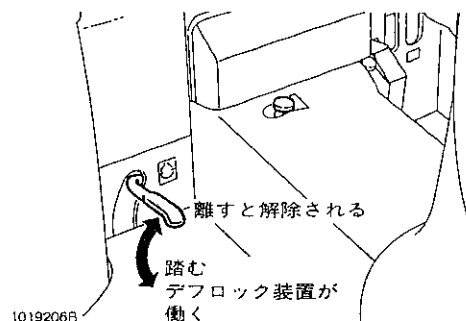


エンジンの動力を断続するのに使用します。

⑧デフロックペダル

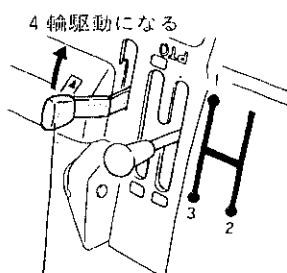
警告

- 旋回時は必ずデフロックを解除してから旋回してください。守らないと、事故を起こすおそれがあります。



軟弱地で後輪の片輪が空転した場合、両車輪を一体に駆動させる装置です。スリップして走行しにくいときに役立ちます。

⑨前輪駆動切替レバー (ターフ仕様のみ)



前輪駆動切替レバー

2輪駆動と4輪駆動の切換えをするときに使用します。クラッチペダルを踏込んで操作してください。

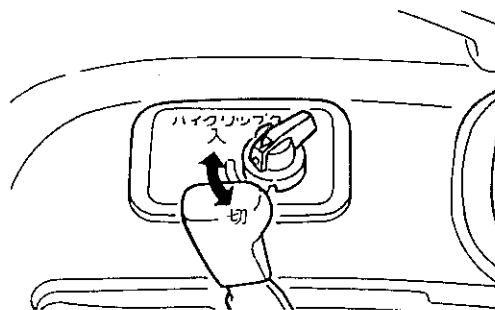
⑩ハイグリップターンスイッチ

警告

- ハイグリップターンスイッチ「入」の状態
で路上走行や傾斜地では、使用しないで
ください。守らないと、転倒などの事故を
起こすおそれがあります。
- ほ場から出る前にならず、ハイグリップ
ターンスイッチを「切」にしてください。

【取扱いの注意】

- ハイグリップターンを「入」・「切」また
は、副変速レバーを高速側にする時は、前
輪タイヤを直進状態にしてから行なってく
ださい。



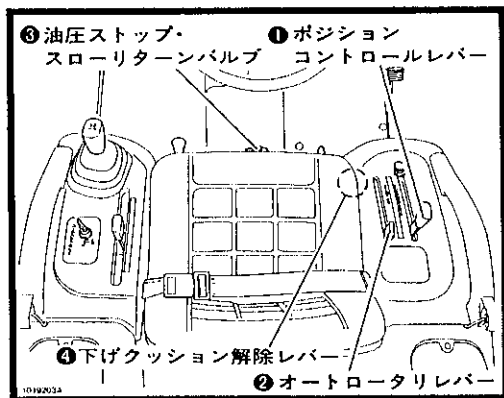
ハイグリップターンを使うとスムーズに小まわりができ、「旋回跡が荒れない」「旋回径が小さい」「旋回時間が短い」などの特長を生かせます。

副変速レバーが「1速」もしくは「C」(微速仕様)速のときに、ハイグリップターンスイッチを「入」位置に回すと、ハイグリップターンが働きます。ハイグリップターンスイッチを「切」位置に回すと、働かない状態になります。

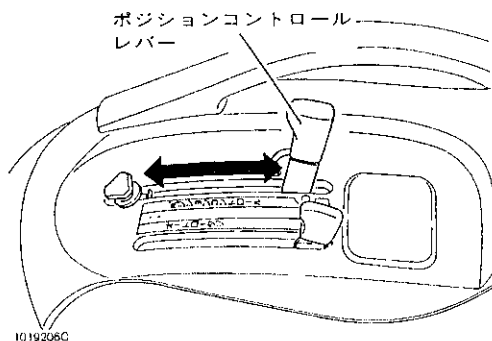
各部のはたらき一なまえとはたらきをよく覚えてください。

油圧関係

OK-UFO 仕様は、67 ページの「OK-UFO 仕様について」を参照してください。

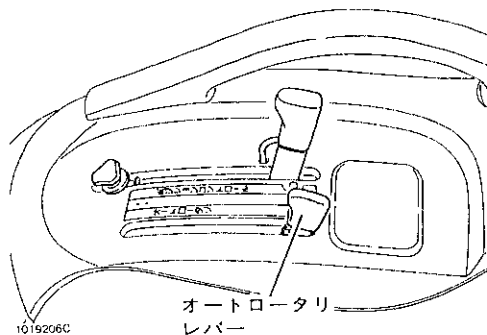


①ポジションコントロールレバー



作業機を任意の位置に設定し、一定に保ちます。

②オートロータリレバー



オートロータリの耕深調節を行いません。

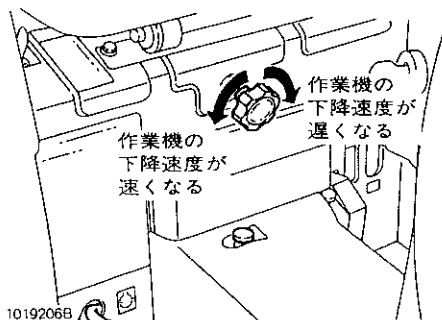
目盛位置	作業内容
1～4	代かき、浅耕
4～8	一般耕うん
9～10	深耕

【取扱いの注意】

- 目盛位置「10」以上ではオートロータリは作動しません。
- 目盛の数字は、深さを合わせるための目安です。
同じ目盛でもは場条件により、深さが変わります。

各部のはたらき一なまえとはたらきをよく覚えてください。

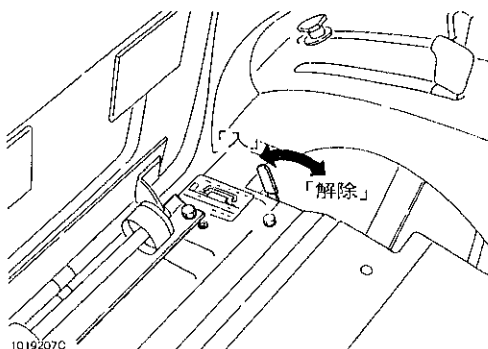
③油圧ストップ・スローリターンハルフ



作業機の下昇速度を調節するのに使います (スローリターン機能)。

また、「右」方向へいっぱい回すと作業機昇降装置への油圧がストップします。

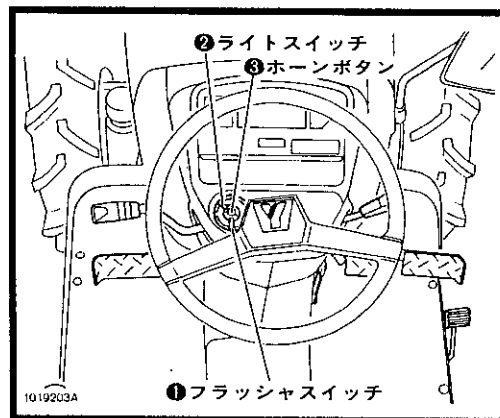
④下げクッション解除レバー



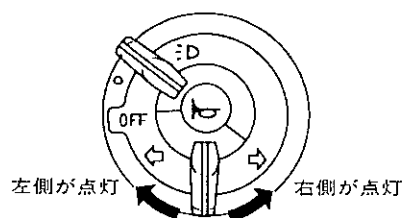
作業機を下降させるとき、接地直前のスピードを変えるのに使います。

通常、ロータリー耕うんの場合は下げクッション「入」にします。プラウ、スキ作業の場合は、下げクッション「解除」にします。

電装関係

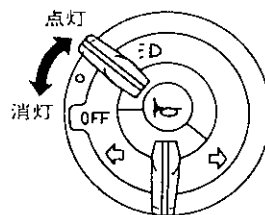


①フラッシュスイッチ



メインスイッチを「ON」位置にしてフラッシュスイッチを左に回すと左側、右に回すと右側のフラッシュランプが点灯します。点灯しないときは、99ページを参照してください。

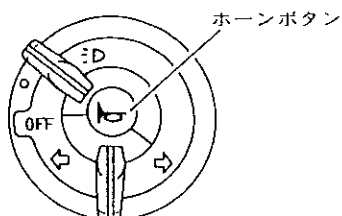
②ライトスイッチ



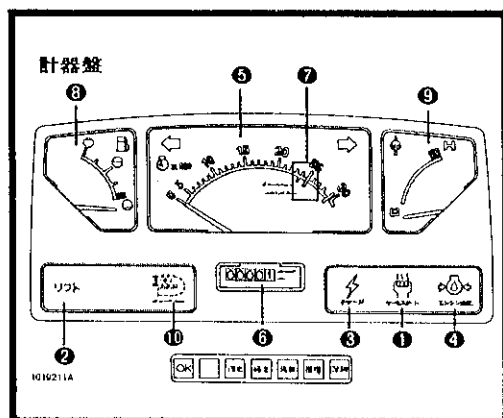
メインスイッチを「ON」位置にしてライトスイッチを右に回すとライトが点灯します。点灯しないときは、99ページを参照してください。

各部のはたらき—なまえとはたらきをよく覚えてください。

③ ホーンボタン



メインスイッチを「ON」位置にしてホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。鳴らないときは、99 ページを参照してください。



① サーモスタートパイロットランプ



2010574

メインスイッチを「ON」位置にすると、点灯してヒータに通電したことを示します。ランプが消えてから(自動的に消える)メインスイッチを「START」位置に戻し、エンジンを始動します。サーモスタートランプ点灯時間は、冷却水温によりヒータの通電時間が変わります。
[参考]

- 冷却水温 5℃以上 1 秒
- 冷却水温 5℃以下 3 秒

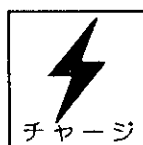
② リフトランプ (OK-UFO 仕様のみ)

リフト

2010578

メインスイッチを「ON」にすると点灯し、エンジンを始動するとランプは消えます。また、ポジションレバーや作業機昇降スイッチ、バックアップ装置で作業機が上がっているときにランプが点灯します。作業機を下げるとランプは消えます。

④ チャージパイロットランプ



2010573

メインスイッチを「ON」位置にするとランプが点灯し、エンジン始動後、エンジン回転が上がって充電し始めるとランプが消えます。ただし、エンジン回転が 1000rpm 以下では充電しません。充電するときは、1500rpm 以上にしてください。

⑤ エンジン油圧パイロットランプ

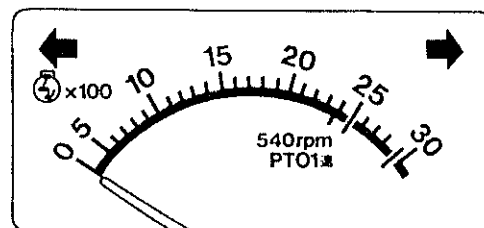


2010577

メインスイッチを「ON」位置にすると点灯し、エンジンを始動するとランプは消えます。エンジン回転中に、油圧ランプが点灯するときは、潤滑油回路に異常が発生したからです。すぐエンジンを停止して不具合箇所の原因を調べてください。(98 ページ参照)

⑥ エンジン回転計

エンジン回転数を指針で示します。



各部のはたらき一なまえとはたらきをよく覚えてください。

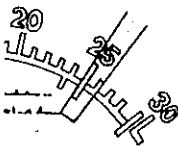
⑥ 積算時間計



1013230A

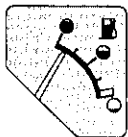
トラクターの使用時間を数字で示します。右端の白枠内の数字を6倍すると「分」単位の時間になります。

⑦ PTO 回転位置



PTO 変速レバー「1 速」位置で、540rpm の回転数が得られる位置を示します。

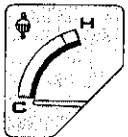
⑧ 燃料計



2010579

燃料の残量を指針で知らせます。針が斜線区域を示した場合は早めに燃料を補給してください。

⑨ 水温計



2010580

運転中の冷却水温を指針で示します。針が赤色区域位置を示した場合は、作業を中断してエンジンを点検してください。

⑩ ハイグリップターン (V 仕様)



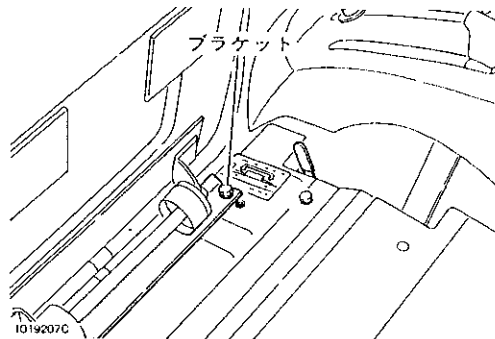
2010575

副変速レバーが「1 速」位置でハイグリップターンスイッチを「入」にするとランプが点灯し、ハイグリップターンがはたらきます。

その他

ドライバシート調節ブラケット

ドライバシートを運転者の体格に合わせて3段階に調節するのに使用します。



シートベルト

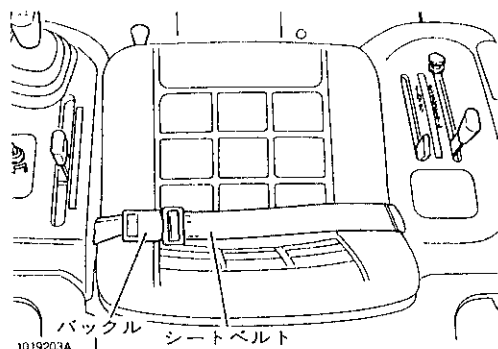
警告

- トラクターを運転するときは、必ず折りたたみ安全フレームを立て、シートベルトを着用してください。
 - 安全フレームを折りたたんだ状態では、絶対にシートベルトを着用しないでください。折りたたみ式安全フレームは、折りたたんだ状態では、転倒したときにシートベルトを着用していると逆に危険です。
- 守らないと、転落、点灯の事故のとき死亡または重傷のおそれがあります。

各部のはたらき—なまえとはたらきをよく覚えてください。

ドライバーシートを正しい運転姿勢位置にし、上体を起こしてすわります。腰骨にかかる位置にベルトがねじれないようタングプレートをバックルの中へ「カチリ」と音がするまで差し込みます。

外すときは、バックルのPRESSボタンを押します。



運転と作業のしかた

—必ず作業前の点検を行なってください。

1. 作業前の点検

⚠ 危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油はしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- 燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので、かならず点検してください。
守らないと、火災をおこすおそれがあります。

⚠ 警告

- 点検整備は、交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で車止めをした上で行なってください。守らないと、機械が転倒するなど事故をおこすおそれがあります。
- 作業機の下へ入るときは、油圧ストップバルブをいっぱいに締め込んで油圧をストップさせてください。守らないと、何らかの原因で、作業機が急に下がったときに、傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠ 注意

- 点検・整備の修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行なってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。
- 点検・整備などで取外したカバー類は、かならず取付けてください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

運転と作業のしかた—安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

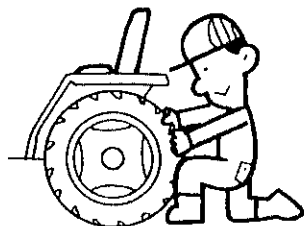
安全で快適な作業を行なうには、本機を使用する人が一日一回、作業前の点検を行なうようにしてください。異常箇所は直ちに整備し、作業終了時も異常がないかチェックしてください。点検は次の順序で行なってください。

① 前日の点検

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、作業に支障がないか点検します。

② トラクターの点検

- 各部の変形・損傷・汚れ
- タイヤの空気圧、摩耗度合、損傷…95 ページ

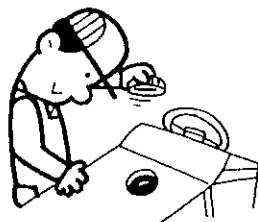


2010567

- 車体各部の損傷、ボルトのゆるみ
- ホイールのボルトのゆるみ
- 車輪取付ボルト、リムとホイールの組み替えボルトのゆるみ…95 ページ

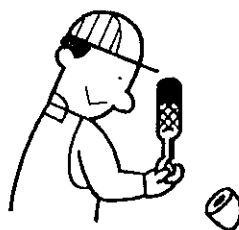
③ エンジン・燃料・冷却水の点検

- 燃料の量と燃料もれ、燃料パイプの損傷…82・89 ページ



2010569

- エンジンオイルの量と汚れ、油もれ…82～87 ページ



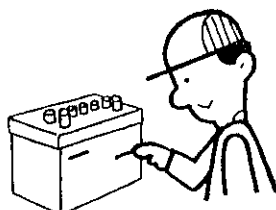
2010568

- 冷却水の量と水もれ、ホースの損傷…82・89 ページ



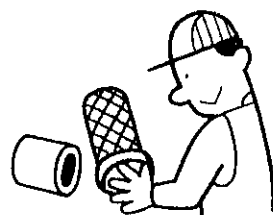
2010569

- バッテリー液の量…89 ページ



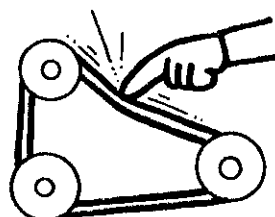
2010570

- エアクリーナーの汚れ…88 ページ



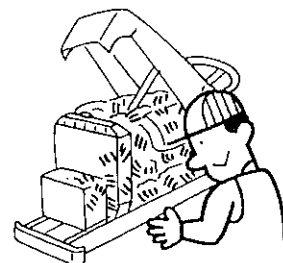
2010571

- 冷却ファンベルトの張り と損傷…93 ページ



2010572

- ラジエータグリルやエンジンルーム内のホコリやゴミ…88 ページ



2010561

- 配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ…90 ページ

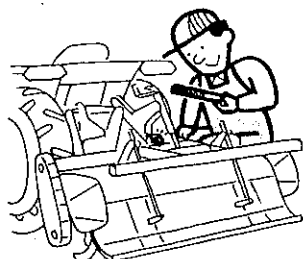


2010562

運転と作業のしかた—安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

④ロータリー側へ回ってみて

- ドライブシャフトロック
ピンのPTO軸への挿入状
態
- 各部のRピンの差し込み
状態
- 爪取付ボルトのゆるみ
- ロータリーギヤボックス
のオイル量
- ロータケースのオイル量

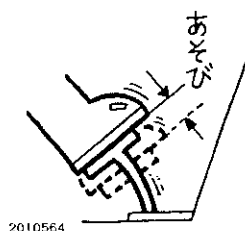


2010563

詳しくはロータリーの取扱
説明書をご覧ください。

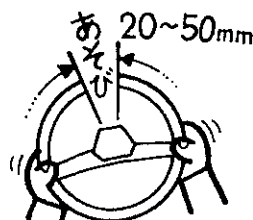
⑤運転席に座ってみて

- ブレーキの作動具合と遊
び量…91 ページ



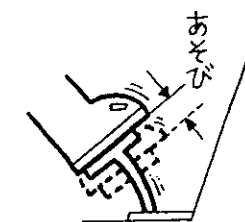
2010564

- ハンドルの遊び量…92 ペ
ージ



2010565

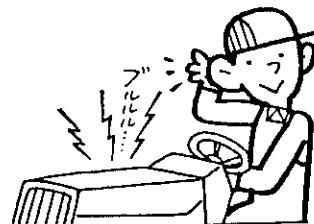
- クラッチペダルの作動具
合と遊び量…92 ページ



2010564

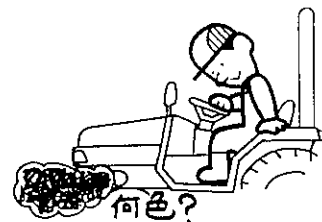
⑥エンジン始動後

- エンジン始動後の異音



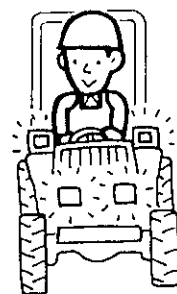
2010566

- 排気ガスの色…95 ページ



2010557

- ランプ・メータ類の作動
…36・37 ページ



2010558

運転と作業のしかた—安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

2. ならし運転（最初の50時間）について

新車は使用時間50時間までの取り扱いが大変重要です。

トラクターの寿命、性能に大きく影響します。この期間中は、次の点に注意して、正しく取り扱ってください。

- ①急なスタート、急ブレーキは慎んでください。
- ②必要以上のスピードや負荷をかけないでください。
- ③運転はエンジンが十分に暖まってから行なってください。
- ④悪路や傾斜地では、速度を落としてゆっくり走行してください。
- ⑤使い始めて最初の50時間目には、81ページの「定期点検一覧表」に従い各部の点検、オイルの交換などをしてください。

3. エンジンの始動・停止のしかた

⚠ 警告

- エンジン始動時は、かならず運転席に座ってレバーの位置と周囲の安全を確認してください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 閉めきった室内ではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故をおこすおそれがあります。

⚠ 注意

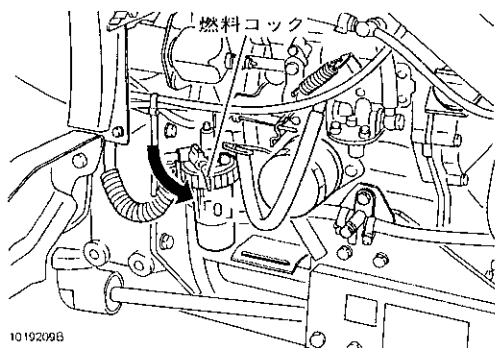
- 機械を使う前と後には、かならず点検・整備をしてください。特に、クラッチ・ブレーキ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備をしてください。守らないと、傷害事故をおこしたり、機械の故障をまねくおそれがあります。
- 暖気運転中は駐車ブレーキをかけてください。守らないと、何らかの原因でトラクターが走りだし、事故をおこすおそれがあります。

始動のしかた

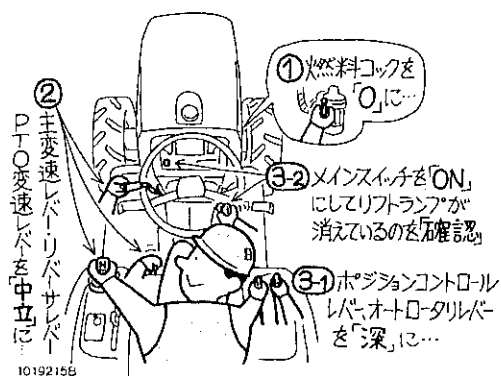
▲注意

- ポジションコントロールレバー、オートロータリーレバーが「深」位置でない場合、また、リフトランプが点灯しているときにエンジンを始動しないでください。守らないと、作業機が急に上昇し、傷害事故を起こすおそれがあります。

- ①燃料コックを「O」位置（開の状態）にします。

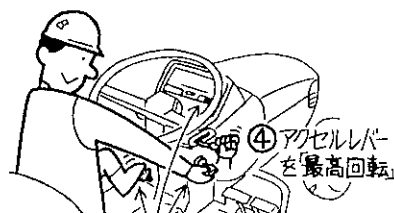


- ②主変速レバー、リバーサレバー、PTO 変速レバーを「中立」位置にします。
- ③ポジションコントロールレバーを「下」位置に、オートロータリーレバーを「深」位置にし、メインスイッチを「ON」位置にして、計器盤のリフトランプが消えて作業機が降りていることを確認してください。



リフトランプが点灯しているときは、作業機昇降スイッチを「下げ」側に操作してください。作業機は降下し、ランプは消灯します。

- ④アクセルレバーを「最高回転」位置にします。
- ⑤サーモスタートランプが消灯してからクラッチペダルをいっぱい踏み込んで、メインスイッチを「START」（スタート）位置にします。
- ⑥エンジンが始動したら、すみやかにメインスイッチから手を離します。



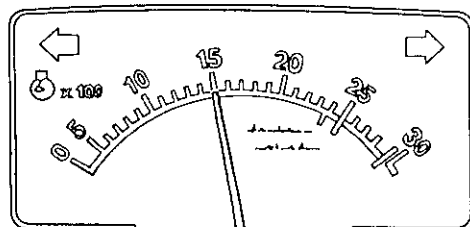
サーモスタートランプが⑤消灯してからクラッチペダルをいっぱい「踏込んで」メインスイッチを「START」に⑥エンジン始動後手を離す

※エンジンが暖まっているときは、サーモスタートランプは瞬時に消えます。

※安全スイッチの働きにより、クラッチペダルをいっぱい踏み込まないとセルモータが回りませんので、エンジンの始動ができません。

- ⑧アクセルレバーでエンジン回転を1500回転ぐらいに下げ、約5分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

エンジン回転



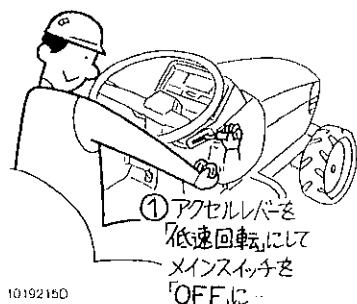
運転と作業のしかた—安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

【取扱いの注意】

- セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。
(10秒以内に始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って1分以上休止してから、⑤の操作を繰返してください。)
- エンジン回転中は、絶対にメインスイッチを「START」(スタート)位置にしないでください。

停止のしかた

- ①アクセルレバーを「低速回転」位置にして、メインスイッチを「OFF」位置にするとエンジンが停止します。



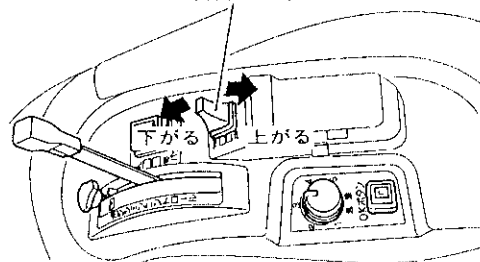
4. 作業機を上下させるには

作業機を上下させるには、ポジションコントロールレバーまたは、作業機昇降スイッチを使用します。(ほ場外ではポジションコントロールレバーで上下してください。)

作業機昇降スイッチを「上げ」位置に操作すると作業機は上がり、リフトランプが点灯します。「下げ」位置に操作すると作業機はポジションコントロールレバーで決められた位置まで下がり、リフトランプが消えます。



作業機昇降スイッチ



運転と作業のしかた—安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

【取扱いの注意】

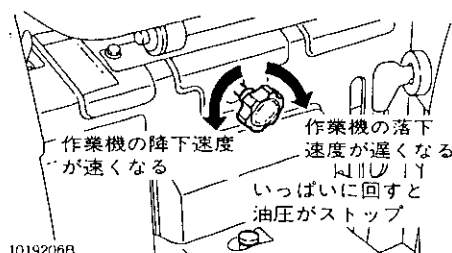
- ポジションコントロールレバーが最上昇位置にあるときは、作業機昇降スイッチを操作しても作業機は下がりません。このとき作業機が上がっていてもリフトランプは点灯していません。ポジションコントロールレバーを「下降」方向に操作し、作業機を下げてください。
- 作業機昇降スイッチ、バックアップ装置で作業機を上昇させたあと、作業機を下げるには、作業機昇降スイッチを「下げ」位置にするか、ポジションコントロールレバーを一度最上昇位置にしてから「下降」方向に操作してください。

5. 作業機の降下速度の調節のしかた

⚠ 警告

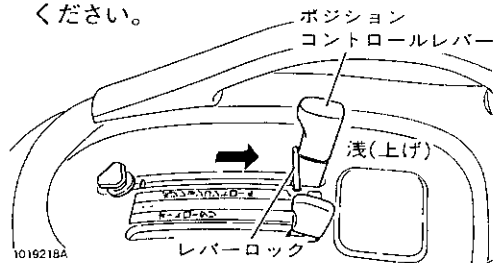
- 作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。守らないと、何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故をおこすおそれがあります。

作業機の降下速度を調節する場合は、油圧ストップ・スローリターンバルブを「左」方向へ回すと作業機は速く降り、逆に「右」方向へ回すと作業機の降下速度は遅くなります。「右」方向へいっぱいまで回すと油圧がストップされ、作業機は下がりません。



【取扱いの注意】

- 路上走行するときは、油圧ストップ・スローリターンバルブは開いたままで、ポジションコントロールレバーを「上昇」位置にして、レバーロックをセットして走行してください。



- 油圧をストップさせたまま、ポジションコントロールレバーを操作しないでください。守らないと油圧部品の破損を引き起こします。

運転と作業のしかた—安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

6.バックアップ装置の使いかた

⚠ 警告

次のようなときは、バックアップ装置は使用しないでください。

- トラックへの積み込み、積降ろし。
- あぜ越え、ほ場への出入り。
- 果樹園、ハウス内など支柱や木に当たる
とき。
- 一般道路走行時。
- 格納時。
- 作業時の着脱・調整時。

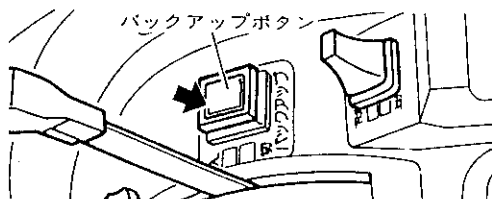
守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。

バックアップ装置を使用しますと、枕地や
回り耕などでバックするときに能率良く作業
ができます。

バックアップボタンを押してバックアップ
「入」(ランプが点灯)の状態のとき、リバー
サレバーを「R」に入れると作業機が自動的
に上がります。作業機を降ろすときは、作
業機昇降スイッチを「下げ」位置にします。



1019216A



バックアップ装置を使用しないときは、バックアップスイッチを押して「切」(ランプ消灯)にしてください。

運転と作業のしかた—安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

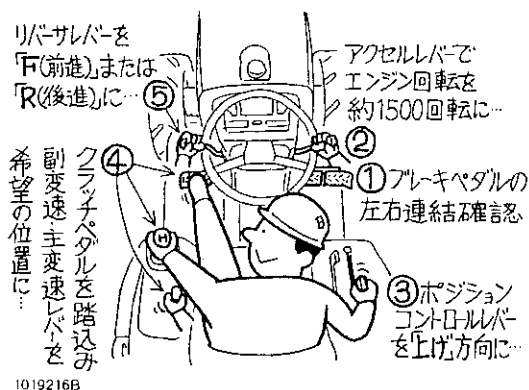
7. 発進・停止・駐車のしかた

警告

- 発進するときは、周囲の人に合図して周囲の安全を確認した上で、急発進しないようにゆっくり発進してください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 移動走行時には、かならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎし、急旋回したり、転倒したりするおそれがあります。
- トラクターからはなれるときには、平坦で安定した場所に置き、かならず駐車ブレーキをかけ、リバーサレバーと副変速レバーを「中立」位置にし、作業機を接地させてエンジンを止め、車止めをしてください。守らないと、トラクターが動きだし、事故をおこすおそれがあります。

発進のしかた

- ①ブレーキペダルが連結金具で、左右連結されていることを確認します。
- ②アクセルレバーでエンジン回転を約1500回転ぐらいにします。
- ③ポジションコントロールレバーを「上昇」方向へ操作して、作業機を最上昇位置にします。
- ④クラッチペダルを踏み込んで、副変速レバー・主変速レバーを希望の位置に確実に入れます。速度は51ページを参照してください。
- ⑤リバーサレバーを「F」位置または「R」位置に入れます。



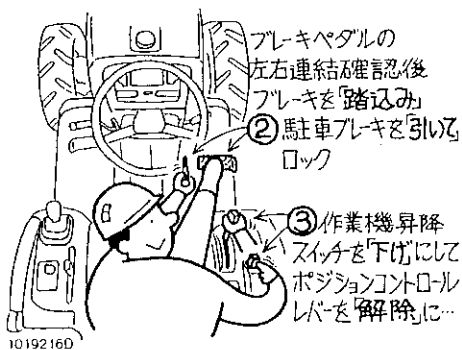
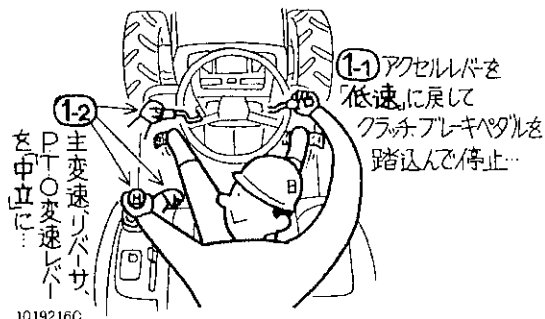
- ⑥クラッチペダルをゆっくり離しますと、トラクターが動きはじめます。

【取扱いの注意】

- 走行中・作業中は、絶対にクラッチペダルの上に足を乗せないようにしてください。
- 主変速レバーは、走行中でもクラッチペダルを踏んで変速できます。副変速レバー、リバーサレバーは、必ず機体が停止してから操作してください。守らないと機械の破損、故障となります。

走行時の安全事項

- ① アクセルレバーを低速側に戻して、スピードを落とします。クラッチペダルとブレーキペダルを踏み込んで停止し、主変速レバー・リバーサレバーおよびPTO 変速レバーを「中立」位置にします。
- ② 左右のブレーキが連結金具で連結されていることを確認し、ブレーキを踏み込み、駐車ブレーキをかけます。
- ③ 作業機を取り付けている場合は、作業機昇降スイッチを「下げ」位置にし、ポジションコントロールレバー、オートロータリーレバーを「解除」位置へ操作して作業機を降ろします。



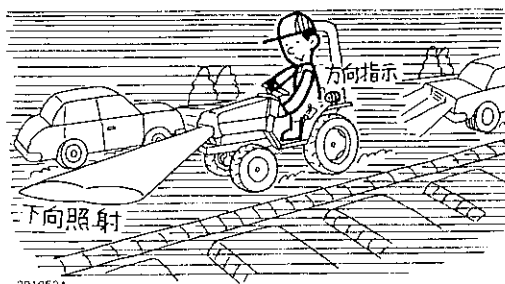
- ④ メインスイッチを「OFF」位置にして、エンジンを停止します。

8. 道路走行のしかた

警告

- 路上走行時やあぜ越え時にはかならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎぎし、急旋回や転倒するおそれがあります。
- 公道を走行するときは、道路交通法等関係法規を厳守してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。
- このトラクターの乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。
- 公道走行するときは、ロータリーなどの作業機を取外してください。道路交通法違反です。又、事故をおこすおそれがあります。
- PTO 変速レバーを「中立」位置にして、必ず左右のブレーキペダルを連結してください。
- 走行スピードはフットアクセルペダルで調節してください。
- 進路変更するときは、フラッシュスイッチによって進行方向を他の車に知らせなければなりません。
- バックミラーで後続車に注意し、追越しの妨害にならないようにしてください。
- 狭い農道や傾斜地、路肩に草が生い茂っている所は、路肩に十分注意して、スピードを落して走行してください。
- 夜間走行時はライトを点灯してください。

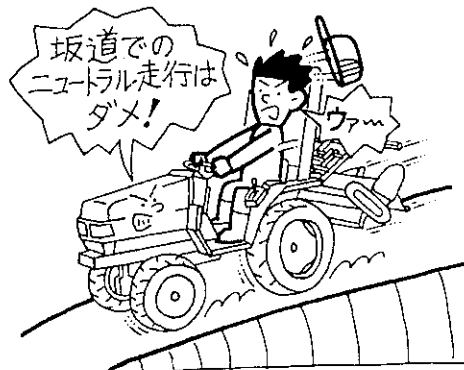
運転と作業のしかた—安全事項を必ず守って、上手に作業してください。



9. 坂道での運転のしかた

警告

- あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道の上では、変速をしないでください。
 - 坂道ではリバーサレバー・主変速レバー・副変速レバーを「中立」位置にしないでください。
 - 坂道では駐車しないでください。守らないと、トラクターが坂をすべり落ちて、事故をおこすおそれがあります。
 - 坂道では、スピードに十分注意して、ゆっくりと走行し、急な下り坂ではエンジンブレーキを活用してください。
 - 坂の途中ではクラッチペダルを踏まないでください。トラクターがすべり落ちて大変危険です。
 - 上り坂で発進する場合は、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落してゆっくり発進してください。急発進すると、前輪がはね上がり大変危険です。
 - 変速は坂を登りつめてから、希望する変速位置に入れ直してください。坂の途中で停車する場合は、駐車ブレーキでロックし、リバーサレバー、主変速レバーを「中立」位置にして停車してください。
- 守らないと、事故をおこすおそれがあります。



10. ほ場への出入りのしかた

警告

- かならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎきし、転倒するおそれがあります。
- ほ場への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときは、十分強度のあるあゆみ板を使用し、作業機を下げ重心を低くしてください。
- 急な傾斜を登る場合は、後進で、降りる場合は前進で行なってください。
- バックアップスイッチは、「切」の状態（ランプが消えている）にしてください。守らないと、バランスをくずし、転倒・転落のおそれがあります。

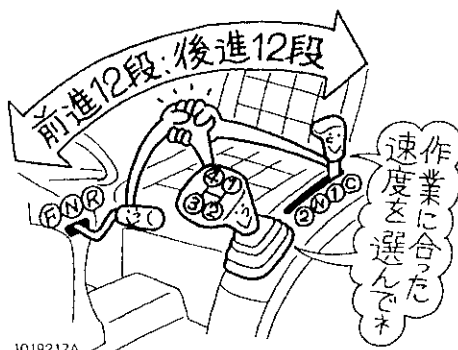
ほ場への出入りは、あぜに対して、直角にゆっくりと出入りしてください。登り始めは、作業機を低くして重心を下げ、トラクターの後輪があぜに上ると同時に作業機を上げてください。



2010541

11. 作業に適した速度の選びかた

主変速レバーと副変速レバーとリバーサレバーの組合せにより、前進8段・後進8段、微速仕様については、前進12段・後進12段の速度が選べます。下表を参考にして、作業に合った速度を選んでください。



1019217A

作業速度・段の選び方

変速段数	主変速	副変速	作 業
C-1	1	C 微速 仕様	トレンチャ
C-2	2		ロータリ
C-3	3		ロータリ
C-4	4		
1	1	1	ロータリ
2	2		
3	3		ロータリ・代かき・ブラウ
4	4		
5	1	2	代かき・ブラウ
6	2		ブラウ
7	3		
8	4		トレーラ

運転と作業のしかた—安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

【取扱いの注意】

〈オプションの副変速レバー「C」位置（クリープ変速）の使用について〉

クリープ速度は使用と取扱いを誤ると故障の原因になります。次のことに注意して使用してください。

(1)使用できる作業

- ロータリーでの深耕、細土耕うん作業
- ロータリー耕うんで、ほ場が硬く標準速度で耕うんできないとき
- プランタによる移植作業
- 農業用トレンチャによる作業
- トラックへの積降し

(2)使用できない作業（故障の原因となります）

- 湿田での脱出時
- 重けん引作業
- フロントローダ作業
- フロントブレード作業
- 土木作業

(3)発進・停止時について

クリープ速度では車軸の回転が大変強くなるので、ブレーキペダルだけを強く踏んでもブレーキはききません。また、故障の原因となりますので、必ず次のことを守ってください。

- 発進は駐車ブレーキを必ず外してから行なってください。
- 停止はクラッチペダルを踏んで、クラッチを切ってからブレーキをかけてください。

12. ほ場での旋回のしかた

⚠ 警告

- かならず、デフロックを切って旋回してください。守らないと、思うように旋回ができずに事故をおこすおそれがあります

旋回するときは、エンジンの回転を落とし、ゆっくりなめらかに旋回してください。

- ①作業機を上げます。
- ②左右ブレーキペダルを連結している連結金具を外します。
- ③ハンドルを切ると同時に、旋回しようとする側のブレーキペダルを踏み込むと小回りができます。



2010535

※デフロックについては、58ページの「デフロックの使いかた」を参照してください。

ハイグリップターンの使いかた

ハイグリップターンは畑、水田などのロータリー作業には役立ちますが、使用法を誤ると転倒などの危険や、故障の原因にもなります。

警告

- ハイグリップターンスイッチ「入」の状態
で路上走行や傾斜地では、使用しないで
ください。
- ほ場から出る前にかならず、ハイグリップ
ターンスイッチを「切」にしてください。
守らないと、転倒などの事故を起こすおそれ
があります。

【取扱いの注意】

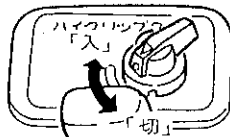
- フロントローダや前輪に重荷重がかかる作
業には使用しないでください。
- ハイグリップターンを「入」・「切」また
は、副変速レバーを高速側にする時は、前
輪タイヤを直進状態にしてから行なってく
ださい。

ハイグリップターンを使うとスムーズに小ま
わりができ、「旋回跡が荒れない」「旋回径が
小さい」、「旋回時間が短い」などの特長を生
かせます。

＜使いかた＞

副変速レバーが「1速」もしくは「C」（微速
仕様）速のときにハイグリップターンスイッ
チを「入」位置に回すとハイグリップターン
が働きます。

ハイグリップターンスイッチを「切」位置に
回すとハイグリップ
ターンは働かない状
態になります。



【取扱いの注意】

- 安全を確保するために、次のような機構が
組込まれています。
- 1. ハイグリップターンスイッチが「入」の状
態で、副変速レバーを「2速」に入れると
ハイグリップターンが作動しなくなりま
す。
- 2. 副変速レバーが「2速」の状態、ハイグ
リップターンスイッチを「入」にしても、
ハイグリップターンは働きません。
- ハイグリップターンは走行しながら使用し
てください。

機体が停止している状態でハンドルをいっ
ぱいに切り、発進してもハイグリップター
ンが作動しない場合があります。

13. 一般の作業機を使う場合 の作業位置設定のしかた

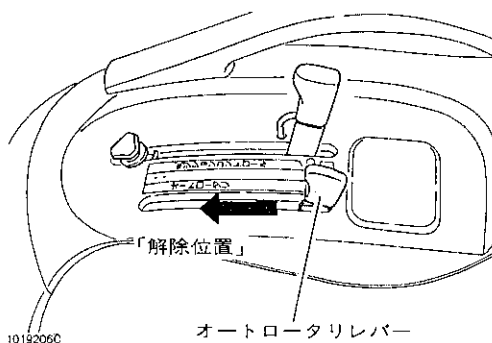
ポジションコントロールの使いかた

OK-UFO 仕様は、67 ページの「OK-UFO 仕様について」を参照してください。

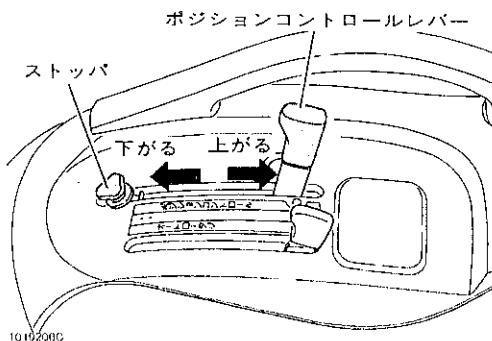
作業機の高さを任意の位置に保持する機能です。ロータリー以外の一般作業機での作業に使用します。

作業位置の決定は、次の要領で行なってください。

- ①オートロータリーレバーを「解除」(最深)位置にします。



- ②作業機の上下は、ポジションコントロールレバーで行ないます。



- ③作業機の下限位置を設定したいときは、希望する位置でポジションコントロールレバーが止まるようにストッパで固定します。

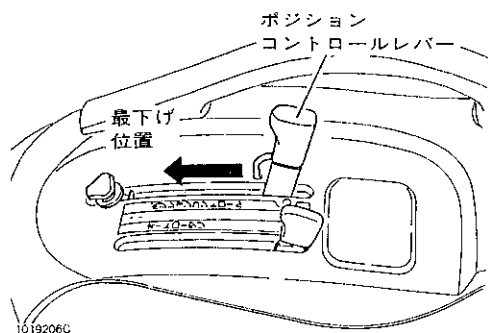
14. ロータリー耕での耕深設定 のしかた

オートロータリーの使いかた

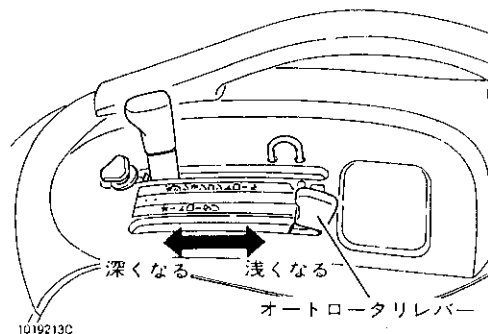
OK-UFO 仕様は、「OK-UFO 仕様について」(67 ページ)を参照してください。

オートロータリーは、凸凹の多いほ場でも耕深が一定になる機能です。一般耕うん、代かきなどに効果を発揮します。次の要領で耕深を設定してください。

- ①ポジションコントロールレバーを「最下げ」位置にします。



- ②オートロータリーレバーで、下表を参考にして耕深を設定してください。

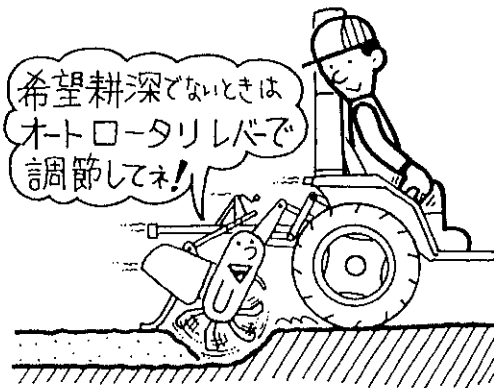


目盛位置	作業内容
1～3	代かき、浅耕
4～7	一般耕うん
8～10	深耕

【取扱いの注意】

- 目盛10以上では、オートロータリーは作動しません。
- 目盛の数字は、深さを合わせるための目安です。同じ目盛でもほ場条件や、ロータリーカバー回転位置により深さが変わります。

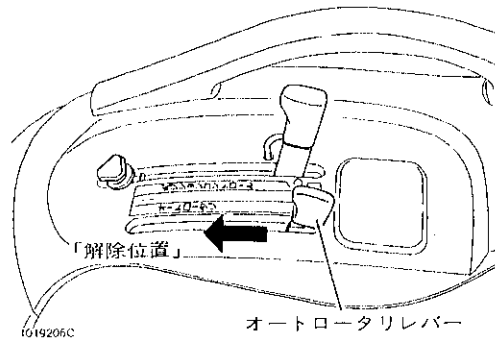
- ③耕うんを始めて、実際の耕深を見ながら希望の耕深でないときは、オートロータリーレバーで耕深を調節してください。



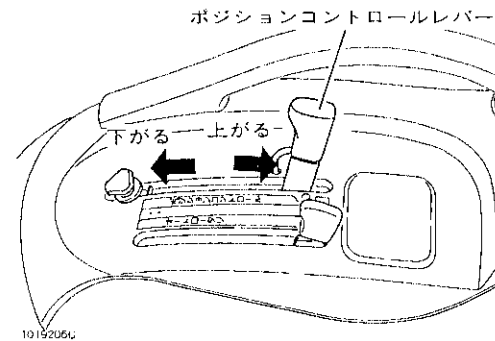
※よりきれいに仕上げたい場合は、オートロータリーの本機側フィードバックリンクから、オートワイヤーを取外し、取付位置を「標準」から「敏感」へ変更してください。オートワイヤーの調節はロータリーの取扱説明書を参照してください。

「戻り（オフ）」の使いかた

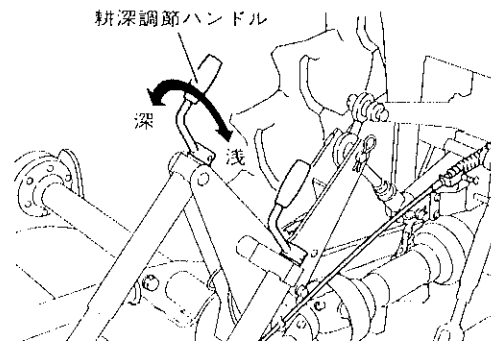
- ①オートロータリーレバーを「解除」（最下げ）位置にします。



- ②ロータリーの上下は、ポジションコントロールレバーで行ないます。



- ③耕深調節は、耕深調節ハンドルで行ないます。

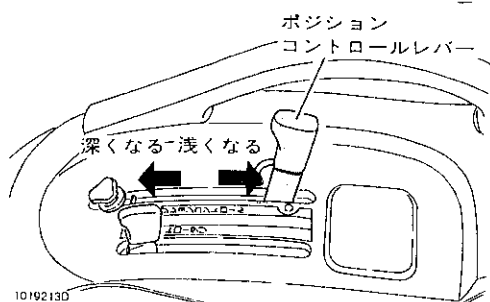


運転と作業のしかた—安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

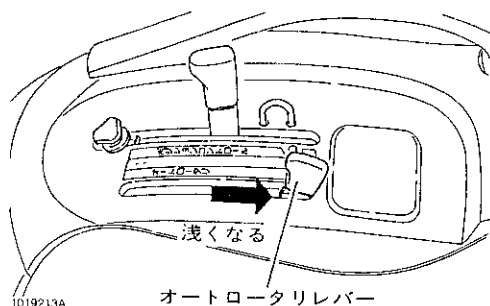
ミックスコントロールの使いかた

ミックスコントロールとは、オートロータリーとポジションコントロールを併用して使用するもので、下げ側のみを規制する機能です。湿田耕うん、凸凹の多い代かき作業などに効果的です。作業位置の設定は次の要領で行なってください。

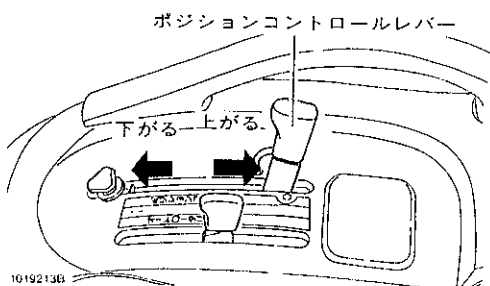
- ①ポジションコントロールの設定要領で、希望する作業位置に設定します。



- ②オートロータリーレバーを徐々に「深」から「浅」の方向へ動かし、オートロータリーが作動する位置に設定します。



- ③ロータリーの上下は、作業機昇降スイッチで行ないます。



耕深設定表

耕深設定方法 作業機	オート	ミックス	ポジション
ロータリー	○	○	○
その他	×	×	○
用途	一般的ほ場	凸凹軟弱のある特殊ほ場、一般的ほ場、草ワラの多いほ場、代かき時	手動操作による任意の耕深を得たいほ場

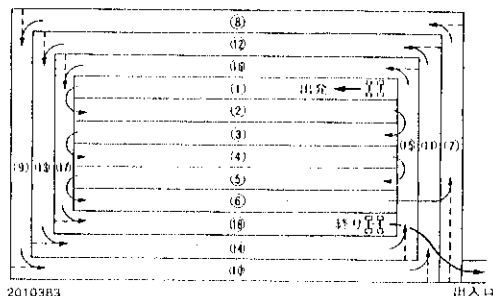
15. ロータリー耕うんのしかた

- ①前輪タイヤ、後輪タイヤの輪距は、標準状態にしてください。
- ②作業条件により、車速およびPTO回転速度を決めて耕うんを始めます。
- ③耕うん方法は数種類ありますが、ほ場の条件によって適切な耕法を選んでください。一般的には、ロータリー耕うんは隣接耕が標準です。
- ④いずれの耕法による場合でも、トラクターの旋回ができるだけの枕地と同じ幅を、ほ場の両側に残して内側から作業を始めます。(目安として耕作地の周囲を3行程弱残します)
- ⑤耕うん時は、前・後輪タイヤがすでに耕うんしたところに落ちないように、気をつけながら運転します。
- ⑥サイドドライブロータリーは、右サイドフレーム側があぜぎわによるようにして、耕うんすると残耕が少なくなります。

〈隣接耕うんの順序〉

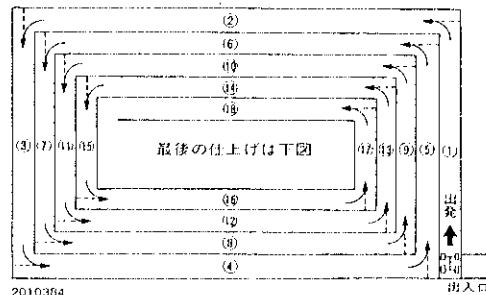
- 一般的なロータリー耕うん方法です。
- 図のような順序をとるのは、一度耕うんした所を後輪タイヤで踏まないための、最善の方法です。
- したがって出発点は、トラクターが最後に外へ出る場所によって決まります。

← 進行方向 ← いったんバック

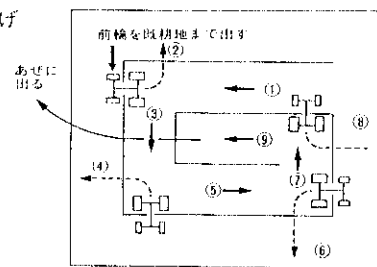


〈回り耕うんの順序〉

- 弱湿田または湿田地で、小回りのむずかしい場合に用いる方法です。
- 耕うん順序は外周部から仕上げていきます。
- トラクターが最後に出る場所は、あぜに近い所から出てください。

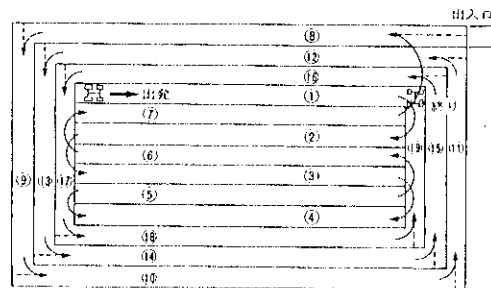


最後の仕上げ

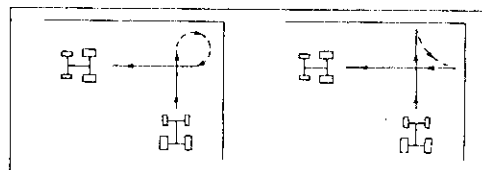


〈うね置き耕うんの手順〉

うね置き耕うんは、小回りのむずかしい場合に用いる方法です。その他は隣接耕うと同じです。



〈トラクターの方向転換〉



16. デフロックの使いかた

⚠ 警告

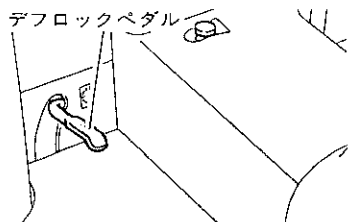
- かならずデフロックを切って旋回してください。守らないと、思うように旋回できずに事故をおこすおそれがあります。

⚠ 注意

- 路上走行中は、絶対にデフロックを使用しないでください。守らないと、走行が不安定になり事故をおこすおそれがあります。

デフロックペダルを踏むと、差動装置がロックされ、左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。ペダルから足を離すとロックが自動的に解除されます。

湿田地やぬかるみからの脱出など、片車輪がスリップして走行がしにくいときに使用すると効果があります。



1019206B



1013911C

【取扱いの注意】

- デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げたから行なってください。
- 抜けにくいときは、クラッチを切るか、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
- クリープでの使用は、絶対行わないでください。

17. トラックへの積込み・積降ろしのしかた

⚠ 危険

- トラックへの積込み・積降ろしは、あゆみ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行なってください。進路を変えたり停止するために、クラッチの操作を絶対にしないでください。守らないと、転落などの事故をおこすおそれがあります。

⚠ 警告

- トラックへの積込み・積降ろしは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。
- 使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップしないものを選び、あゆみ板がはずれないように、フックをトラックの荷台にしっかりかけてください。
- トラックへの積込みは後進で行なってください。
- トラックにのせて移動するときは、強度の十分あるロープでトラックにトラクターを固定してください。

守らないと、トラクターが転落するなど、事故をおこすおそれがあります。

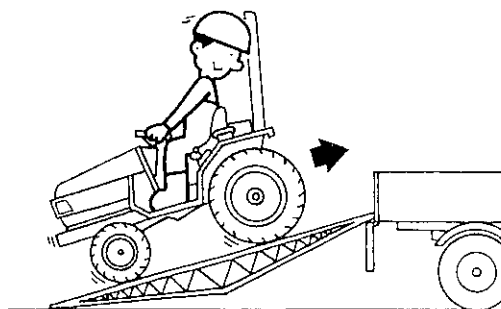
運転と作業のしかた—安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

〈積込み〉

- ①十分な強度と長さのあゆみ板を使用します。
- ②ブレーキペダルは必ず連結してください。
- ③バックアップスイッチは「切」（ランプ消灯）の位置にしてください。
- ④変速は低速位置で、リバーサレバーを「R」位置でエンジン回転を低速にして積込んでください。
- ⑤落輪しないように、ハンドルは慎重に操作してください。
- ⑥途中でエンジンがストップした場合は、いったん下まで降りてエンジンを再スタートしてください。
- ⑦積込みが終了したら、メインスイッチを「OFF」にして駐車ブレーキをかけ、ロープで本機を確実に固定してください。

〈積降し〉

- ①積込みと逆の手順で行なってください。



2010539

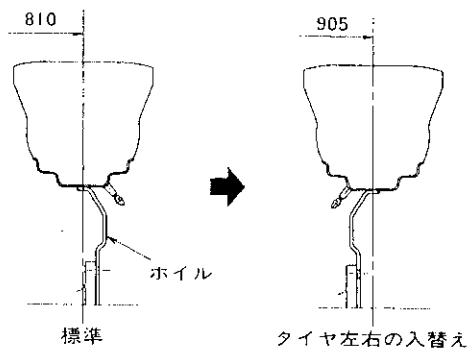
強度のあるあゆみ板

18. 後輪車輪幅（輪距）の調節のしかた

作業の種類・作物の条間に合わせ、トラクターの車輪幅を調節してください。また、傾斜地作業やけん引き作業には、車輪幅を広げて使用してください。

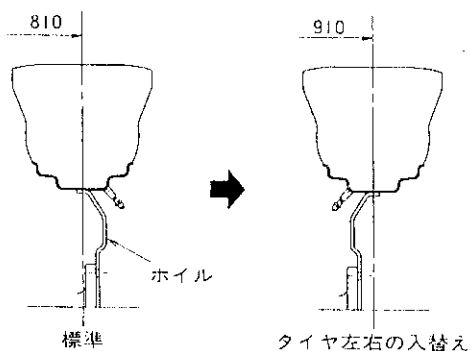
- ①平坦で安定した場所にトラクターを駐車し、駐車ブレーキをかけ前輪に車止めをした後、ジャッキを使って車体を上げ、後輪を浮かせてください。
- ②調節はタイヤ左右を入れ換えて行ないます。

〈AF-15 果樹園仕様の場合〉（単位：mm）

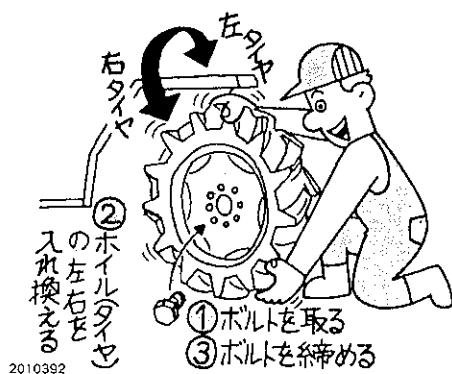


〈AF-15・AF-16 Limited 仕様・

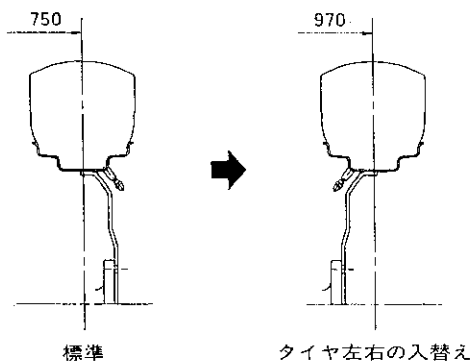
AF-17 果樹園仕様の場合〉（単位：mm）



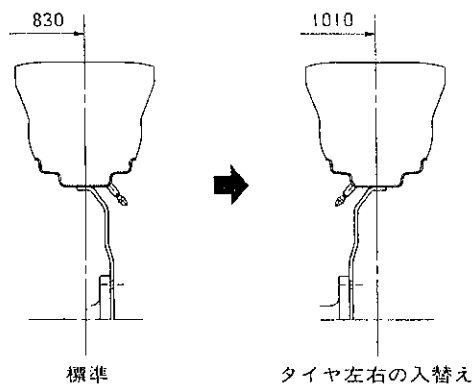
運転と作業のしかた—安全事項を必ず守って、上手に作業してください。



〈AF-16 幅狭タイヤの場合〉 (単位: mm)

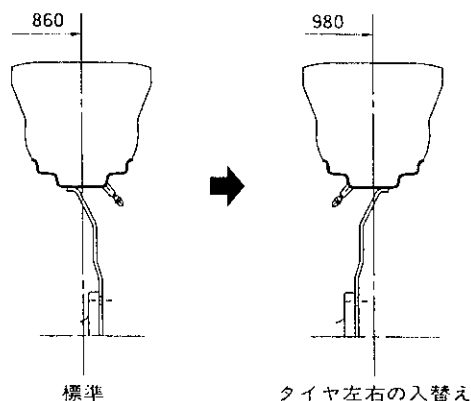


〈AF-16・AF-17・AF-18Limited 仕様の場合〉 (単位: mm)



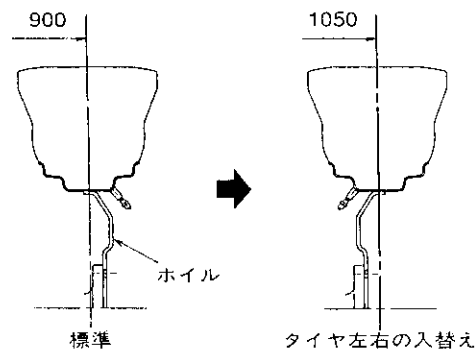
〈AF-18 の場合〉

(単位: mm)



〈AF-16・AF-18 ターフ仕様の場合〉

(単位: mm)



【取扱いの注意】

- 各車輪の取付ボルト、ナットの締付トルクは下表の締付トルクにしてください。

車 輪	締 付 ト ル ク
前 車 輪	4.5～5.7kg・m
後 車 輪	11.9～15.1kg・m

19. 油圧外部の取り出しかた

⚠ 注意

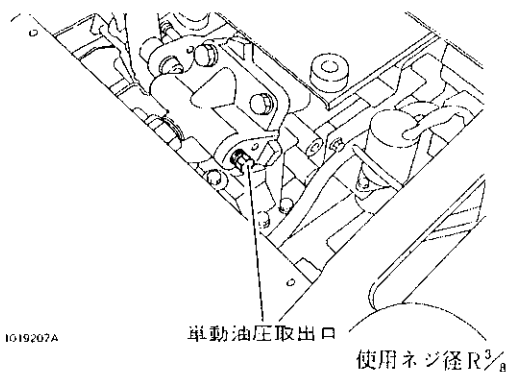
- 油圧取出口のプラグを外したり、配管の取付け、取外しを行なうときは、かならずエンジンを停止してください。守らないと、高圧オイルにより傷害事故を起こすおそれがあります。

単動シリンダ・ダンブトレーラなど

ダンブトレーラなど単動シリンダの場合は、シリンダヘッド下油圧取出口のプラグを外し、作業機側のホースを取り付めます。

〈操作要領〉

- ① ポジションコントロールレバーを「最下げ」位置にします。
- ② 油圧ストップ・スローリターンバルブを「閉」方向いっぱいに締めます。
- ③ ポジションコントロールレバーを操作して、作業機を動かします。

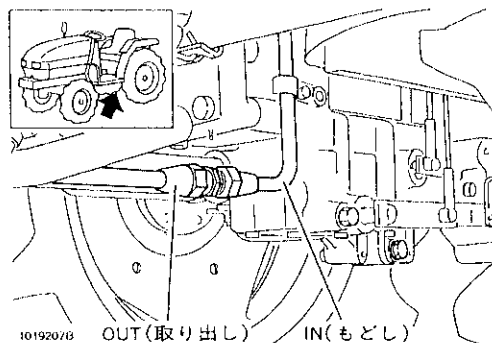


後動油圧取出口・フロントローダなど

- ① トラクタの左ステップ下部にある外部油圧取出口を、作業機のパルプと配管してください。

前側……OUT (取出し)

後側……IN (戻し)

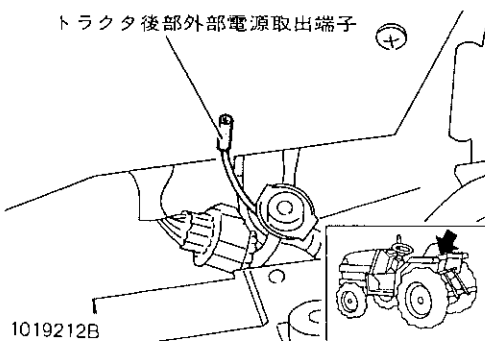
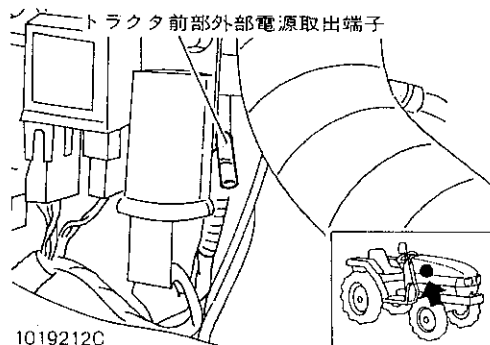


※作業要領および油圧作業機の詳しい取り付けかたは、各作業機の取扱説明書を参照してください。

運転と作業のしかた—安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

20. 外部電源取出端子について

作業機への外部電源取出しに使用します。



【取扱いの注意】

- この端子はプラス端子になっています。作業機などのマイナス端子（アース）はトラクタ本体に配線してください。
- 端子のプラス、マイナスを間違えたり、過負荷電流で使用しますと（最大：12V10A）ヒューズが切れます。ヒューズの交換は、ヒューズボックス内で行ないます。

（94 ページ参照）

21.3 点リンクについて

このトラクターの3点リンクはJIS1型です。

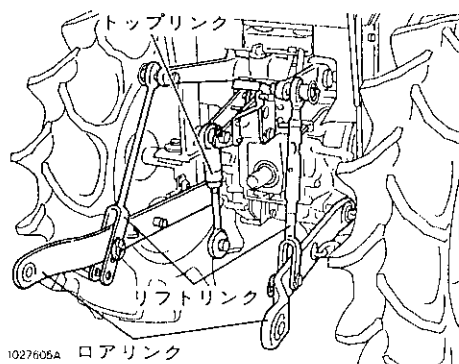
トップリンク

トップリンクはターンバックルを回して伸縮させ、作業機の姿勢を調整します。

トップリンクの取付位置、取付長さは作業機によって異なります。

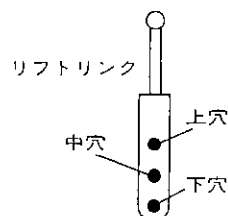
作業機の取扱説明書に従い調整してください。

※一般作業機を使われる方は、標準トップリンクを別途購入してください。



リフトリンクおよびロアリンク

リフトリンクの穴は、作業機により下表の位置で使用してください。（詳細は作業機の取扱説明書に従ってください。）

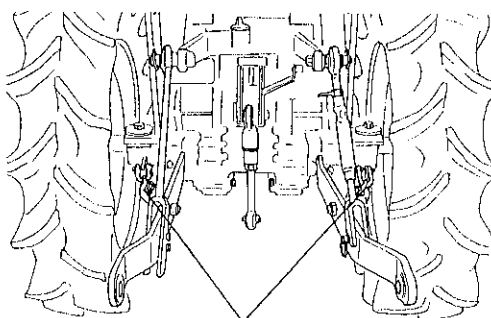


リフトリンク	作業機
上・中・下穴	一般作業機
上 穴	標準ロータリー 標準クイックヒッチ

チェクチェーン

ターンバックルで次のように調整してください。

- ①プラウ、サブソイラなどの作業機は、作業機が左右に5～6cm動く程度に調整してください。ただし、作業機が横ぶれしてタイヤに当たらないように注意してください。
- ②ロータリー、ハロー、モアなどの作業機は、作業機が左右に振れない程度に調整してください。



1027607C

チェクチェーン

作業機を取付けないとき

ロアリンクがタイヤに当たらないよう、振れ止めをしてください。

22 作業機の取り扱いについての注意事項

警告

- トラクターを移動して作業機を着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 作業機の着脱は、平坦で安定した場所で、行なってください。夜間は、適切な照明をしてください。
- 重い作業機を装着した場合には、フロントにバランスウエイトをつけて、バランスを保ってください。
- 作業機を調整する場合は、トラクターの駐車ブレーキをかけ、また、エンジンを停止し、かつ、PTO 変速レバーが「中立」位置にあることを確認したうえで行なってください。
- けん引作業をするときは、かならずけん引ヒッチ（別売）を使用し、それ以外で引っ張らないようにしてください。
- けん引作業、傾斜地での作業などは、輪距（左右のタイヤの間の幅）を広くして使用してください。
- 作業機によっては、かなりの長さになりますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。
- バランスウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。
- フロントローダー作業時は、後方に作業機をつけるなどして前後バランスを保ってください。
- 装着する作業機の取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。

守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠ 注意

- PTO 軸を使用しないときは、PTO 軸の安全カバーをかならず取付けてください。守らないと、巻き込まれたりして、ケガを負うおそれがあります。
- 作業機指定の PTO 回転速度を厳守してください。守らないと、作業機がこわれ、事故をおこすおそれがあります。

23. パワーステアリングについて

⚠ 警告

- エンジン運転中は、ハンドル操作が大変軽くなっていますので、道路走行など慎重に行ってください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

パワーステアリングは、エンジン運転中のみ作動します。ただし、エンジン回転が低速のときは、多少ハンドルが重くなります。

【取扱いの注意】

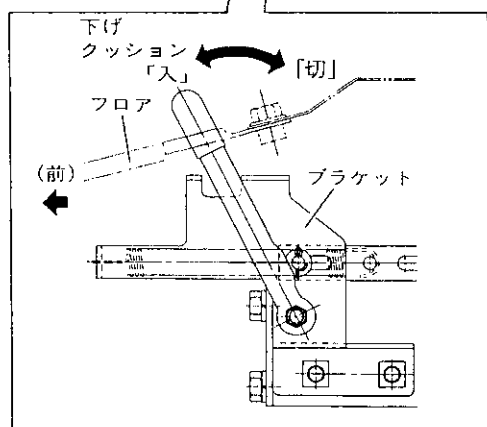
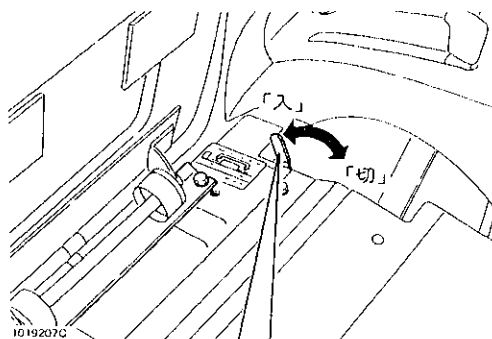
- ハンドルをいっぱいに切るとリリーフ弁が働き、信号音がでます。短時間であればかまいませんが、この音が鳴ったままで運転しないでください。
- 走行しないでハンドルを切る（スエ切り）ことは、タイヤやリムなどが損傷するおそれがありますので、必要なとき以外は操作しないでください。

運転と作業のしかた—安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

24. 下げクッション解除のしかた

このトラクターには、ロータリーを下降させるとき、接地直前のスピードが遅くなる下げクッション機構が装備されています。

プラウ、スキ作業などで下げクッションを働かせないときは、下げクッション解除レバーを「切」位置にしてください。



25. 折りたたみ式安全フレームの使いかた

⚠ 警告

- 安全フレームを折りたたんだ状態では、絶対にシートベルトを着用しないでください。折りたたみ式安全フレームは、折りたたんだ状態では、安全フレームの役目をしません。
 - トラクターを運転するときには、必ず安全フレームを立ててください。また、必ずシートベルトを着用してください。
 - 作業中は、絶対に安全フレームを折りたたまないでください。
 - 絶対に安全フレームの改造をしないでください。安全フレームとしての機能をはたさなくなります。
 - トラクターを使用する前に、必ず安全フレームがピンによってロックされているか確認してください。
 - 安全フレームが損傷したときは、安全フレーム一式を交換してください。修理すると安全フレームとしての機能をはたさなくなります。
- 守らないと、転落、転倒事故のとき、死亡または重傷のおそれがあります。

安全フレームは、万一の事故のとき人身事故を防ぐのに非常に効果があります。

トラクター運転中は、必ず安全フレームを立てて使用してください。

運転と作業のしかた—安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

安全フレームの折りたたみかた

- ①トラクター左右のピンを手前に引き、ピンを約1/4回転回して安全フレームのロックを解除します。
- ②安全フレームを少し倒します。
- ③ピンを元の状態に戻します。
- ④もう一度安全フレームを、ピンで自動的にロックされるまで倒します。



安全フレームの立てかた

- ①トラクター左右のピンを手前に引き、ピンを約1/4回転回して安全フレームのロックを解除します。
- ②安全フレームを少し立てます。
- ③ピンを元の状態に戻します。
- ④もう一度安全フレームを、ピンで自動的にロックされるまで立てます。

OK-UFO仕様について (U仕様のみ)

1. 各部のなまえとはたらき

通常の作業に必要なもの

作業機昇降スイッチ

ワンタッチで作業機の上げ下げができます。ポジションレバーで下げ位置を設定すると、設定位置まで作業機が下降して停止します。

【取扱いの注意】

エンジンを停止しても、メインスイッチが「ON」の場合は、作業機昇降スイッチで下降します。

深さダイヤル

ロータリの耕うん深さを調節します。オートロータリ使用時には、ロータリカバーの回動位置も設定耕深と同調させて自動的に設定されます。ダイヤルで設定した耕深は、パネルの表示ランプに表示されます。

OKボタン

ボタンを押すと、ランプが点灯し、深さ・傾き・カバー回動位置を自動設定し、同時に下げクッション機能も働きます。このとき、パネルの表示ランプ「OK」「深さ」「傾き」の点灯します。

バックアップボタン

ランプ消灯時、ボタンを押すと、ランプが点灯し、バックアップ機構が働きます。

リバーサレバーを「R(後進)」位置に入れると、自動的に作業機が上ります。ランプ点灯時、ボタンを押すと、ランプが消灯し、バックアップ機構が解除されます。

▲注意

次のような作業では、バックアップ機構は解除してください。

- トラックへの積み込み・積降し作業
- 畦こえ・ほ場への出入り作業
- 果樹園・ハウス内作業で支柱や木に当たる場合
- トレーラなど作業機を上下しない作業
- 一般道路走行時
- 格納時
- 作業機の着脱・調整時

守らないと、傷害事故を起こすおそれがあります。

① リフトランプ

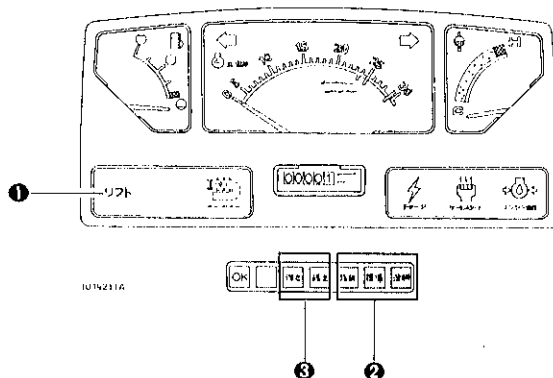
リフトランプが点灯している場合は、自動が働かませんので、昇降スイッチを「下げ」側に操作して、ランプを消灯してください。

② 耕深表示ランプ

深さダイヤルで設定した耕深をランプで表示します。

③ 深さ・傾き表示ランプ

ランプが点灯しているときは、自動が働いています。



特定の作業に使うもの

作業条件を設定する必要がある場合は、カバーを開けて、調節してください。

カバー回転位置設定スイッチ

スイッチを操作してロータリカバーの回転位置を任意に設定できます。

「深さ」自動の場合には、設定操作中に、カバーが深さダイヤル同調位置を通過する場合は、同調位置でいったん停止します。

カバー位置を回転させても、耕深は深さダイヤルで設定した位置を保持します。

●ロータリ脱着時

パネルの表示ランプ「深さ」「傾き」が点灯している場合は、OKボタンを押して表示ランプを消灯状態にして、ロータリカバーを「脱着」位置にしてください。

作業切換ボタン

ボタンを押すと、「深さ」のみ自動・「傾き」のみ自動・「深さ+傾き」自動に順次切り替えます。どのレンジに入っているかは、パネルの表示ランプに表示されます。

傾き設定スイッチ

作業機の傾きを任意に設定できます。

●「傾き」自動で使用する場合

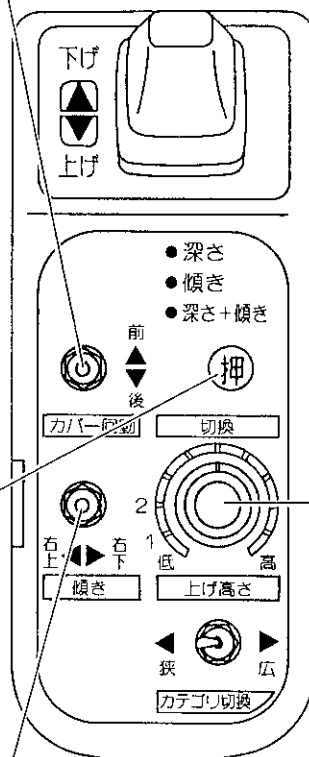
パネルの表示ランプ「傾き」が点灯しているとき、設定スイッチを操作して、作業機を任意の角度に設定すれば、トラクタの傾きにかかわらず、作業機を地面と一定の角度に保つことができます。

設定操作中に、作業機が地面に対して水平位置を通過する場合は、水平位置で一たん停止します。

●「傾き」手動で使用する場合

パネルの表示ランプ「傾き」が消灯しているとき、設定スイッチを操作して、作業機を任意の角度に設定すれば、トラクタに対して一定の角度に保つことができます。

設定操作中に、作業機がトラクタに対して平行位置を通過する場合は、平行位置でいったん停止します。



上げ位置ダイヤル

作業機昇降スイッチまたは、バックアップで作業機を上げたときの作業機の最上げ位置を設定します。

【取扱いの注意】

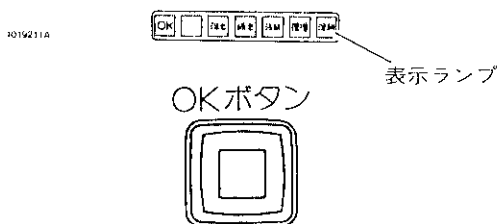
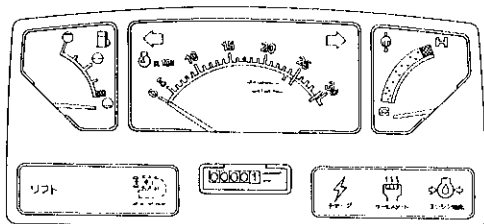
ポジションレバーを「最上げ」位置にしたときは、ダイヤル設定位置にかかわらず作業機は、最上げになります。

2. 基本的な使いかた

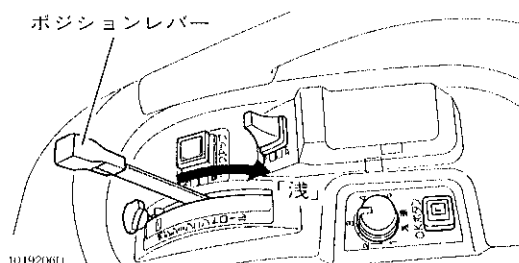
路上走行のとき

路上走行するときは、作業機が自然に下降したり、傾いたりしないように、次の処置を行なってください。

パネルの表示ランプが点灯している場合は、OKボタンを押して、表示ランプ「OK」「深さ」「傾き」を消灯状態(手動)にしてください。



ポジションレバーを最上げ「浅」位置にして作業機を上げてください。



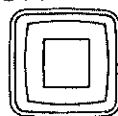
【取扱いの注意】

- 油圧ストップ・スローリターンバルブは開いたままで、ポジションコントロールレバーを上げ位置にして、レバーロックをセットして走行してください。守らないと、作業機が下がり、事故をひきおこすおそれがあります。

ロータリ作業

パネルの表示ランプが消灯しているときは、OKボタンを押して「OK」「深さ」「傾き」のランプを点灯させてください。

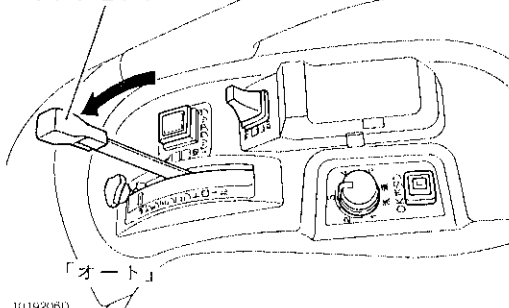
OKボタン



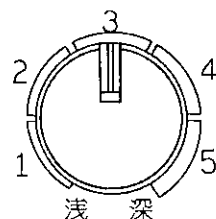
深さダイヤルで耕深を設定した後、作業機昇降スイッチでロータリを下ろしてください。

※ポジションレバーは、最下げ「オート」の位置にしておいてください。

ポジションレバー



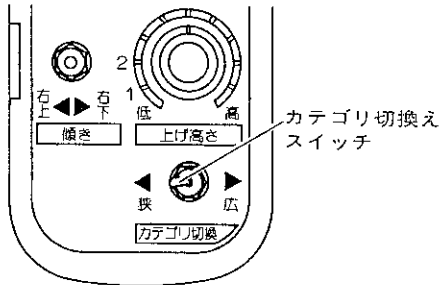
実際の耕深を見ながら、希望の耕深でないときは、深さダイヤルで耕深を調節してください。



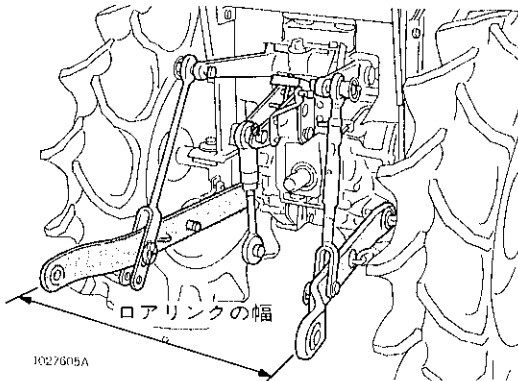
目盛位置	作業内容
浅 ~ 3	代かき・浅耕
3 ~ 4	一般耕うん
4 ~ 深	深 耕

3. カテゴリ切換えスイッチ

作業機をつけかえたとき、その作業機によって定まる3点リンクの取付状態（ロアリンク幅）に応じて下表より選択し、その位置にスイッチを切換えてください。



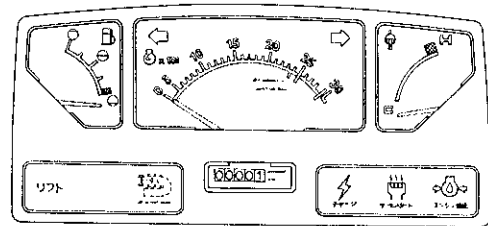
※作業機の取付けは62ページ（3点リンク）および作業機の取扱説明書に従って行なってください。



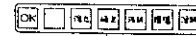
ロータリ	クイックヒッチ付 ロータリ
内幅 465mm作業機	内幅 565mm作業機
狭	広
カテゴリ切換えスイッチ位置	

4. センサ異常時の表示について

センサに異常が発生した場合は、パネルの表示ランプが点滅します。この場合は、正常作業ができなくなりますので、販売店までご連絡ください。



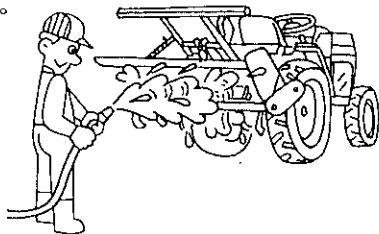
1019211A



表示ランプ

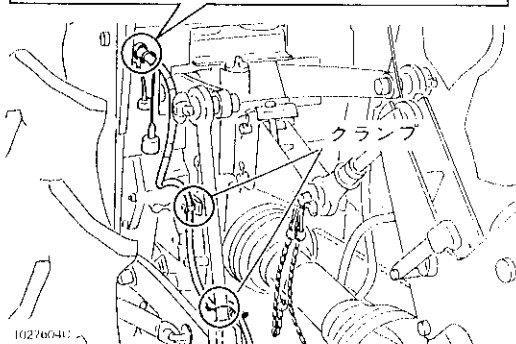
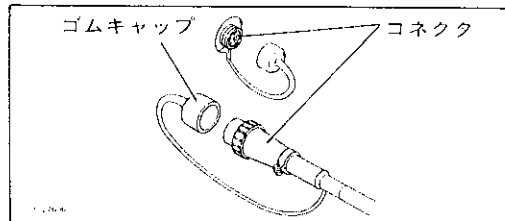
5. 使用後の手入れ

使用後洗車する場合(特に高圧洗車)は、コントロールボックス・電磁バルブ・センサー類および電装品への直接放水はさけてください。

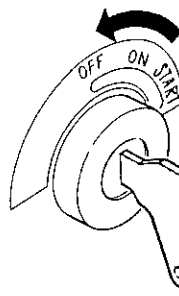


【注意】

- トラクタのコネクタ部に接続する時は、コネクタ部に水滴、泥などの付着がないことを確かめて接続してください。ロータリが故障する原因となります。



長期間保管の場合は、必ずキースイッチを「OFF」にしてから抜いて保管してください。



1019211D

キースイッチ

EG-UFO仕様について (U1仕様のみ)

1. 各部のなまえとはたらき

通常作業に必要なもの

オートロータリレバー

54ページオートロータリの使い方を
ご覧ください。

ポジションコントロールレバー

54ページポジションコントロールの
使い方をご覧ください。

傾き自動スイッチ

ランプが点灯しているときは傾き、
自動が働いています。

●「傾き」自動で使用する場合

傾き自動スイッチが点灯しているとき傾き設定ダイヤルを操作して、作業機を任意の角度に設定すれば、トラクタの傾きにかかわらず、作業機を地面と一定の角度に保つことができます。

●「傾き」手動で使用する場合

傾き自動スイッチが消灯しているとき、手動レバーを操作して、作業機を任意の角度に設定すれば、トラクタに対して一定の角度に保つことができます。

設定操作中に、作業機がトラクタに対して平行位置を通過する場合は、平行位置でいったん停止します。

手動レバー

●「傾き手動」で使用する場合

トラクタに対する作業機の角度を
任意に設定できます。

●「傾き自動」で使用する場合

傾き手動レバーを動かしているときのみ作業機の角度が変わります。
手を放すと傾き設定ダイヤルで設定された角度になります。

EG-UFO

操作ボックス

【取扱いの注意】

作業機を最上昇位置にしても設定された角度を保ちます。

1019219B

設定の作業に使うもの

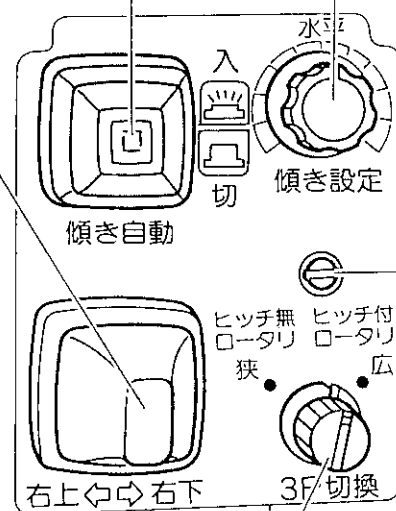
作業条件を設定する必要がある場合は、カバーを開けて、調節してください。

傾き自動スイッチ

72ページをご覧ください。

手動レバー

72ページをご覧ください。



1019219A

傾き設定ダイヤル

「傾き自動」のとき、作業機と地面の角度を設定することができます。

【取扱いの注意】

「傾き自動」のとき、作業機を上昇位置にすると、作業機はトラクタと平行になり、傾き設定ダイヤルは働きません。

【取扱いの注意】

工場出荷時に水平調整をしてありますので、特別な場合を除いてふれないでください。

微調整スクリュー

傾き自動時の作業機の水平の微調整を行ないます。

3P切換えスイッチ

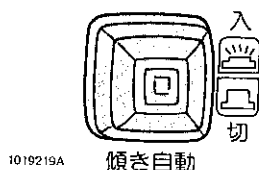
75ページをご覧ください。

2. 基本的な使いかた

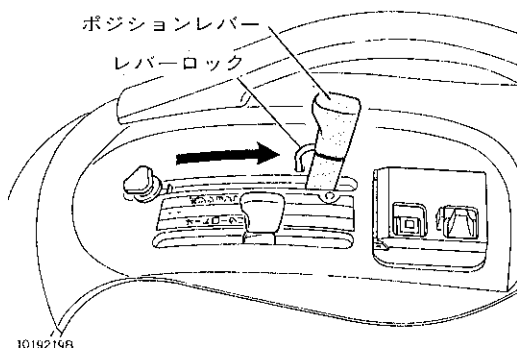
路上走行のとき

路上走行するときは、作業機が自然に下降したり、傾いたりしないように、次の処置をしてください。

EG-UFO操作ボックスの傾き自動スイッチが点灯している場合は、傾き自動スイッチを押して消灯状態(手動)にしてください。



ポジションレバーを最上げ「浅」位置にして作業機を上げてください。

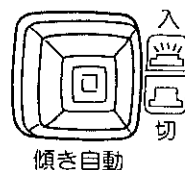


【取扱いの注意】

油圧ストップバルブは開いたままで、ポジションコントロールレバーを上げ位置にして、レバーロックをセットして走行してください。

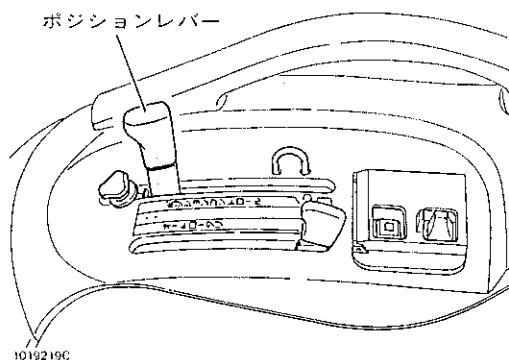
ロータリ作業

EG-UFO操作ボックスの傾き、自動スイッチが消灯しているときは傾き、自動スイッチを押してランプを点灯させてください。



オートロータリレバーで耕深を設定した後、作業機昇降スイッチでロータリを下ろしてください。

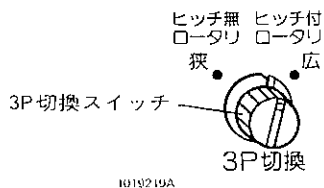
※ポジションコントロールレバーは、最下げ「解除」の位置にしておいてください。



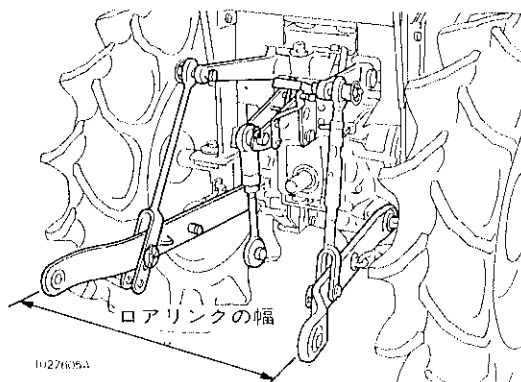
実際の耕深を見ながら、希望の耕深でないときは、オートロータリレバーで耕深を調節してください。

3. カテゴリ切換えスイッチ

作業機をつけかえたとき、その作業機によって定まる3点リンクの取付状態（ロアリンク幅）に応じて下表より選択し、その位置にスイッチを切換えてください。



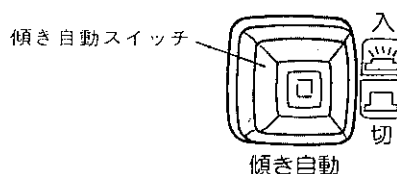
※作業機の取付けは62ページ（3点リンク）および作業機の取扱説明書に従って行なってください。



ロータリ	クイックヒッチ付 ロータリ
 内幅 465mm作業機 狭	 内幅 565mm作業機 広
3点切換スイッチ位置	

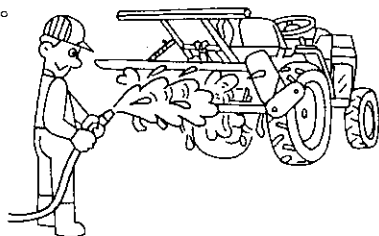
4. センサ異常時の表示について

センサに異常が発生した場合、EG-UFO操作ボックスの傾き自動スイッチが点滅します。この場合は、正常作業が行なえなくなりますので、販売店までご連絡ください。



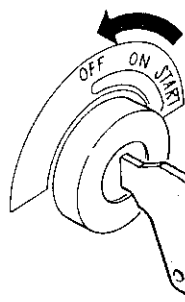
5. 使用後の手入れ

使用後洗車する場合(特に高圧洗車)は、コントロールボックス・電磁バルブ・センサーおよび電装品への直接放水はさけてください。



1013921B

トラクター使用後は、必ずキースイッチを「OFF」にしてから抜いて保管してください。



1019211D

キースイッチ

作業後の手入れについて 正しい手入れを行なってください。

1. 作業後の手入れ

⚠ 危険

- シートをかける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラが十分冷えたことを確認してからかけてください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

その日の内にトラクターを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各グリスアップおよび注油を行なってください。

⚠ 注意

- 点検・整備の修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行なってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。

【取扱いの注意】

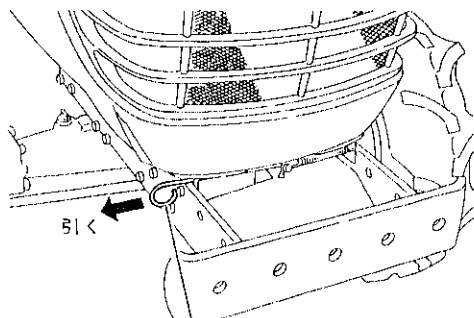
- 電装品にはできるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因となります。



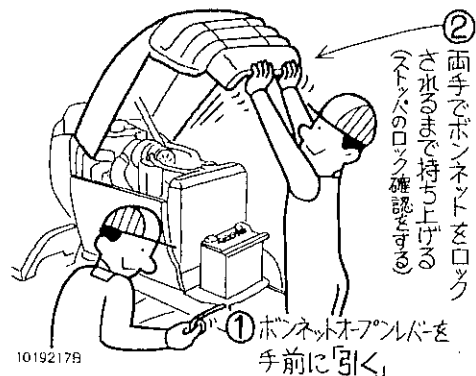
2. ボンネット・サイドカバーの開閉のしかた

ボンネット開閉のしかた

- ① ボンネットオープンレバーを手前に引くと、ボンネットのロックが解除されます。



- ② 両手でボンネットをスタンドがロックされるまで持ち上げて、ストッパが確実にロックしているか確認してください。

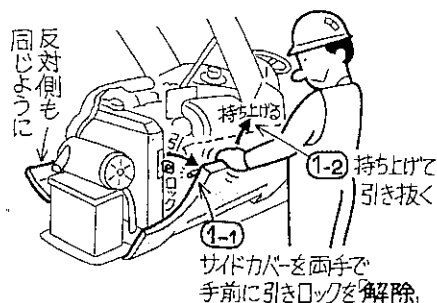


- ③ ボンネットを閉じる場合は、ボンネットを持ち上げて、ロックを解除し、前方上面を両手で「カチッ」と音がするまで強く押してください。

作業後の手入れについて一正しい手入れを行なってください。

サイドカバー開閉のしかた

- ①エンジンサイドカバー上部を両手で手前に引き、ロックを解除して持ち上げます。
- ②エンジンサイドカバーを閉じる場合は、開ける場合の逆の手順を行なってください。



2010330

3. 長期間使用しない場合の手入れ

⚠ 警告

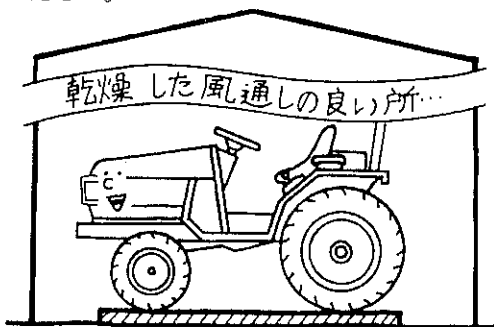
- 格納する場合は、バッテリーを外し、キーを抜き取り保管してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

⚠ 注意

- 格納する場合は、クラッチペダルをロックしてください。守らないと、クラッチが切れなくなり事故をおこすおそれがあります。

トラクターを長期間使用しない場合は、次の要領で整備し、格納してください。

- ①乾燥した風通しの良い所で、ウエイトなどは取り外し、ロータリーも取り外すか、降した状態にして、下には板を敷いてください。



2010585

- ②外部の錆やすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。
- ③燃料タンクに燃料を満タンにしてください。空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。燃料コックは「C」（閉の状態）にしてください。

作業後の手入れについて一正しい手入れを行なってください。

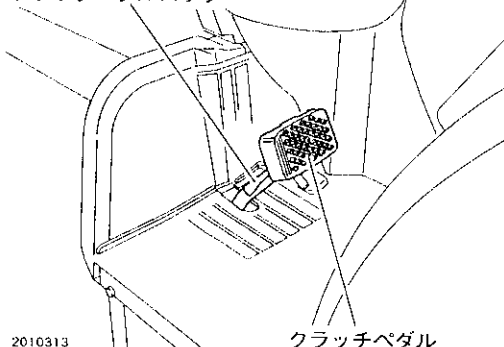
④バッテリーを完全充電し、なるべく本機から取り外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。また、本機に取り付けたまま保管するときは、必ずアース側（一侧）を外してください。

⑤冷却水を抜き取ってください。

⑥エアクリーナ・マフラー・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないよう、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。

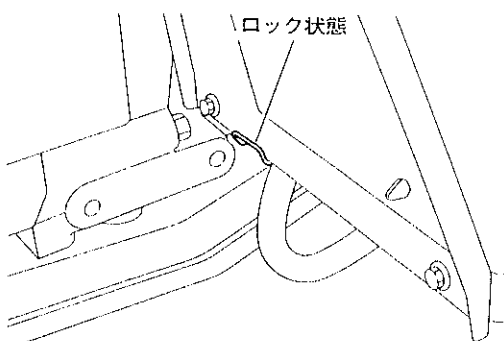
⑦クラッチは、クラッチの錆付きを防止するため、クラッチを踏み込んだ状態でクラッチペダルロックをかけてください。

クラッチペダルロック



2010313

クラッチペダル



2010345

⑧前・後輪タイヤとも、正規の空気圧にしてください。（95ページ参照）

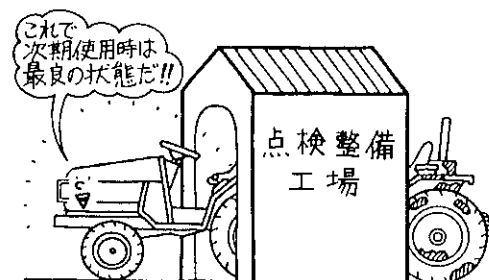
⑨バックアップスイッチを押して、ランプを消してください。

⑩キースイッチを抜きとり、トラクター以外の場所に保管してください。

【取扱いの注意】

- バッテリーは、使わなくても自然放電します。1ヵ月に1度は充電器で完全充電してください。（89ページ参照）

長期間使用されない間に、保守整備契約制度による、点検整備をお受けになりますと、次期使用時に最良の状態でご使用いただけます。



2010399

定期の点検・調整について

⚠ 警告

- 点検・整備は、交通の危険がなく、トラクターが倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、タイヤに車止めをして行なってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。

⚠ 注意

- 1年毎に定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料パイプやパワーステアリングホースは2年毎に交換してください。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。
- 点検・整備・修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。
- 点検・整備などで取外したカバー類は、かならず取付けてください。
守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

定期点検や整備は、農閑期に行ない農繁期には機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとに販売店・整備工場で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。特に燃料パイプや、パワーステアリングホース、ラジエータホースなどのゴムホース類や電気配線は2年ごとに交換するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行なえるようにしてください。

1. 定期点検一覧表

アワメータ表示時間 実 施 項 目	50 時 間 目	100 時 間 目	150 時 間 目	200 時 間 目	250 時 間 目	300 時 間 目	350 時 間 目	400 時 間 目	450 時 間 目	500 時 間 目	550 時 間 目	600 時 間 目	参 照 ペ ー ジ
エンジン潤滑油交換	○	○		○		○		○		○		○	83
ミッションオイル点検(交換)	交換	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	84
フロントアクスルオイルの点検(交換)	○	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	84
パワーステアリングオイル点検・交換	交換	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	
エンジンオイルエレメント交換	交換					交換						交換	85
ラインフィルタ(ミッションオイルエレメント)交換	交換					交換						交換	86
エアクリーナエレメント点検(交換)	○	○	○	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	88
防塵網のゴミつまりの掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	88
冷却ファン・ラジエータのゴミつまりの掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	88
冷却水の点検(交換)	仕業時毎に点検(1年毎に交換)												87
ラジエータ内部の掃除	冷却水交換時												87
ミッション内オイルコシ器洗浄	洗浄					○						○	84
燃料コシ器の洗浄およびエレメントの交換		○		○		交換		○		○		洗浄	86
バッテリー液量点検	仕業時毎に点検												89
バッテリー液比重点検および補充電		○		○		○		○		○		○	89
燃料パイプおよび結合部の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	89
パワーステアリングのゴムホースの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ラジエータホースの点検・交換	仕業時毎に点検(2年毎に交換)												89
燃料パイプ・電気配線の交換	仕業時毎に点検(2年毎に交換)												89・90
電気配線の点検 ※1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	90
各部グリスアップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	90
ステアリング各部締付点検		○		○		○		○		○		○	
重要ボルトナットの点検(増締)	○	○		○		○		○		○		○	
冷却ファンベルトの点検	○	○		○		○		○		○		○	93
エンジンのブリーザパイプの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
エンジンクランクケースの洗浄						○						○	
吸排気弁すき間の点検												○	
燃料噴射弁の点検												○	
発電機、始動電動機の点検	○	○				○				○			
油圧装置の点検	○	○				○				○			
タイヤの点検	仕業時毎に点検												95

※1 50時間ごとに点検を基本としますが、使用時間が満たない場合は1年ごとに行ってください。

※2 交換の必要なものは、使用時間に達しなくても2年ごとに交換してください。

※3 パワーステアリングの高圧ホースは2年ごとに交換してください。

2. オイル・グリス・不凍液一覧表

種類	販売メーカー	共 同 石 油	日 本 石 油	コ ス モ 石 油
燃 料		ディーゼル軽油 (JIS2号)	ディーゼル軽油 (JIS2号)	ディーゼル軽油 (JIS2号)
エンジンオイル (新SEA、CC級) (JIS K2216 2種) (DG または DM)		ヤンマースーパーオイル ヤンマースーパーオイル デラックス	ヤンマースーパーオイル ヤンマースーパーオイル デラックス	ヤンマースーパーオイル ヤンマースーパーオイル デラックス
グ リ ス (マルチパーバスタイプ)		共石リゾニックス グリースNo.2	2号エビノックグリース	ダイナマックスまたは ダイナマックスEP
不 凍 液 (JIS K2234 2種) (パーマネントタイプ)		ヤンマースーパーフリーズ	ヤンマースーパーフリーズ	ヤンマースーパーフリーズ
ミッションオイル (油圧パワステオイル兼用) フロントアクスルオイル		TF-500 トランスミッショ ンフルード	TF-500 トランスミッショ ンフルード	TF-500 トランスミッショ ンフルード

注) 気温-10℃以下のとき、燃料は特3号軽油を使用してください。

3. 給油・給水一覧表

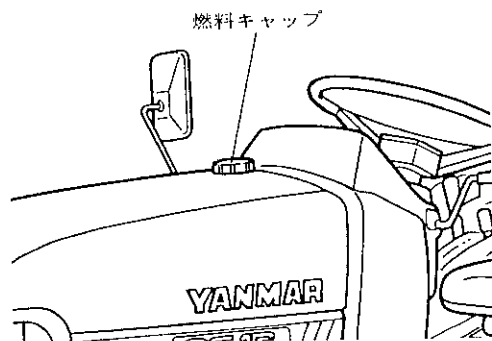
型 式	AF-15・16・17・18	
燃 料	20 ℓ	
冷 却 水	ラジエータ	3.6 ℓ
	サブタンク	0.4 ℓ
エ ン ジ ン オ イ ル	2.4 ℓ	
ミ ッ シ ョ ン オ イ ル	20 ℓ	
フ ロ ン ト ア ク ス ル	2.0 ℓ	

4. 燃料の点検・給油のしかた

⚠ 危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- エンジン回転や、エンジンが熱い間は、絶対に給油はしないでください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

メインスイッチを「ON」位置にして、燃料計が斜線区域を指示したら、燃料キャップを外して給油口より補給してください。



【取扱いの注意】

- 給油するときは、ゴミが入らないようフィルタネットを外さないでください。フィルタネットにゴミがつまったらときはゴミを取り除いてください。

5. 各部オイルの点検・交換のしかた

⚠ 危険

- エンジン回転中や、エンジンが熱い時は絶対に注油しないでください。守らないと、火災やヤケドを起こすおそれがあります。

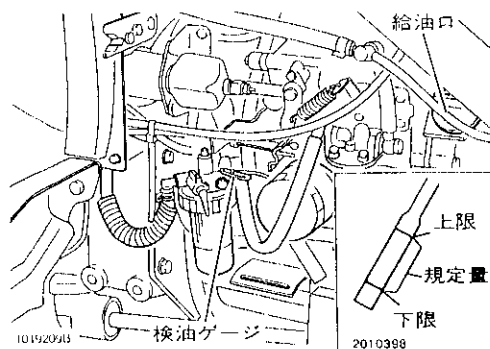
⚠ 注意

- エンジン停止直後のオイル交換はしないでください。守らないと、ヤケドをするおそれがあります。

エンジンオイル

点検

エンジン部右側横の検油ゲージを抜いて、先端をきれいにふいて差し込み、再び抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より検油ゲージ規定量まで入れてください。



【取扱いの注意】

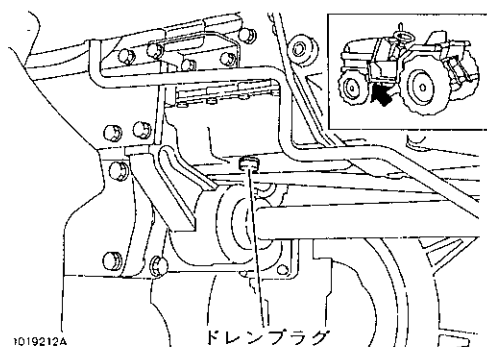
- オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。

交換

エンジン下部のドレンプラグから排油してください。給油はエンジンの給油口からしてください。

エンジンオイルは、定期的に交換すると同時に、気温・使用状況に合わせてエンジンオイルを使いわけることが大切です。

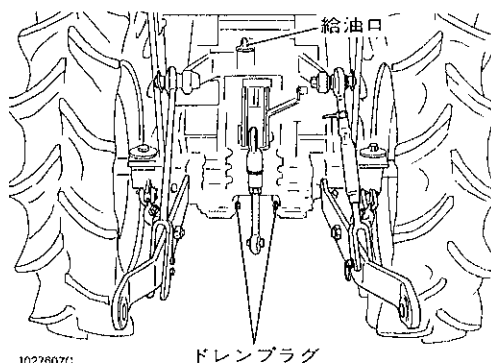
詳しくは、お買い上げいただいた販売店、農協、ガソリンスタンド、お近くの当社支店までご相談ください。



ミッションオイル

点検

左右ステップ間の検油ゲージを抜いて、先端をきれいにふいて差し込み、再び抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より検油ゲージ規定量まで入れてください。



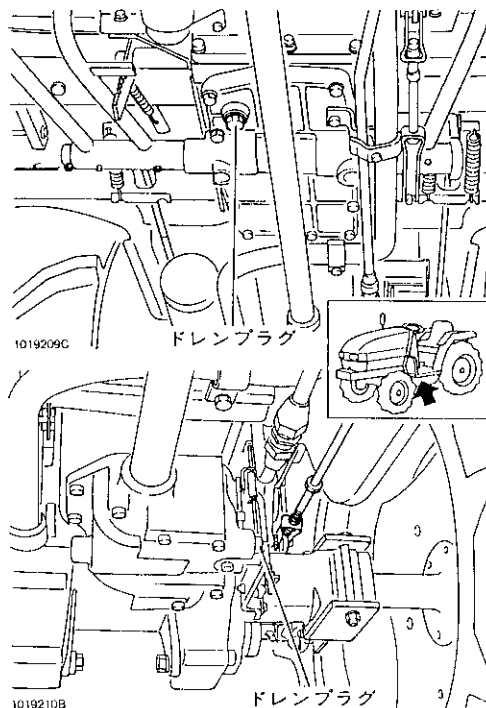
交換

ミッションケース下側、4輪駆動取出ケースおよび、リアアクスルケース下部の左右、計4箇所のドレンプラグから排油してください。

オイルを抜くときは、ミッションが暖かい内に抜くときれいに抜けます。給油は油圧ケース上部の給油口から入れてください。

※ミッションオイルは、油圧オイル、パワーステアリングのオイルと併用しています。

※ミッションオイルは、必ず純正TF500トランスミッションフルードを使用してください。

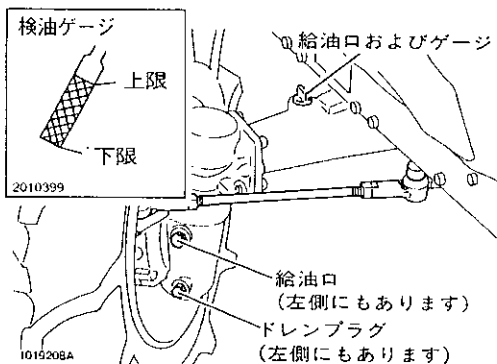


フロントアクスルオイル

点検

フロントアクスル右上部の給油口のふたを外してゲージの先端をきれいにふき、ねじ込まない状態で差し込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口よりゲージの

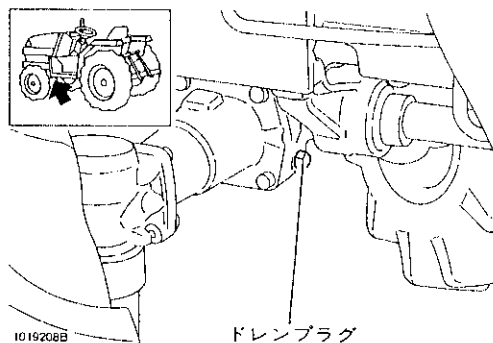
規定量まで入れてください。



交換

フロントアクスル中央部とフロントアクスル下部の左右ドレンプラグ3箇所から排油してください。

給油はフロントアクスル右上部および、左右の給油口、計3箇所の給油口から行なってください。

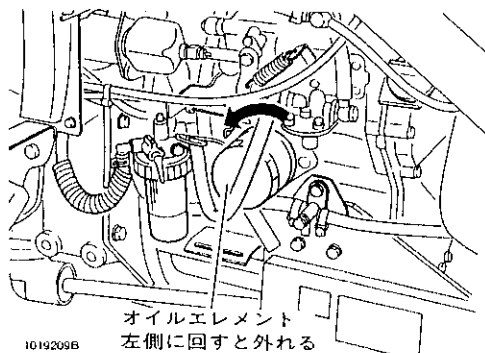


※フロントアクスルオイルは、必ず純正TF500トランスミッションフルードを使用してください。

6. 各部エレメントの交換のしかた

エンジンオイルエレメント

300時間または、エンジンオイルを2～3回交換ごとにエレメントを取り替えてください。



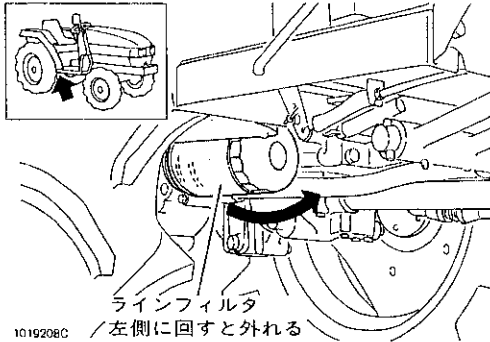
交換

- ①エンジンオイルを抜き取ったあと、カートリッジをフィルタレンチで左側に回して外します。
- ②新しいカートリッジの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、フィルタレンチで確実に取り付けてください。
- ③エンジンオイルを交換後、エンジンを始動して油圧パイロットランプが消えるまで回してください。
- ④油圧パイロットランプが消えたら、もう一度検油ゲージでオイル量の点検をし、不足していれば補給します。

定期の点検・調整について

ラインフィルタ(ミッションオイルエレメント)

ラインフィルタは、カートリッジタイプになっています。300時間ごとに交換してください。

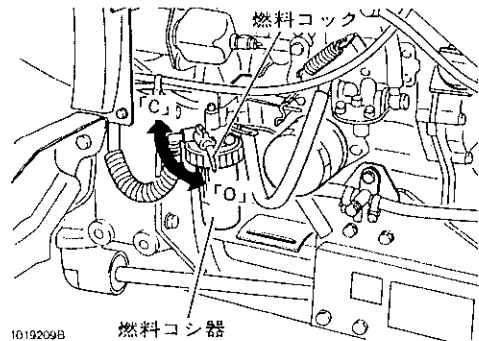


交換

- ① ミッションオイルを抜き取ったあと、ラインフィルタのカートリッジを左側に回して外します。
- ② 新しいラインフィルタの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、手で確実に取り付けてください。
- ③ ミッションオイル交換後、エンジンをアイドリングにして、検油ゲージでオイルの量を点検し、不足している場合は補給してください。

燃料フィルタ・燃料コシ器エレメントの清掃・交換

- ① 燃料コックを「C」(閉の状態)位置にします。
- ② コシ器を外し、コシ器内の水・ゴミを取り除きます。
- ③ コシ器の洗浄が終わったら元通りに取り付け、燃料コックを「O」(開の状態)位置にし、燃料エア抜きを行ないます。(燃料のエア抜きのしかたは88ページを参照してください。)



- ④ コシ器内のエレメントは、300時間ごとに交換してください。

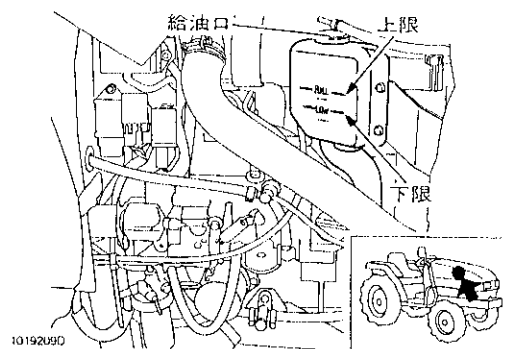
7. 冷却水の点検・交換のしかた

⚠ 危険

- ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後に開けないでください。エンジンが停止してエンジンが冷えてから開けてください。守らないと、熱湯が吹き出し、ヤケドを負うおそれがあります。

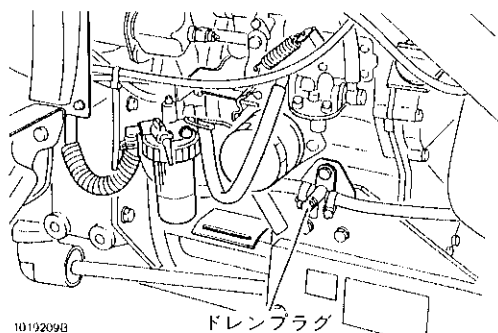
点検

ボンネットおよび、エンジンサイドカバー（右側）を開け、サブタンク内の水が「上限」から「下限」の範囲にあるか調べてください。不足しているときは、サブタンクの給水口より不凍液を補給してください。



交換

- ① ラジエータキャップを外し、ドレンプラグをゆるめて、ラジエータ内の水を全て抜きます。



- ② 水道水で、ゴミや錆が出なくなるまでラジエータ内部を洗います。

※ラジエータ洗浄剤を混合した水を入れ、15分以上エンジンを空回転させてから、水を抜き取ると、ラジエータ内はいつそうきれいになります。

- ③ ドレンプラグを取り付け、不凍液を必要量入れてから、清水をあふれるまで入れます。

- ④ ラジエータキャップを取り付け、エンジンを始動して、不凍液と清水をよく混合します。

＜不凍液の取り扱いについて＞

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果をもっています。なお、不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯などにおいては下表を参照の上、安全な濃度で使用してください。

なお、工場出荷時の不凍液混合比率は、外気温 -25°C としております。

不凍液混合比率表

外気温度 ($^{\circ}\text{C}$)		-5	-10	-15	-20	-25	-30
比率	水 (%)	82	73	66	61	55	49
	不凍液 (%)	18	27	34	39	45	51

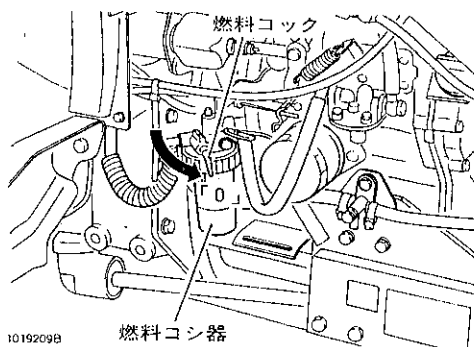
【取扱いの注意】

- 新しい冷却水と交換するときは、必ず防錆液を入れて、5分間エンジンを空回転し、防錆液の混合を早めてください。
- 混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱説明書の指示に従ってください。
- 冷却水が自然に不足した場合には、清水だけを入れてください。（セミパーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して、確認してください。）
- 不凍液の有効期限は1年です。毎年新しい不凍液と交換してください。

8. 燃料の空気（エア）抜きのしかた

燃料切れを起こし、エンジンが停止したとき、または、点検整備で燃料コシ器エレメント、燃料配管を外したときは、次の手順で燃料の空気（エア）抜きをしてください。

- ①燃料タンクに燃料を補給します。
- ②燃料コックを「0」（開の状態）の位置にします。

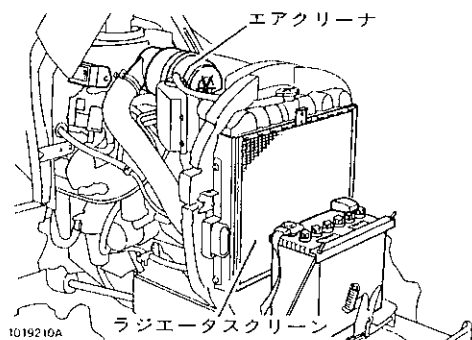


- ③自動的に、燃料コシ器に燃料が満たされるのを確認します。
- ④アクセルレバーを最高回転位置にし、メインスイッチを「START」位置にしてセルモータを回します。

以上で空気（エア）抜きは完了です。

9. ラジエータスクリーンとエアクリーナエレメントの掃除・交換のしかた

エアクリーナは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダライナ・ピストンリングの摩耗を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。ホコリの多い所で作業するときは、50時間ごとに掃除・400時間ごとに交換してください。普通の所でも100時間ごとに掃除・1000時間ごとに交換してください。規定時間になっていなくても、1年間でエレメントを交換してください。



〈エアクリーナエレメントの掃除のしかた〉

ふたを取り外し、中のエレメントを抜き取り、エレメントの内側から、空気を吹き付けるか、振動を与えて塵を落します。フィンに傷を付けないよう気をつけてください。

〈ラジエータスクリーンの掃除のしかた〉

ラジエータスクリーンを横に引き出してください。

ワラズやホコリを取り除いてください。

作業前、作業後に掃除してください。

10. バッテリーの点検のしかた

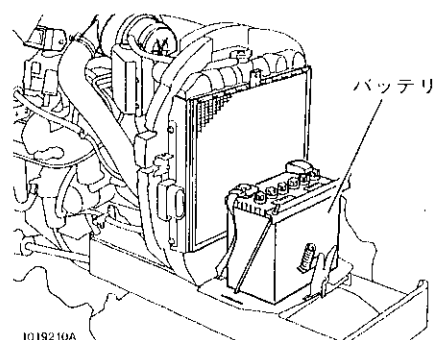
⚠ 危険

- バッテリーの点検時・充電時、火気厳禁です。守らないと、引火爆発し、ヤケドを負うおそれがあります。
- バッテリー液を身体や服につけないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。守らないと、服が破れたり、ヤケドを負うおそれがあります。

⚠ 注意

- バッテリーの取付けは十側を先に取付け、取外すときは一側から取外してください。守らないと、ショートしてヤケドを負うおそれがあります。

バッテリーの上限と下限のラインの間に液があるか調べます。不足している槽があれば蒸留水を上限のラインまで補給してください。



【取扱いの注意】

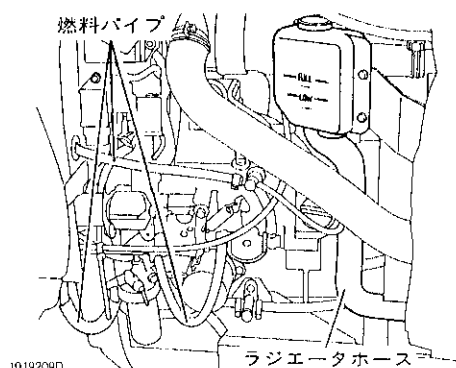
- バッテリー各槽に、液を入れすぎると、充電時にバッテリー液が吹き出し、トラクターの金属部を腐蝕させます。
- 急速充電は避けてください。
- バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した容量のバッテリーを使用してください。

11. パイプ類の点検について

⚠ 危険

- 燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますのでかならず点検してください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

燃料パイプ、パワーステアリングホース、ラジエータホースなど傷んで燃料もれ、水もれがないか、また、締付バンドがゆるんでないかも調べてください。傷んでいなくても2年ごとに交換してください。



【取扱いの注意】

- 燃料パイプを交換したときは、空気（エア）抜きをしてください。（88 ページ参照）

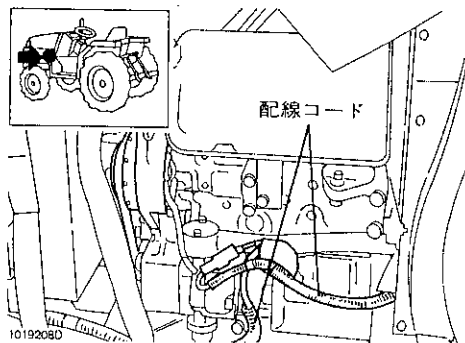
12. 電気配線の点検について

⚠ 警告

- 配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。
- バッテリーや配線に付着しているワラクスやゴミは、作業前、作業後にきれいに取り除いてください。守らないと、ショートして火災をおこすおそれがあります。

エンジンサイドカバーを外し、電気配線コードが他の部品に接触して被覆のはがれや傷、または、接続部のゆるみがないかを調べてください。傷んでいる場合は、お買い上げいただいた販売店または農協で修理してください。

傷んでいなくても使用時間 50 時間ごと、または 1 年ごとに定期点検を受けてください。

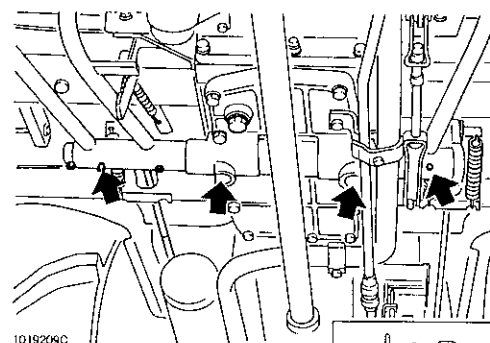


13. グリスアップ(注入)について

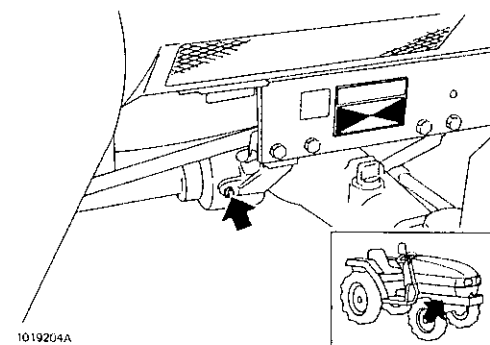
グリスアップは、50 時間ごとに行なっていますが、作業に入る前に各箇所のグリスの点検を行ない、必要ならばグリスアップしてください。また、代かき作業などで泥水に入った後は、作業終了後必ずグリスアップしてください。

ブレーキペダルシャフト

クラッチペダルシャフト



センターピンサポート

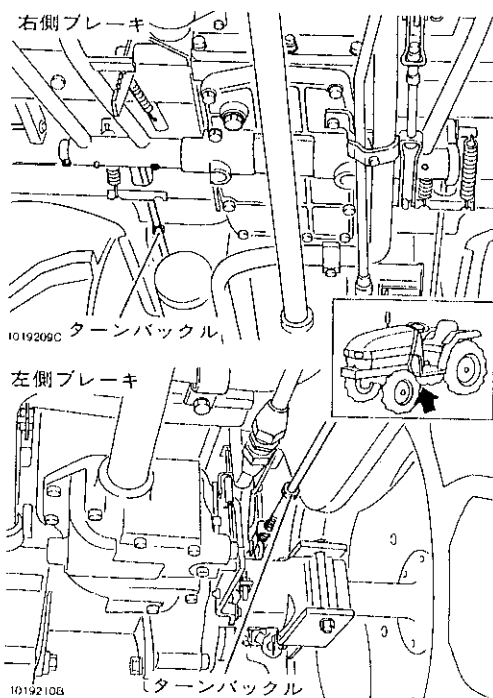
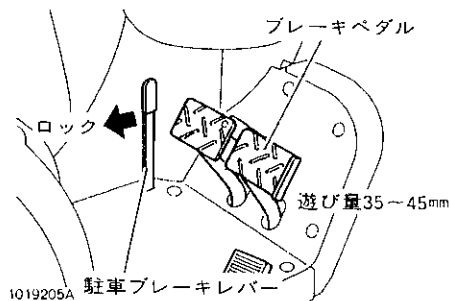


14. ブレーキの点検・調整について

⚠ 警告

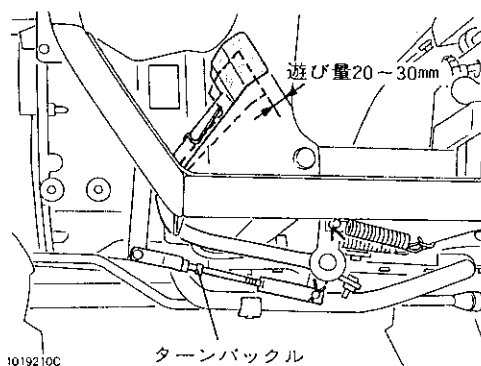
- ブレーキのききが悪かったり、片ぎきがないように点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。
- 左右のブレーキペダルの遊び量が異なると、ブレーキの片ぎきが生じます。常に、左右の遊び量が同一であるようにしてください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

ブレーキペダルを踏み込んで、規定の遊び量（25～35 mm）と左右が同時に効くかを調べてください。規定の遊び量でない場合は、左右の遊び量が25～35 mmになるように、ブレーキペダル後方にあるターンバックルで調節してください。調節後はナットを確実に締め付けてください。また、ブレーキペダルをいっばいに踏み込んだときに、駐車ブレーキレバーが確実にかかることを確認してください。



15. クラッチの点検・調整について

クラッチペダルを踏み込んで、規定の遊び量（20～30 mm）があるかを調べてください。規定の遊び量でない場合は、遊び量が20～30 mmになるように、ターンバックルで調節してください。調節後はナットを確実に締め付けてください。

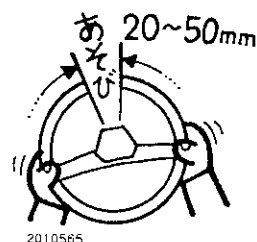


16. ハンドルの点検・調整について

⚠ 警告

- ハンドルに著しいガタや遊びがないように、点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

ハンドルを軽く左右に動かしたときの遊び量が20～50 mmの範囲にあるか調べてください。遊び量が適正でないとハンドルが重くなったり、直進性が悪くなります。遊び量が適正でないときは、お買い上げいただいた販売店、農協で整備してください。

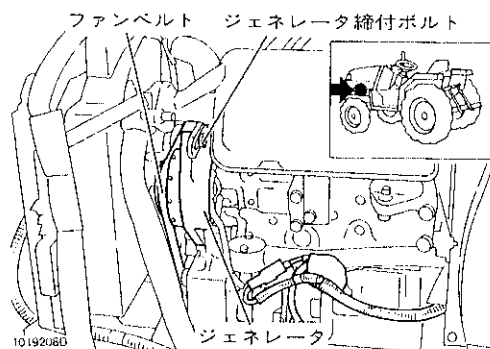


17. ファンベルトの点検・調整について

⚠ 注意

- エンジンが十分冷えた状態で行なってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。

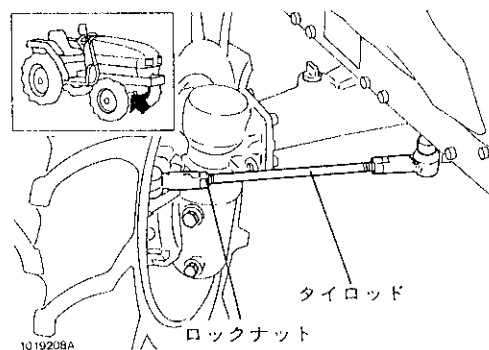
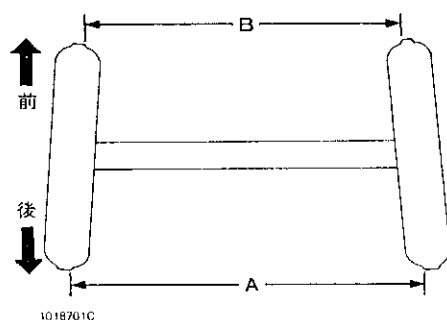
ボンネットおよび、エンジンサイドカバーを開け、ファンベルトの中間を指で押え、ベルトのたわみが10～15mmあるか、ベルトが損傷していないか調べてください。たわみが適正でないときはジェネレータ締付ボルトをゆるめ、ジェネレータを移動させて張りを調節します。また、ジェネレータをいっぱい動かしてもベルトがスリップするようでしたら、新しいベルトと交換してください。なお、新しいベルトは、交換後50時間目に必ず点検してください。



18. トーインの点検・調整について

トーインの調整が悪いと、ハンドルを取られたり異常に振れることがあります。調整は前輪のA寸法とB寸法を測定し、 $A - B$ が0～5mmであるか調べてください。

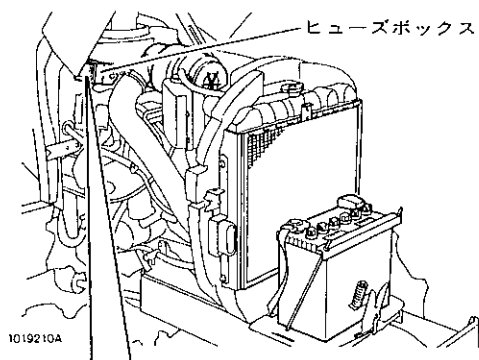
規定寸法でない場合は、左右のタイロッドエンドのロックナットをゆるめ、ネジ長さを調節します。トーインが0～5mmになったらロックナットで固定してください。



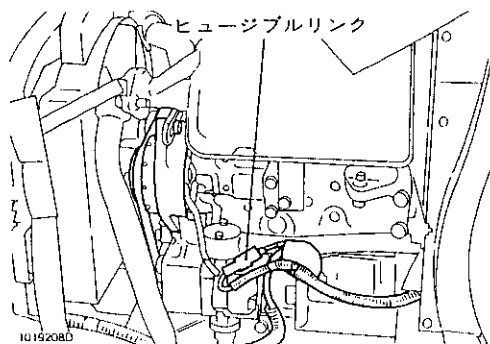
19. ヒューズ・ヒューズブルリンク の点検・交換について

ヒューズボックスのふたを外して、ヒューズを点検してください。切れていれば、規定容量のものと交換してください。

また、エンジンを停止して、メインヒューズ（ヒューズブルリンク）を点検してください。ヒューズブルリンクはヒューズの一種で万一、配線回路（常時通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。溶断したら外被（ビニール）が変色しますので、お買い上げいただいた販売店、または農協で点検を受けてください。



ヒューズボックス					
15A	20A	10A	10A	10A	10A
ヘッド ホーン	回動モータ	タイン	コン トロー ラ	メ ー タ ー シ グ ナ ル	12V 取 出 し 用
予備20A		予備15A		予備10A	



ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた販売店または農協で点検を受けてください。

【取扱いの注意】

- ヒューズを交換するときは、必ず規定容量のものを使用し、他のものは使用しないでください。

20. タイヤの点検について

〈タイヤの点検〉

前・後進の空気圧を標準空気圧に調整してください。また、タイヤに亀裂などがないか確認してください。

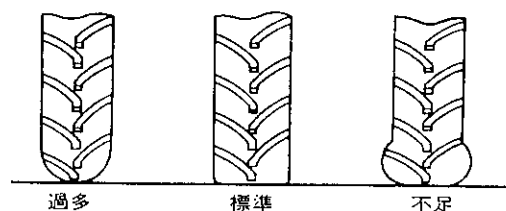
フロントローダなど前輪に重荷重がかかる場合は、タイヤ側面に表示されている範囲で空気圧を上げて作業してください。

タイヤ空気圧

		空気圧 (kg/cm ²)
標 準	前 輪	1.5
	後 輪	1.0
最 大	前 輪	2.0
	後 輪	1.6

ターフ仕様の場合

	空気圧 (kg/cm ²)
前 輪	1.6
後 輪	1.4



2010559

〈車輪の取付ボルトの点検〉

各車輪の取付ボルトのゆるみを確認してください。ゆるみがあるときは下表に従い増締めしてください。

車 輪	締 付 ト ル ク
前 車 輪	4.5 ~ 5.7kg・m
後 車 輪	11.9 ~ 15.1kg・m

21. 排気ガスの色について

エンジン始動時は、少し黒色の排気ガスがでますが、通常は無色です。

黒色…燃料が濃すぎるための不完全燃焼。

白色…エンジンオイルが燃焼しています。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。

黒色、白色の排気ガスが負荷をかけなくても出るときは、販売店、または農協で整備してください。

不調診断

※もし機械の調子が悪いときは、表を参考にし、必ずエンジンを止めてから診断してください。

1. エンジン関係

状 況	点検箇所	処 置
キースイッチを回してもスタータが回らない。	クラッチペダルを踏み込んでいますか。	クラッチペダルを完全に踏み込んでから、メインスイッチを「START」に回してください。
	バッテリー液は規定量入ってますか。または放電してはいませんか。	バッテリー液を規定量補給し、満充電してください。
	バッテリー端子部のゆるみ外れ、腐蝕していませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けて、グリスを塗布し防錆してください。
	メインヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。
	スイッチが故障していませんか。	サービス工場で修理、または交換してください。
	セルモータが故障していませんか。	サービス工場で修理、または交換してください。
スタータは回るがエンジンが始動しない。	燃料タンクに燃料が入っていますか。	満タンに給油し、エア抜きをしてください。
	燃料にエアが混入していませんか。	燃料のエア抜きを行なってください。
	燃料コックが「C」位置になっていませんか。	燃料コックを「O」位置にしてください。
エンジンが不規則に回転する。	燃料系統にエアが混入していませんか。	エア抜きをしてください。
	燃料に水が混入していませんか。	水を抜き、新しい軽油と交換してください。
	噴射ノズルが詰まっていますか。	修理、または交換してください。
	燃料フィルタが目詰りしていませんか。	洗浄、または交換してください。

状 況	点検箇所	処 置
エンジンが過熱する (オーバーヒート)	冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。
	ファンベルトはゆるんでいませんか、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。
	ラジエータフィンが目詰りしていませんか。	清掃してください。
	エンジンオイルが不足していませんか。	オイルを補給してください。
	過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。
エンジンの力が出ない	エアクリーナが目詰りしていませんか。	エアクリーナを点検してください。
	ノズルが焼付きついていませんか。	} サービス工場での修理をしてください。
	圧縮力が不足していませんか。	
	バルブクリアランスの調整は適正ですか。	
	噴射時期が悪くありませんか。	
マフラーより白煙が出る	エンジンオイルの量が多すぎる	オイルを適量になるまで抜き取る
	エンジンオイルの粘度が低すぎる	適度な粘度のオイルに交換する
運転中にエンジン油圧 ランプが点灯した	エンジンオイル量が少なくなっていますか。	オイルを規定量まで補給してください。
	エンジンオイルの粘度が低くありませんか。	適性粘度のオイルと交換してください。
	プレッシャスイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	オイルポンプが故障していませんか。	サービス工場での修理をしてください。
サーモスタートランプ が点灯しない	ヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。
運転中にチャージランプ が点灯した	レギュレーターが故障していませんか。	サービス工場での修理をしてください。
	レギュレーター（カーレントリミッタ）が故障していませんか。	レギュレーター（カーレントリミッタ）の交換をしてください。
	ファンベルトのゆるみ、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。

2. クラッチ・ブレーキ関係

状 況	点 検 箇 所	処 置
クラッチがすべる、または切れない	ペダルの遊び量は適正ですか。	ペダルの遊び量を調整してください。
ブレーキのききが悪い、または片ぎきする	ブレーキの遊び量は適正ですか。	ペダルの遊び量を調整してください。
ブレーキペダルの戻りが悪い、またはブレーキが鳴く	ブレーキ戻しスプリングが破損していませんか。	スプリングを交換してください。
	各摺動部のグリスが切れていませんか。	錆を落としてグリスアップしてください。

3. 油圧関係

状 況	点 検 箇 所	処 置
作業機が上がらない	油圧ストップ、スローリターンバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップ、スローリターンバルブを「開」にしてください。
	ミッションオイルが不足していませんか。	規定量まで補給してください。
	吸入パイプ系統からエアの吸い込みがありませんか。	フィルタケースや取付部などを増し締めし、パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損していれば交換してください。
	オイルフィルタが目詰りしていませんか。	清掃または交換してください。
	油圧ポンプが故障してはいませんか。	サービス工場で修理してください。
	コントロールバルブがゴミをかんでいませんか。またはOリングは破損してはいませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。
リバーサレバーを「R」にしても、作業機が上がらない。 (作業機昇降スイッチを) 上げにしても、作業機が上がらない。 (OK-UFO仕様のみ)	バックスイッチの接触は、悪くありませんか。	バックスイッチを確認してください。

状 況	点検箇所	処 置
作業機が下らない	油圧ストップ、スローリターンバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップ、スローリターンバルブを「開」にしてください。
	コントロールバルブがゴミをかんではいませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。
作業機昇降スイッチを「下」にしても、作業機が下らない。	ポジションコントロールレバーが「最上」位置になっていませんか。	ポジションコントロールレバーを最下方向に移動させてください。

4. 電装関係

状 況	点検箇所	処 置
ヘッドランプが点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ソケットから配線が外れていませんか。	点検セットしてください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
フラッシャーランプが点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	フラッシャーユニットが故障していませんか。	フラッシャーユニットを交換してください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
ランプ類が点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	配線の接続が悪くありませんか。	点検し確実に接続してください。
	スイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	アースの状態が悪くありませんか。	アース線を確実に車体に締めつけてください。
	バッテリーが放電していませんか。	充電してください。
ホーンが鳴らない	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ホーンスイッチの接触が悪くありませんか。	ホーンスイッチを確認してください。

5. ロータリ関係

状 況	点検箇所	処 置
エンジンをかけるとロータリが上がり、リリーフ音が出る	リヤカバーが「上」げの状態になっていませんか。	リヤカバーを下げてください。
作業機昇降レバーを、「下」にしても作業機が下らない	ポジションコントロールレバーが最浅位置になっていませんか。	ポジションコンコントロールレバーを、解除方向に移動させてください。

用語解説

あ行

アタッチメント

トラクターに後付けする部品。

安全スイッチ

クラッチを踏まないと、エンジンがかからないようにするためのスイッチ。

安全フレーム

トラクター転倒時、作業者を保護する為の国の検査に合格したフレーム。

OK-UFO

作業機の左右の傾きや耕深をコンピュータにより全自動で行なう装置。

か行

クイックヒッチ

トラクターに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ。

クリーブ

超低速の作業速度。

耕深

耕うんする深さ。

さ行

3点リンク

トラクターに作業機を装着する為の3点で支持を行なうリンク。

サーモスタート

寒冷時、エンジンの始動性を良くする為の補助装置。

下げクッション

作業機が地面に接地する直前に作業機をゆっくり下げることにより、作業機を地面に降ろしたときに生じる、土の盛り上がりやトラクターの思わぬ前進を防止する。

ジェネレータ

エンジンからの動力で電気を発生させる装置。

軸距

前・後タイヤの中心間の距離。

た行

チェックチェーン

トラクターに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェーン。

トップリnk

作業機を装着する3点のリンクの内、作業機の上部をつり下げているリンク。

ドライブシャフト

トラクターの動力を作業機へ伝達する為の軸。

は行

バックアップ装置

主変速又はリバーサレバーを「後進」に入れると自動的に作業機が上昇する装置。

ヒューズブルリンク

電気配線に規定以上の電流が流れた場合に、電気系統の保護を行なう部品。

PTO (パワー テイク オフ)

作業機の動力を取り出すための軸。

や行

揚力

トラクターが作業機を上昇させる為の力。

ら行

リフトアーム

トラクターが作業機を上昇する為のアーム。

リフトリンク

リフトアームとロアリンクを連結しているリンク。

リリース弁

油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁。

輪距

左右のタイヤ中心間の距離。

ロアリンク

作業機を装着する3点のリンクの内、作業機の下部をつり下げているリンクで左右1本ずつある。

仕様

AF-15・AF-16

項 目			形 式		備 考	
			AF-15	AF-16		
重 量	車 両 重 量		720	730	3P付	
	荷重(kg)	前輪	380	380		
		後輪	340	350		
	附荷重量(kg)	後輪				
		本体	30kg × 5		アタッチメント	
機 関 出 力 (PS/prm)			15/2500	16/2500		
形 状			ホイールトラクタ			
車 種			小型特殊自動車			
性 能	走 行 速 度 km/h (m/sec)	前	C 1速	0.14(0.038)	0.16(0.043)	微速仕様
			C 2速	0.21(0.058)	0.23(0.063)	
			C 3速	0.30(0.083)	0.32(0.088)	
			C 4速	0.45(0.125)	0.49(0.136)	
		進	1速	0.76(0.211)	0.81(0.225)	
			2速	1.10(0.305)	1.18(0.327)	
			3速	1.55(0.431)	1.67(0.464)	
			4速	2.36(0.656)	2.54(0.706)	
			5速	3.78(1.050)	4.06(1.128)	
			6速	5.51(1.531)	5.92(1.644)	
			7速	7.77(2.139)	8.35(2.319)	
			8速	11.81(3.281)	12.69(3.525)	
		後	CR 1速	0.13(0.036)	0.14(0.038)	微速仕様
			CR 2速	0.19(0.052)	0.20(0.055)	
			CR 3速	0.27(0.075)	0.29(0.080)	
			CR 4速	0.41(0.114)	0.44(0.122)	
		進	R 1速	0.68(0.189)	0.73(0.203)	
			R 2速	0.99(0.275)	1.06(0.294)	
			R 3速	1.40(0.389)	1.50(0.417)	
			R 4速	2.12(0.589)	2.30(0.639)	
	R 5速		3.40(0.944)	3.65(1.014)		
	R 6速		4.95(1.375)	5.32(1.478)		
	R 7速		6.98(1.939)	7.50(2.080)		
	R 8速		10.61(2.947)	11.40(3.167)		

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

※走行速度はハイラグタイヤ仕様

項 目			形 式		備 考
			AF-15	AF-16	
機 体 寸 法	全 長 (mm)		2620		ロアリンクまで
	全幅 (標準仕様) (mm)		1050	1070	後輪タイヤ
	全 高 (mm)		1835	1855	
	軸 距 (mm)		1350		
	輪 距	前輪 (mm)	820	850	
		後輪 (mm)	810	830	
	最低地上高 (mm)		290	300	
機 関	銘 柄 型 式		3TNA72-UIA	3TNA72-UIIN	
	種 類		ディーゼル		
	冷 却 方 式		水冷ラジエタ		
	シリンダ数		3		
	内径×行程 (mm)		72×72		
	総排気量 (cc)		879		
	燃料系統	噴射ポンプ	ボッシュインライン式		
		噴射弁形式	スロットル式		
		燃 料	ヤンマー重油または、ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量 (ℓ)		20		
潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式			
	潤滑油量 (ℓ)	2.4			
	冷 却 水 量 (ℓ)	4		サブタンク仕様	
	電気系統	充電発電機 (V-W)	12-240		
始動発電機 (V-KW)		12-0.8			
蓄 電 池 (V-Ah)		12-45			
動力伝動部	主クラッチ		乾式単板		
	変速機潤滑油量 (ℓ)		20		
	差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)		
	終減速機形式		平歯車		
走行装置	車輪	前 輪	5.00-12	6-12	
		後 輪	8-18	8.3-20	
	かじ取装置		ボールスクリュー式またはインテグラルパワーステア		
	足ブレーキ		湿式ディスクブレーキ		
	駐車ブレーキ		ペダルロック式		
運転装置	計器類及び照明装置		アワメータ、水温計、フラッシュパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、サーモパイロットランプ、リフトアップランプ		
動力取出軸	回 転 方 向		右回り(軸に向かって)		
	軸 寸 法 (mm)		JIS 35		
	軸回転速度 (rpm)	正 転	558、805、1228		
		逆 転	745		
その他駆動部		なし			
作業装置	けん引装置形式		ピン固定式		オプション
	装着装置の種類規格		特 3 P		
	標準ロータリ耕幅 (mm)		RSA1404:1400、RCA1304:1300		
	油圧制御方式		ポジションコントロール付		
安全フレーム		2柱式			

AF-17・AF-18

項 目			形 式		備 考	
			AF-17	AF-18		
重 量	車 両 重 量		740	750	3P付	
	荷 重 (kg)	前 輪	390	390		
		後 輪	350	360		
	附 荷 重 量 (kg)	後 輪				
本 体		30kg × 5			アタッチメント	
機 関 出 力 (PS/prm)			17/2500	18/2500		
形 状			ホイールトラクタ			
車 種			小型特殊自動車			
性 能	走 行 速 度 km/h (m/sec)	前	C 1速	0.16(0.043)	0.17(0.046)	微速仕様
			C 2速	0.23(0.063)	0.24(0.066)	
			C 3速	0.32(0.088)	0.34(0.094)	
			C 4速	0.49(0.136)	0.52(0.144)	
		進	1速	0.81(0.225)	0.87(0.242)	
			2速	1.18(0.327)	1.27(0.353)	
			3速	1.67(0.464)	1.79(0.497)	
			4速	2.54(0.706)	2.71(0.753)	
			5速	4.06(1.128)	4.34(1.206)	
			6速	5.92(1.644)	6.33(1.758)	
			7速	8.35(2.319)	8.93(2.481)	
			8速	12.69(3.525)	13.56(3.767)	
		後	CR 1速	0.14(0.038)	0.15(0.041)	微速仕様
			CR 2速	0.20(0.055)	0.22(0.061)	
			CR 3速	0.29(0.080)	0.31(0.086)	
			CR 4速	0.44(0.122)	0.47(0.130)	
		進	R 1速	0.73(0.203)	0.78(0.217)	
			R 2速	1.06(0.294)	1.14(0.317)	
			R 3速	1.50(0.417)	1.60(0.444)	
			R 4速	2.30(0.639)	2.44(0.678)	
			R 5速	3.65(1.014)	3.90(1.083)	
			R 6速	5.32(1.478)	5.69(1.581)	
			R 7速	7.50(2.083)	8.02(2.228)	
			R 8速	11.40(3.167)	12.18(3.383)	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

※走行速度はハイラグタイヤ仕様

項 目			形 式		備 考
			AF-17	AF-18	
機 体 寸 法	全 長 (mm)		2620		ロアリンクまで
	全幅 (標準仕様) (mm)		1070	1100	後輪タイヤ
	全 高 (mm)		1855	1885	
	軸 距 (mm)		1350		
	輪 距	前輪 (mm)	850	850	
		後輪 (mm)	830	860	
	最低地上高 (mm)		300	330	
機 関	銘 柄 型 式		3TNE74-UIA	3TNE74-UIIN	
	種 類		ディーゼル		
	冷 却 方 式		水冷ラジエタ		
	シリンダ数		3		
	内径×行程 (mm)		74×78		
	総 排 気 量 (cc)		1006		
	燃料 系統	噴射ポンプ	ボッシュインライン式		
		噴射弁形式	スロットル式		
		燃 料	ヤンマー重油または、ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量 (ℓ)		20		
	潤滑 系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式		
		潤滑油量 (ℓ)	2.4		
	冷 却 水 量 (ℓ)		4		サブタンク仕様
	電 気 系統	充電発電機 (V-W)	12-240		
始動発電機 (V-KW)		12-0.9			
蓄 電 池 (V-Ah)		12-45			
動 力 伝 動 部	主クラッチ		乾式単板		
	変速機潤滑油量 (ℓ)		20		
	差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)		
	終減速機形式		平歯車		
走 行 装 置	車 輪	前 輪	6-12	6.00-12	
		後 輪	8.3-20	8.3-22	
	かじ取装置		ボールスクリーユークまたは インテグラルバウスダ		
	足ブレーキ		湿式ディスクブレーキ		
	駐車ブレーキ		ペダルロック式		
運 転 装 置	計器類及び照明装置		アフメータ、水温計、フラッシュパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、サーモパイロットランプ、リフトアップランプ		
動 力 取 出 軸	回 転 方 向		右回り(軸に向かって)		
	軸 寸 法 (mm)		JIS 35		
	軸回転速度 (rpm)	正転	558、805、1228		
		逆転	745		
	その他駆動部		なし		
作 業 装 置	けん引装置形式		ビン固定式		オプション
	装置装置の種類規格		特 3 P		
	標準ロータリ耕幅 (mm)		RSA1404:1400、RCA1304:1300		
	油圧制御方式		ポジションコントロール付		
安全フレーム			2柱式		

AF-16・AF-18 (Limited仕様)

項 目			形 式		備 考
			AF-16	AF-18	
重 量	車 両 重 量		720	740	3P付
	荷重(kg)	前輪	380	390	
		後輪	340	350	
	量	附荷重量 (kg)	後輪		
本体			30kg×5		アタッチメント
機 関 出 力 (PS/prm)			16/2500	18/2500	
形 状			ホイールトラクタ		
車 種			小型特殊自動車		
性 能	走 行 速 度 km/h (m/sec)	前 進			
			1速	0.76(0.211)	0.81(0.225)
			2速	1.10(0.305)	1.18(0.327)
			3速	1.55(0.431)	1.67(0.464)
			4速	2.36(0.656)	2.54(0.706)
			5速	3.78(1.050)	4.06(1.128)
		後 進			
			R 1速	0.68(0.189)	0.73(0.203)
			R 2速	0.99(0.275)	1.06(0.294)
			R 3速	1.40(0.389)	1.50(0.417)
			R 4速	2.12(0.589)	2.30(0.639)
前 進	R 5速	3.40(0.944)	3.65(1.014)		
	R 6速	4.95(1.375)	5.32(1.478)		
	R 7速	6.98(1.939)	7.50(2.028)		
	R 8速	10.61(2.947)	11.40(3.167)		

*この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

*走行速度はハイグタイヤ仕様

項 目			形 式		備 考
			AF-16	AF-18	
機 体 寸 法	全 長 (mm)	2620		ロアリンクまで	
	全幅(標準仕様) (mm)	1050	1070	後輪タイヤ	
	全 高 (mm)	1835	1855		
	軸 距 (mm)	1350			
	輪 距	前輪 (mm)	820	850	
		後輪 (mm)	810	830	
	最低地上高 (mm)	290	300		
機 関	銘柄型式	3TNA72-UIA	3TNE74-UIIN		
	種 類	ディーゼル			
	冷却方式	水冷ラジエタ			
	シリンダ数	3			
	内径×行程 (mm)	72×72	74×78		
	総排気量 (cc)	876	1006		
	燃料系統	噴射ポンプ	ボッシュインライン式		
		噴射弁形式	スロットル式		
		燃 料	ヤンマー重油または、ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量 (ℓ)	20			
潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式			
	潤滑油量 (ℓ)	2.4			
	冷却水量 (ℓ)	4		サブタンク仕様	
電気系統	充電発電機 (V-W)	12-240			
	始動発電機 (V-KW)	12-0.9			
	蓄電池 (V-Ah)	12-45			
動力伝動部	主クラッチ	乾式単板			
	変速機潤滑油量 (ℓ)	20			
	差動装置形式	傘歯車式(デフロック付)			
	終減速機形式	平歯車			
走行装置	車輪	前 輪	5.00-12	6-12	
		後 輪	8-18	8.3-20	
	かじ取装置	ボールスクリュー式またはインテグラルパワーステア			
	足ブレーキ	湿式ディスクブレーキ			
	駐車ブレーキ	ペダルロック式			
運転装置	計器類及び照明装置	アワメータ、水温計、フラッシュパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、サーモパイロットランプ			
動力取出軸	回転方向	右回り(軸に向かって)			
	軸 寸 法 (mm)	JIS 35			
		軸回転速度 (rpm)	正転	558、805、1228	
		その他駆動部	逆転		
	けん引装置形式	ピン固定式		オプション	
作業降機装置	装置設置の様式規格	特 3 P			
	標準ロータリ耕幅 (mm)	RSA1404:1400、RCA1304:1300			
	油圧制御方式	ポジションコントロール付			
安全フレーム		2柱式			

AF-15・AF-17 果樹園仕様

項 目		形 式		備 考	
		AF-15	AF-17		
重 量	車 両 重 量	710	730	3P付	
	荷重(kg)	前輪	380	390	
		後輪	330	340	
	量	附荷重量 (kg)	後輪		
本体			30kg×5	アタッチメント	
機 関 出 力 (PS/prm)		15/2500	17/2500		
形 状		ホイールトラクタ			
車 種		小型特殊自動車			
性 能	走 行 速 度 km/h (m/sec)	前 進			
			1速	0.72(0.200)	0.76(0.211)
			2速	1.04(0.289)	1.10(0.305)
			3速	1.47(0.408)	1.55(0.431)
			4速	2.24(0.622)	2.36(0.656)
			5速	3.80(1.056)	4.00(1.111)
			6速	5.54(1.539)	5.83(1.619)
		7速	7.82(2.172)	8.23(2.286)	
		8速	11.89(3.303)	12.50(3.472)	
		後 進			
			R 1速	0.64(0.178)	0.68(0.189)
			R 2速	0.94(0.261)	0.99(0.275)
	R 3速		1.33(0.369)	1.40(0.389)	
R 4速	2.02(0.611)		2.12(0.589)		
R 5速	3.42(0.950)		3.60(1.000)		
R 6速	4.98(1.383)	5.24(1.456)			
R 7速	7.03(1.953)	7.39(2.053)			
R 8速	10.68(2.967)	11.24(3.122)			

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。
※走行速度はハイラックタイヤ仕様

項 目		形 式		備 考
		AF-15	AF-17	
機 体 寸 法	全 長 (mm)	2620		ロアリンクまで
	全幅(標準仕様) (mm)	1050		後輪タイヤ
	全 高 (mm)	1805	1835	
	軸 距 (mm)	1350		
	前 輪 (mm)	850	820	
	後 輪 (mm)	810	810	
	最低地上高 (mm)	260	290	
	銘 柄 型 式	3TNA72-UIA	3TNE74-UIH	
	種 類	ディーゼル		
	冷 却 方 式	水冷ラジエタ		
機 関	シリンダ数	3		
	内径×行程 (mm)	72×72	74×78	
	総 排 気 量 (cc)	879	1006	
	燃料系統	ボッシュインライン式		
	燃料系統	スロットル式		
	燃 料	ヤンマー重油または、ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量 (ℓ)	20		
	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式		
	潤滑油量 (ℓ)	2.4		
	冷 却 水 量 (ℓ)	4		サフタンク仕様
電 気 系 統	充電発電機 (V-W)	12-240		
	始動発電機 (V-KW)	12-0.9		
	蓄 電 池 (V-Ah)	12-45		
	主クラッチ	乾式単板		
	変速機潤滑油量 (ℓ)	20		
	差動装置形式	傘歯車式(デフロック付)		
	終減速機形式	平歯車		
	車 輪	前 輪	5-12	5.00-12
	後 輪	8-16	8-18	
	かじ取装置	ボールスクリーナー式またはインテグラルパワーステア		
走 行 装 置	足ブレーキ	湿式ディスクブレーキ		
	駐車ブレーキ	ペダルロック式		
	運 転 装 置	アワメータ、水温計、フラッシュバイロットランプ、チャージバイロットランプ、オイルバイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、サーモバイロットランプ		
	回 転 方 向	右回り(軸に向かって)		
	軸 寸 法 (mm)	JIS 35		
	軸回転速度 (rpm)	正 転	558、805、1228	
	逆 転	745		
	その他駆動部	なし		
	けん引装置形式	ピン固定式		オプション
	作 業 装 置	特 3 P		
安 全 フ レ ー ム	標準ロータリ耕幅 (mm)	RSA1404:1400、RCA1304:1300		
	油圧制御方式	ポジションコントロール付		
安全フレーム		2柱式		

AF-16・AF-18 (ターフ仕様)

項 目			形 式		備 考
			AF-16	AF-18	
重 量	車 両 重 量		715	725	3P付
	荷重(kg)	前輪	365	370	
		後輪	350	355	
	附荷重量(kg)	後輪			
		本体	15 kg × 5		アタッチメント
機 関 出 力 (PS/prm)			16/2500	18/2500	
形 状			ホイールトラクタ		
車 種			小型特殊自動車		
性 能	走 行 速 度 km/h	前			
		進	1速	0.70	
			2速	1.03	
			3速	1.45	
			4速	2.20	
			5速	3.53	
			6速	5.14	
			7速	7.25	
			8速	11.01	
		後 進			
R 1速	0.63				
R 2速	0.92				
R 3速	1.30				
R 4速	1.98				
R 5速	3.17				
R 6速	4.62				
R 7速	6.51				
R 8速	9.89				

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

項 目		形 式		備 考
		AF-16	AF-18	
機 体 寸 法	全 長 (mm)	2620		ロアリンクまで
	全 幅 (標準仕様) (mm)	1245		後輪タイヤ
	全 高 (mm)	1800		
	軸 距 (mm)	1350		
	輪 距 (mm)	前 輪 (mm)	950	
		後 輪 (mm)	900	
	最低地上高 (mm)	250		
	銘 柄 型 式	3TNA72-UIA	3TNE74-UIIN	
	種 類	ディーゼル		
	冷 却 方 式	水冷ラジエタ		
機 関	シリンダ数	3		
	内 径 × 行 程 (mm)	72×72	74×78	
	総 排 気 量 (cc)	879	1006	
	燃 料 系 統	噴射ポンプ	ボッシュインライン式	
		噴射弁形式	スロットル式	
		燃 料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量 (ℓ)	20		
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式	
		潤滑油量 (ℓ)	2.3	
	冷 却 水 量 (ℓ)	3		サフタンク仕様
動 力 伝 動 部	電 気 系 統	充電発電機 (V-W)	12-240	
		始動発電機 (V-KW)	12-0.9	
		蓄 電 池 (V-Ah)	12-45	
	主クラッチ	乾式単板		
	変速機潤滑油量 (ℓ)	19.5		
	差動装置形式	傘歯車式(デフロック付)		
	終減速機形式	平衡車		
	車 輪	前 輪	20.5×8.00-10	
		後 輪	31×13.5-15	
	かじ取装置	インテグラルパワステ		
走 行 装 置	足ブレーキ	湿式ディスクブレーキ		
	駐車ブレーキ	ペダルロック式		
	運 転 装 置	アワメータ、水温計、フラッシュパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、サーモパイロットランプ		
		計器類及び照明装置		
	回 転 方 向	右回り(軸に向かって)		
	軸 寸 法 (mm)	JIS 35		
		正 転	558、805、1228	
		逆 転	なし	
	その他駆動部	なし		
	けん引装置形式	ピン固定式		オプション
作 業 装 置	装置装置の種類規格	特 3 P		
	標準ロータリ耕幅 (mm)			
	油圧制御方式	ポジションコントロール付		
安 全 フ レ ー ム		2 柱 式		

標準付属品

品 名	個 数
工 具 箱	1
差換えドライバー	1
ス パ ナ 8×10	1
ス パ ナ 12×14	1
ス パ ナ 17×19	1
ブライヤー 150	1
メ ガ ネ 17×19	1
グリースポンプ	1
取扱説明書	1
保 証 書	1
PTOシャフトカバー	1

国検検査成績表

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表



型式名: ヤンマー AF-18

合格番号: 9 2 0 7 5

種類: 安全フレーム(2柱式)

依頼者名: ヤンマー農機株式会社

住所: 大阪府大阪市北区茶屋町1番32号

I 装着可能トラクター

1. 型式名

ヤンマー AF-18

ヤンマー AF-17

ヤンマー AF-16

ヤンマー AF-15

2. 主要諸元(最大及び最小トラクター)

■型式名	: ヤンマー AF-18	ヤンマー AF-15
■種類	: 4輪駆動	4輪駆動
■質量(フレーム付き)	kg: 759	723
■軸距	mm: 1350	1350
■機関出力/回転数 kW{PS}/rpm	13.3{18}/2500	11.1{15}/2500

II 構造の概要

1. 構造及び装着法

供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり、防振ゴム・取付金具を介して後車軸ケース部及びシリンダーケース部にボルトで装着。

なお、格納等のためにフレーム上部を折り曲げることができる。

2. 主な装備

シートベルト(2点式)

3. 主要寸法※

■座席基準点から屋根部材(下面)までの高さ	: 90.5 cm
■フットプレートから屋根部材(下面)までの高さ	: 132.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅	: 67.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅	: — cm
■戸口の幅	(上部): — cm
	(中部): — cm
	(下部): — cm
■戸口の高さ	(フットプレートから): — cm
■最低位ステップの高さ	(フットプレートの高さ): 51.5 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高	(屋根部材上面まで): 189.0 cm
■フレームの全幅	: 81.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離	: 23.5 cm

※1. ヤンマー AF-18 (タイヤサイズ: 前輪6.00-12 後輪8.3-22) に装着時。

2. トラクターシートは、規格型式: 難波プレス工業, X-173

4. 主要材料

- 主 フ レ ー ム： STKR 400, STKM 12B, SS 400, SPHC
- 装 着 ブ ラ ケ ッ ト： SS 400
- 組 立 ・ 装 着 ボ ル ト： S45C

III 検 査 成 績

1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、フレームの後部右側、側部左側に対して実施。

- 基 準 質 量： 800 kg
- 所要吸収エネルギー： 後部負荷 1.29 kJ{ 131 kgf・m}
側部負荷 2.23 kJ{ 228 kgf・m}
- 圧 壊 力： 11.77 kN{1200 kgf}

2) 試験後のフレームの永久変位

- 後 部 (前 方 へ)： 右側 9.0 cm 左側 8.5 cm
- 側 部 (右側方へ)： 12.5 cm
- 上 部 (下 方 へ)： 右側 2.0 cm 左側 -1.0 cm

3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差： 10.0 cm

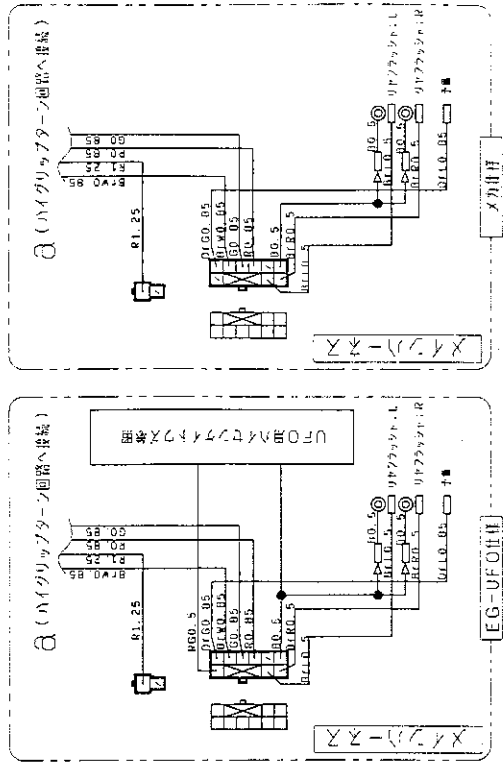
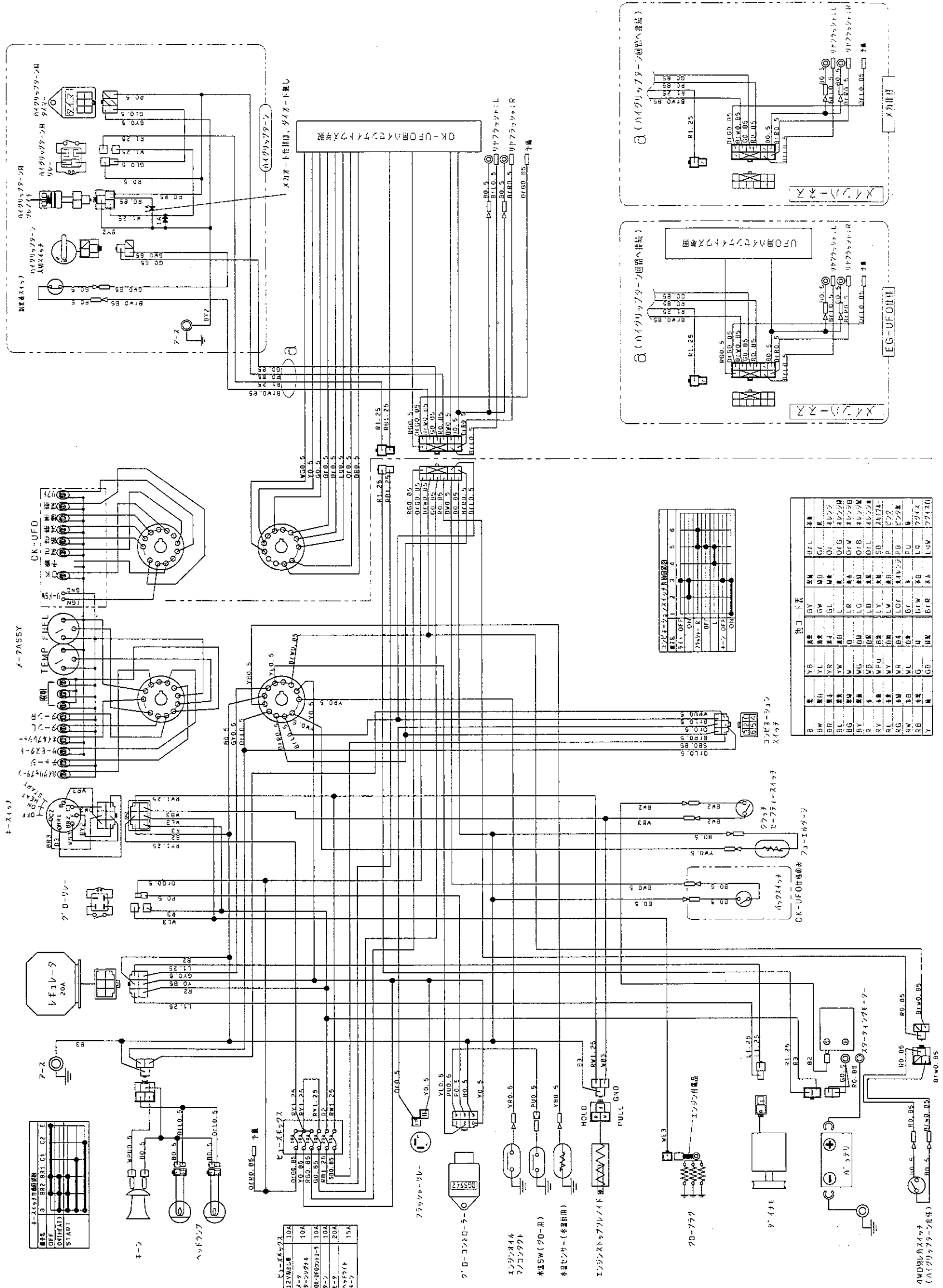
2. 騒 音※

- 85 dBA [ヤンマー AF-18] 85 dBA [ヤンマー AF-15]

※ 7.5km/h に近い速度段で、けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音、運転者の耳もと

IV 付 記

強度試験は、コード II により実施した。



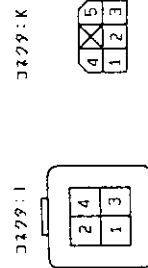
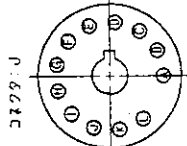
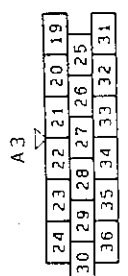
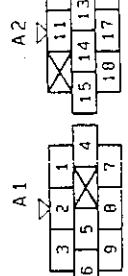
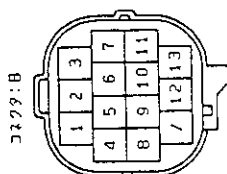
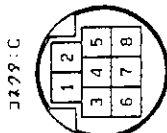
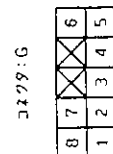
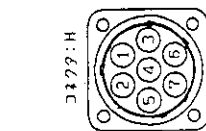
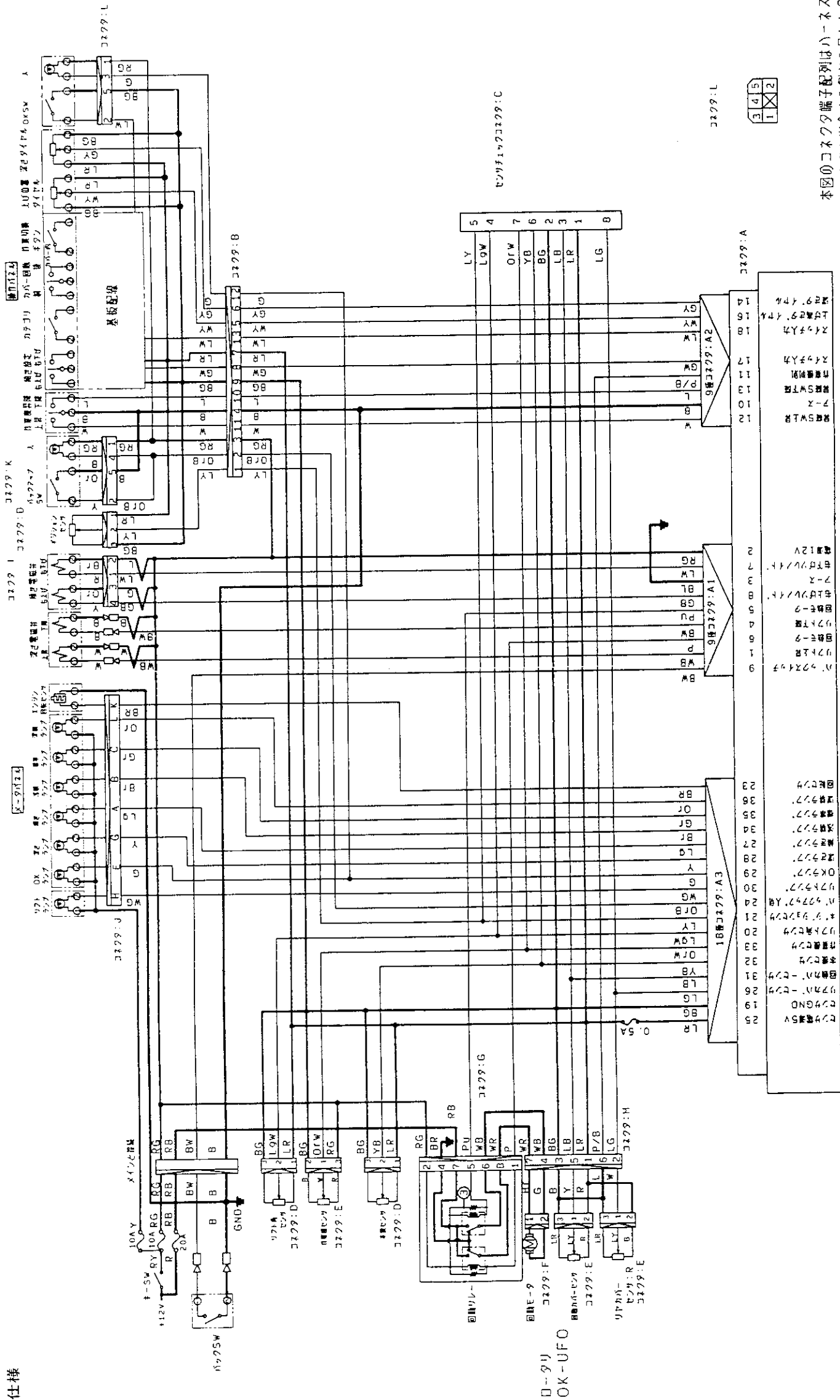
コンパネスイッチの接続表

スイッチ	1	2	3	4	5	6
ON/OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
7/8/9/10	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF

色コード表

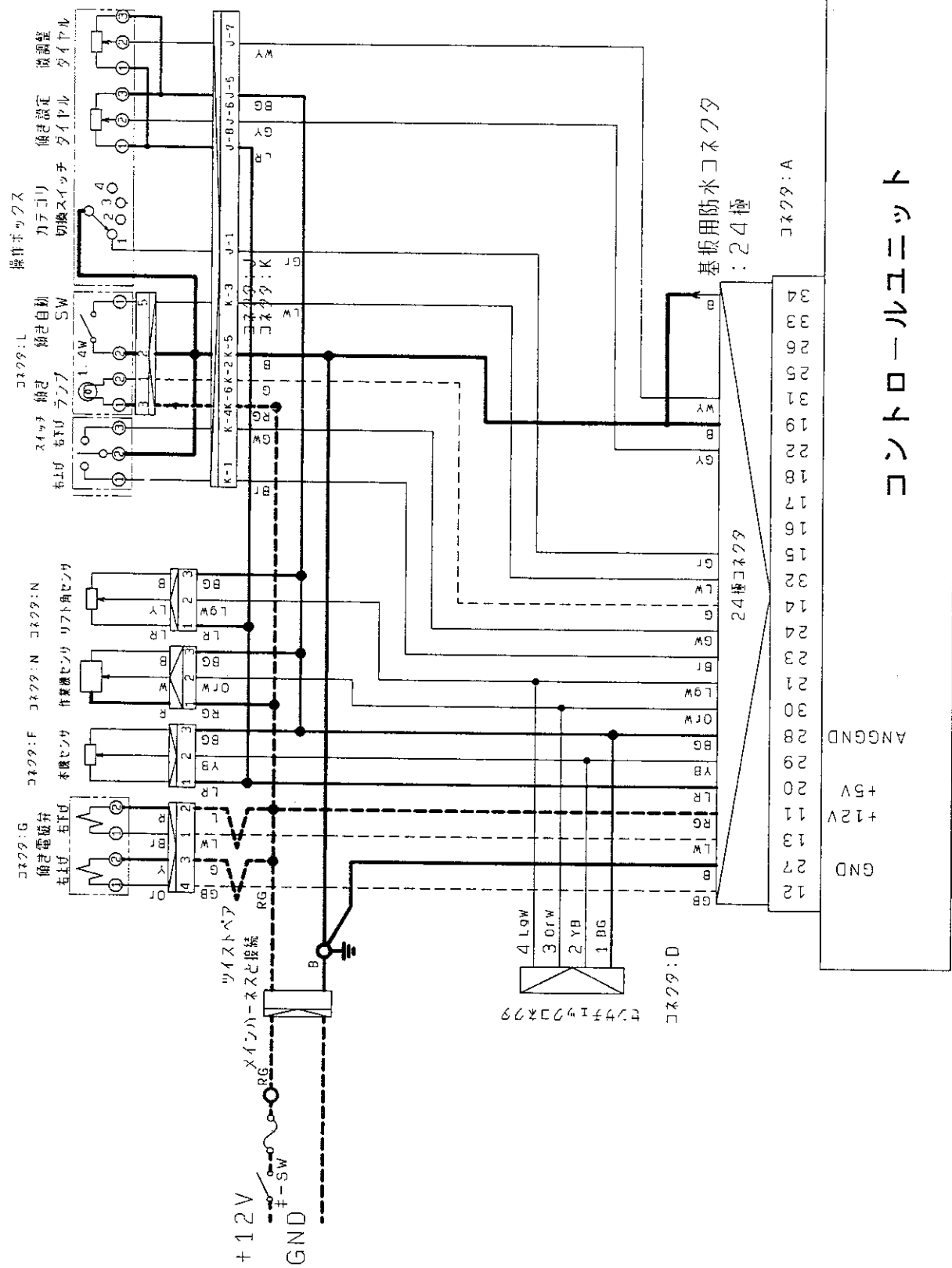
色	記号	色	記号	色	記号
黒	BL	青	BLU	赤	RED
白	WH	緑	GRN	黄	YEL
紫	PRP	茶	BRN	灰	GRY
金	GLD	銀	SIL	銅	COP

OK-UFO仕様



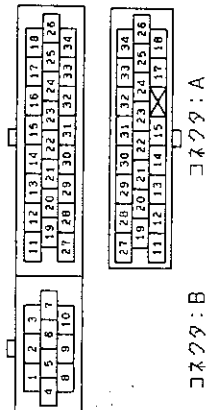
本図のコネクタ端子配列はハーネスのコネクタを嵌合する側から見たものである

EG-UFO仕様



本図のコネクタ端子配列はメインハーネスのコネクタを嵌合する側から見たものである

コントローラ側の端子配列



型式

製造
No.

ヤンマー農機株式会社

本社 〒530 大阪市北区茶屋町1番32号
 札幌支店 〒060 札幌市中央区北4条西2丁目1番地の3
 電話 (011)221-6138 FAX (011)221-6235
 仙台支店 〒983 仙台市若林区六丁の目元町16番1号
 電話 (022)288-7711 FAX (022)288-8972
 東京支店 〒362 上尾市春日1丁目32番1号
 電話 (048)776-3211 FAX (048)776-3888
 新潟支店 〒940 長岡市城岡3丁目31番3号
 電話 (0258)24-7920 FAX (0258)24-6114
 金沢支店 〒920-01 金沢市今町ワ48番地
 電話 (0762)57-3800 FAX (0762)57-6410
 名古屋支店 〒450 名古屋市中村区名駅3丁目14番16号(東洋ビルディング6階)
 電話 (052)571-1177 FAX (052)571-2620
 大阪支店 〒530 大阪市北区茶屋町1番32号
 電話 (06)376-6355 FAX (06)372-1165・(06)372-2455
 大阪サービスセンター
 〒660 尼崎市西高洲町16番地44
 電話 (06)411-5551 FAX (06)411-5666
 岡山サービスセンター
 〒702 岡山市藤崎570-1
 電話 (086)276-8171 FAX (086)276-8174
 四国サービスセンター
 〒763 丸亀市土器北2丁目43番地
 電話 (0877)22-3165 FAX (0877)22-3166
 福岡支店 〒812 福岡市博多区博多駅前3丁目2番1号(日本生命ビル4階)
 電話 (092)441-0922 FAX (092)481-3477

お客様メモ

購入日 平成 年 月 日

購入店名